

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 2 2 号

2 0 2 0 年

(2019年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的实践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。

- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

- ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目 次

I. 2019年度を振り返る

1. 2019年度 社会福祉学部活動概括 1
2. 2019年度 社会福祉学部の主要行事 3
3. 2019年度 社会福祉学部時間割 4

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

| | |
|---------------------------|----|
| 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2019年度） | 6 |
| 1. 杉 原 俊 二 | 8 |
| 2. 田 中 き よ む | 12 |
| 3. 長 澤 紀 美 子 | 16 |
| 4. 西 内 章 | 20 |
| 5. 丸 山 裕 子 | 23 |
| 6. 宮 上 多 加 子 | 24 |
| 7. 横 井 輝 夫 | 26 |
| 8. 大 松 重 宏 | 28 |
| 9. 鈴 木 孝 典 | 30 |
| 10. 西 梅 幸 治 | 33 |
| 11. 福 間 隆 康 | 35 |
| 12. 三 好 弥 生 | 37 |
| 13. 加 藤 由 衣 | 39 |
| 14. 河 内 康 文 | 41 |
| 15. 辻 真 美 | 43 |
| 16. 遠 山 真 世 | 45 |
| 17. 行 貞 伸 二 | 47 |
| 18. 稲 垣 佳 代 | 49 |
| 19. 大 熊 絵 理 菜 | 51 |
| 20. 片 岡 妙 子 | 53 |
| 21. 雑 賀 正 彦 | 55 |
| 22. 田 中 真 希 | 57 |
| 23. 玉 利 麻 紀 | 59 |
| 24. 福 田 敏 秀 | 61 |

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

| | |
|------------------------------|----|
| 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2019年度） | 63 |
| 1. 教 務 委 員 会 | 64 |
| 2. 入 試 委 員 会 | 66 |
| 3. 学 生 委 員 会 | 68 |
| 4. 実 習 委 員 会 | 69 |
| 5. 就 職 委 員 会 | 71 |
| 6. 広 報 委 員 会 | 72 |
| 7. 介 護 人 材 確 保 部 会 | 73 |
| 8. キャリア支援委員会 | 81 |
| 9. 健康長寿センター | 83 |
| 10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 | 84 |
| 11. 災害対策プロジェクト | 88 |
| 12. 総務・予算委員会 | 90 |
| 13. 国試対策支援委員会 | 91 |

Ⅳ. 学生を中心とした活動

| | |
|-------------------------|-----|
| 1. 国家試験に向けての取り組み | 93 |
| 2. 学外イベントへの参加 | 94 |
| 3. 太 鼓 部 | 95 |
| 4. 池 手 話 サ ー ク ル | 96 |
| 5. イ ケ あ い | 97 |
| 6. ハ モ ☆ イ ケ | 98 |
| 7. か ん き も ん | 99 |
| 8. P シ ス タ ー ズ | 100 |
| 9. Society For Everyone | 101 |
| 10. ボランテニア活動 | 102 |

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2019年度）

編 集 後 記

I

2019年度を振り返る

2019年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

1. 教員体制

- 2019年度は、4月1日付で新任教員3名（大松准教授、辻講師、行貞講師）が加わり、教員数24名となった。また、福間講師と加藤助教の昇任（4月1日付）により、職位構成は教授7名、准教授5名、講師5名、助教7名。
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

2. 教育

- ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいた学修成果の評価指標を作成し、指標に対応させた学習到達度評価アンケートを一部修正して4回生に実施。これらのポリシーは、新年度の学部ガイダンス資料で周知。
- 8月から10月にかけて3回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行った。実習先担当者を招いて行う実習連絡協議会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。
- 介護・社会福祉コース4回生が2018年度に実施した介護実習Ⅲの介護福祉事例研究報告会を7月に開催、実習先担当者を招いての実習連絡協議会を7月に開催。2回生の介護実習Ⅱを8月から9月にかけて行い、10月に実習報告会を開催。1回生の介護実習Ⅰと3回生の介護実習Ⅲを2月から開始したが、新型コロナウイルス感染拡大のため実習期間の途中で中止となった。
- 4回生の卒業研究では、4月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

3. 研究

- 研究成果としては著書6編（共著）、査読付論文13編、その他論文等28編、学会発表等27件。
- 『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第69巻に6編掲載。
- 科学研究費は平成31年度10件応募、3件採択で採択率30.0%、令和2年度は11件応募。
- 科研費等での他大学教員との共同研究は、研究分担者3名。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- 自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第20号を作成・公表。
- 研究・教育面での学部FD研修会を2回開催。

5. 2019年度入学生と2020年度入学試験

- 4月に第22期生76名（県内出身32名、男子9名、私費外国人1名）が入学。
- 推薦入試では、県内枠への志願者が22名(-6)で志願倍率1.1倍、全国枠は32名(+3)で3.2倍。県内枠出願者は昨年度より減少。
- 一般入試の志願者数は、前期日程で倍増、後期日程はほぼ同数となった。前期日程が164名(+76)で志願倍率4.7倍、合格倍率3.5倍、後期日程が135名(-3)で志願倍率27.0倍、合格倍率13.4倍。
- 私費外国人入試に3名の応募があり、2名合格し入学者2名。社会人入試には応募者なし。

6. 卒業生と就職状況

- ・3月に第19期生71名（男子6名）が卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職・進学希望者63名の内60名（95%）の就職が3月末までに決定。
- ・就職先・進路の内訳は、医療機関33%、福祉施設等30%、社会福祉協議会8%、公務員等19%、一般企業5%、未定5%。

7. 3 福祉士資格と国家試験

- ・国試対策支援委員会が4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の模擬試験を実施。
- ・国試合宿勉強会を1月に2泊3日で実施。いの町の高知県立高知青少年の家を利用し、4回生26名が参加。
- ・1月末に実施された第32回介護福祉士国家試験に12名が受験して12名が合格（合格率100.0%/平均69.9%）。2月初めに実施された第32回社会福祉士国家試験に70名受験して55名合格（合格率78.6%/平均29.3%）、第22回精神保健福祉士国家試験に16名受験して15名合格（合格率93.8%/平均62.1%）。
- ・新卒の合格率は、社会福祉士（受験者50人以上の福祉系大学等）が51校中5位、精神保健福祉士は94校中17位。

8. 地域貢献活動・卒業生への支援

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月にかけて開催、延べ66名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパスを7月30日（日）に開催し、社会福祉学部の参加者246名（うち高校生152名）。
- ・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7月29日、9月29日、10月26日に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計196名参加。学部提案型出前講座を高知南高校、高知北高校、丸の内高校、岡豊高校、山田高校、安芸高校、高知農業高校で実施し、参加者数は合計99名。
- ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。
- ・卒業生に対する支援として2015年度より実施している領域別リカレント研究会は、継続的に3分野で実施し、のべ46名が参加。

9. 広報活動

- ・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2019版を作成。
- ・学部の入試広報担当者を中心に高知県内の高校12校、県外の高校5校に訪問。学部の説明を行うとともに、各校の進路希望状況について情報収集。
- ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の学生6名が夏休み期間中に出身高校を訪問。

10. 国際交流活動

- ・韓国短期研修（木浦大学校）に2回生1名が参加。
- ・長期留学（韓国・慶南科学技術大学校、台湾・文藻外語大学）に4回生が各1名、計2名留学中。
- ・韓国・慶南科学技術大学校から外国人研究員の受入（2020年3月より1年間）。

2019年度社会福祉学部の主要行事

| | | |
|-----|-------------|-------------------------------|
| 4月 | 2日(火) | 第1回連絡会・教授会 |
| | 4日(木) | 入学式(県民文化ホール、22期生76名) |
| | 5-6日(金-月) | 学生ガイダンス |
| | 8日(月) | 第2回連絡会・教授会 |
| | 9日(火) | 前期授業開始(～8月7日) |
| | 20日(土) | 新入生バスハイク(県立香北青少年の家) |
| | 22日(月) | 第3回連絡会・教授会 |
| | 24日(水) | 卒業研究構想発表会 |
| 5月 | 13日(月) | 介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会 |
| | 27日(月) | 第4回連絡会・教授会 |
| 6月 | 24日(月) | 第5回連絡会・教授会 |
| 7月 | 1日(月) | 学年間交流会 |
| | 5日(金) | 第6回連絡会・教授会 |
| | 22日(月) | 第7回連絡会・教授会 |
| | 27日(土) | 県大生と行く!職場見学ツアー |
| | 28日(日) | オープンキャンパス |
| | 29日(月) | 介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅲ)報告会 |
| 8月 | 27日(火) | 第8回連絡会・教授会 |
| 9月 | 18日(水) | 第9回連絡会・教授会 |
| | 25日(水) | 第10回連絡会・教授会 |
| | 29日(土) | 卒業生と行く!職場見学ツアー |
| 10月 | 1日(火) | 後期授業開始(～2月20日) |
| | 26日(土) | 高校生と保護者のための公開講座/第1回リカレント教育講座 |
| | 28日(月) | 第11回連絡会・教授会 |
| | 30日(水) | 卒業研究中間発表会 |
| 11月 | 11日(月) | 第12回連絡会・教授会 |
| | 16-17日(土-日) | 推薦入学試験・社会人入学試験 |
| | 25日(月) | 第13回連絡会・教授会/第14回連絡会・教授会 |
| | 30(土) | 第2回リカレント教育講座 |
| 12月 | 7日(土) | 第3回リカレント教育講座 |
| | 21日(土) | 第4回リカレント教育講座 |
| | 23日(月) | 第15回連絡会・教授会 |
| 1月 | 6-8日(月-水) | 国家試験合宿勉強会(高知青少年の家:いの町) |
| | 17日(金) | 第16回連絡会・教授会 |
| | 26日(日) | 第32回介護福祉士国家試験 |
| | 27日(月) | 第17回連絡会・教授会 |
| | 30日(木) | 相談援助実習報告会/第18回連絡会・教授会 |
| 2月 | 1-2日(土-日) | 第32回社会福祉士国家試験・第22回精神保健福祉士国家試験 |
| | 7日(金) | 卒業研究発表会/4回生を送る会 |
| | 17日(月) | 第19回連絡会・教授会 |
| | 25-26日(火-水) | 前期日程入学試験/私費外国人入学試験 |
| 3月 | 4日(水) | 第20回連絡会・教授会 |
| | 12日(火) | 後期日程入学試験 |
| | 19日(木) | 卒業式(学内、19期71名卒業)/第21回連絡会・教授会 |
| | 23日(月) | 第22回連絡会・教授会 |

令和元年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

| 月 | 1時限 | | 2時限 | | 3時限 | | 4時限 | | 5時限 | | | | | | |
|---|-------------------|---------------------|--------------------------|-----------------------|--------------|------------------|---------------------------------|--------------------|----------------------------------|-----------------------------|----------------|----------------------|-------------------------|----------|--------------|
| | 8:50~10:20 | 教員 (別途記載) 宇都宮 | 教室 | 10:30~12:00 | 教員 (別途記載) | 教室 | 13:00~14:30 | 教員 廣内・荒牧 | 教室 A306 | 14:40~16:10 | 教員 | 教室 | 16:20~17:50 | 教員 | 教室 |
| 1 | 英語コミニ基礎P 地域学概論 | | | 英語コミュニケーションIC | | | 土佐の食と健康 | | A306 | | | | | | |
| 2 | 英語コミニ基礎P | | | 英語コミュニケーションIC | | | (介護)介護総合演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ | | D222 E102・103・204 F110・207 | | | | | | |
| 3 | | | | 相談援助演習Ⅲ | | | | | E103 | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 生活と社会福祉 | 行真 大井 | A306 A318 | 社会調査基礎論 (介護)介護の基本Ⅰ | 大井 河内 | A204・318 D221 | 現代社会と福祉Ⅰ | 長澤 | E103 | コンピュータリテラシー(社福) 環境と健康と安全 | 名和 一色 | D207 A318 | コンピュータリテラシー(社福) 基礎化学 | 名和 一色 | D207 A306 |
| 2 | 経済学 | 河内 | D221 | (介護)介護の基本Ⅰ | 河内 | D221 | | | | | | | | | |
| 3 | (介護)介護の基本Ⅰ | 馬場・福間・遠山・印藤・ 福田 | E102・103・204 F110・207 | (介護)介護の基本Ⅰ | 宮上 | F110 | (介護)生活支援技術Ⅲ (介護)介護総合演習Ⅱ | 田中眞・片岡 | F110 | (介護)生活支援技術Ⅲ | 田中眞・片岡 | F110 | (介護)生活支援技術Ⅲ | 田中眞・片岡 | F110 |
| 4 | 相談援助演習Ⅰ | 横井 | D222 | 相談援助演習Ⅰ | 杉原 | E204 | 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ | 横井 | D222 | 相談援助実習指導Ⅲ | 西橋まか | D221・222 E103・204 | 相談援助実習指導Ⅲ | 西橋まか | E103・204 |
| 1 | 精神保健学Ⅰ | | | 相談援助演習Ⅰ | | | 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ | 丸山・杉本孝・福間・玉利 | E102・F207 | 精神保健福祉援助演習 | | E102・F207 | 精神保健福祉援助演習 | | E102 |
| 2 | 健康スポーツ科学Ⅰ(社福) | 清原 | 体育館 | 社会保障論Ⅰ | 田中き | 大講義室 | 日本国憲法 心理学理論と心理的支援 | 岩倉 杉原・玉利 | A306 E103 | 基礎生物学 数学入門 | 篠沼 風間 | 大講義室 A318 | 基礎生物学 数学入門 | 篠沼 風間 | 大講義室 A318 |
| 3 | 健康スポーツ科学Ⅰ(社福) | 常行 | 体育館 | 相談援助の理論と方法Ⅰ | 加藤 | E103 | 高齢者福祉論Ⅱ 精神保健福祉援助技術各論 | 杉原・玉利 三好・田中眞・横井 | E103 E204 | (介護)生活支援技術Ⅰ (介護)生活支援技術Ⅰ | 田中眞・辻 田中眞・辻 | F110 F110 | (介護)生活支援技術Ⅰ | 田中眞・辻 | F110 |
| 4 | 保健医療サーベイス | 大松 | E103 | 相談援助の理論と方法Ⅱ | 西梅 | E102 | 精神保健福祉援助技術各論 | 三好・田中眞・横井 | E102 | 社会学入門 | 担当教員 | | 社会学入門 | 担当教員 | |
| 1 | 虐待防止論 | 加藤・西内 | E102 | 相談援助の理論と方法Ⅳ | | | 精神保健福祉援助技術各論 | | | 社会学入門 | | | (介護)生活支援技術Ⅰ | | F110 |
| 2 | 国際福祉論 | | | 国際福祉論 | 長澤 | F110 | 権利擁護論 基礎統計学 | 田中き | 大講義室 | 法学 | | | 社会学 | | |
| 3 | 英語コミニ基礎EW | 田中(裕) | 大講義室 | 英語コミュニケーションIC | | | 基礎統計学 家族関係論 | 風間 池添 | A204・319 A318 | 社会学 | | | 社会学 | | E102 |
| 4 | 文学 | | | | | | 福祉対象入門 福祉援助入門(*) 児童・家庭福祉論 | 福間 福間 加藤 | E103 E103 E102 | | | | | | |
| 1 | 英語コミニ基礎EW | | | 英語コミュニケーションIC | | | 児童・家庭福祉論 | 加藤 | E102 | 相談援助実習指導Ⅰ | | | 相談援助実習指導Ⅰ | | |
| 2 | (介護)介護の基本Ⅲ | 河内・辻 | E103 | (介護)介護の基本Ⅲ | 河内・辻 | E103 | (介護)障害の理解Ⅰ 介護技術 | 田中眞・横井 片岡 | D222 F110 | (介護)生活支援技術Ⅴ | 三好 | F110 | ケアマネジメント論 | 横井 | E103 |
| 3 | 精神保健福祉論Ⅱ | 筋木孝 | E102 | 精神保健福祉論Ⅱ | 西内 | D222 | 社会福祉史 | 行真 | F110 | 就労支援サーベイス | 福垣・玉利 | 大講義室 | 就労支援サーベイス | 福垣・玉利 | 大講義室 |
| 4 | ケアプラン策定法 | | | 物理と自然法則 | | | 地域メディア論 | 竹下 | A306 | (介護)ここからからだのしくみⅠ | 横井 | E103 | (介護)ここからからだのしくみⅠ | 横井 | E103 |
| 1 | 地域福祉論Ⅰ | | | 地域福祉論Ⅰ | 田中き | 大講義室 | (介護)介護の基本Ⅱ | 田中眞・辻・横井 | E103 | (介護)認知症の理解Ⅰ | 宮上・辻 | F110 | (介護)認知症の理解Ⅰ | 宮上・辻 | F110 |
| 2 | 社会調査の基礎 | 大熊 | E103 | 社会調査の基礎 | 遠山 | E102 | ※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある | | E102 | ※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある | | E102 | ※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある | | E102 |
| 3 | 医療ソーシャルワーカー論 | | | 医療的ケアⅡ | 片岡・三好 | F110 | 介護総合演習Ⅳ | 三好・河内・田中眞・ 片岡・辻 | F110 | | | | | | |
| 4 | 医療的ケアⅡ | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 地域学実習Ⅰ | 一色・他 | | 通年 | | | 通年 | | | | | | | | |
| 2 | 地域学実習Ⅱ | 一色・他 | | 通年 | | | 通年 | | | | | | | | |
| 3 | 社会学実習 | 一色・他 | | 通年 | | | 通年 | | | | | | | | |
| 4 | 現代生活論 | 菊池 | | 開講時期未定 | | | 未定 | | | | | | | | |
| 1 | 異文化理解海外フィールドワーク | 五百蔵 | | 未定 | | | 未定 | | | | | | | | |
| 2 | 介護実習Ⅰ | 田中眞・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 3 | 介護実習Ⅱ | 田中眞・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 4 | 介護実習Ⅲ | 田中眞・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 1 | 相談援助実習 | 西梅他 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 2 | 精神保健福祉援助実習Ⅰ | 丸山・杉本孝・福間・玉利 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 3 | 精神保健福祉援助実習Ⅱ | 丸山・杉本孝・福間・玉利 | | 通年(指示) | | | 通年(指示) | | | | | | | | |
| 4 | 精神医学Ⅰ | 山崎 | | 指示 | | | 指示 | | | | | | | | |
| 1 | 精神医学Ⅱ | 山崎 | | 指示 | | | 指示 | | | | | | | | |

[備考]

*1 受講登録は、前期集中すること

共通教育

木曜1限 対人関係とメンタルヘルス(内川・玉利・福田)

健康栄養学部開講科目

月曜日 2限 保健医療福祉論(田中きよむ)

令和元年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

| 月 | 1時限 | | 2時限 | | 3時限 | | 4時限 | | 5時限 | | | | | | |
|----|--|----------------|------|-------------------|--------------------------------|------------------|--|--------------------------|------|------------------|--------------|--------------------------------------|------------------|----------|----------------------------------|
| | 8:50~10:20 | 教員 (別途記載) | 教室 | 10:30~12:00 | 教員 (別途記載) | 教室 | 13:00~14:30 | 教員 一色 相原・三好・ヨース・飯高 | 教室 | 14:40~16:10 | 教員 | 教室 | 16:20~17:50 | 教員 | 教室 |
| 1 | 英語コミニ応用P | (別途記載) | 教室 | 英語コミュニケーションD | (別途記載) | 教室 | 土佐の自然とくらし 土佐の歴史と文化 | A319 A320 | 教室 | | | | | | |
| 2 | 英語コミニ応用P | (別途記載) | | 英語コミュニケーションD | (別途記載) | 大講義室 | 福祉研究法入門 | E103 | 丸山 | | | | | | |
| 3 | | | | 福祉行財政と福祉計画 | 田中き | E204 | 女性福祉論 | E102 | 長澤 | | | | | | |
| 4 | | | | 事例研究法 | 西内 | E204 | 事例研究法 | E204 | 西内 | | | | | | |
| 1 | 相談援助の基礎と専門職 ※10月~11月の構造と機能及び疾病(実務)と併行して行う | 西内・西梅・加藤 | E103 | 現代社会と福祉II | 長澤 | E103 | 社会理論と社会システム | D221 | 玉里 | 相談援助の基礎と専門職 | 西内・西梅・加藤 | 大講義室 | 健康スポーツ科学II(社福) | 宮本 清原 | 体育館 体育館 |
| 2 | (介護)介護過程III | 三好 | F110 | (介護)発達と老化の理解I | 杉原 | E102 | 地域福祉論II | E102 | 福岡 | 相談援助演習II | 西内・西梅・加藤 | D221・222 E102・103・204 F110・207 | 相談援助実習指導II | 西梅他 | D222 E102・103・204 F110・207 |
| 3 | コミュニケーションシヤルワーク | 緒賀 | E102 | (介護)介護総合演習III | 用内・田中康・三好・片岡・庄 丸山・杉本孝・福田・玉利 | E204 F110・207 | 面接技法 | E204 | 杉原 | (介護)介護過程IV | 三好・片岡 | F104 | (介護)介護過程IV | 三好・片岡 | F104 |
| 4 | 別人関係とメンタルヘルス | 内川・玉利・福田 | 大講義室 | 子育て支援論 | 加藤 | D222 | 精神保健福祉実習指導II | F110・207 | 丸山 | 精神保健福祉実習 | 丸山・杉本孝・福田・玉利 | A321 | 精神保健福祉実習 | 田中真 | F110 |
| 1 | | | | 心理学 | 塩坪 | A306 | 情報リテラシー | A318 | 風間 | 基礎ゼンダーク学 | 池谷 | A306 | (介護)生活支援技術II | 田中真 | F110 |
| 2 | 相談援助の理論と方法III | 加藤 | E102 | 相談援助の理論と方法II | 西梅 | E102 | 健康とヘルスプロモーション 人体の構造と機能及び疾病 ※12月から「相談援助の基礎と専門職(西内・西梅・加藤)」 | E103 | 清原・他 | (介護)生活支援技術II | 田中真 | F110 | | | |
| 3 | (介護)医療的ケアI | 片岡 | F110 | (介護)医療的ケアI | 片岡 | F110 | 福祉サービスの組織と経営 | F207 | 谷口 | | | | | | |
| 4 | 精神科リハビリテーション学 | 横井 | F207 | 精神科リハビリテーション学 | 横井 | F207 | チームアプローチ | D222 | 福岡 | 社会福祉専門演習II | 担当教員 | --- | | | |
| 1 | 英語コミニ応用EW | (別途記載) | | 英語コミュニケーションD | (別途記載) | | 倫理学 | | 吉川 | 大講義室 | 吉川 | A318 | 哲学 | 名和 | A304 |
| 2 | 英語コミニ応用EW | (別途記載) | | 英語コミュニケーションD | (別途記載) | | 政治学 | | 清水 | 大講義室 | 田中康代 | A319 | 現代人権論 | 大和 | E102 |
| 3 | 医療福祉論 | 大松 | E102 | | | | 高齢者福祉論I | | 福田 | (介護)こころからたのしみII | 横井 | A321 | (介護)こころからたのしみII | 横井 | |
| 4 | | | | | | | 福祉NPO論 | | 田中き | | | | | | |
| 1 | (介護)コミュニケーション技術 | 河内・辻 | E103 | (介護)コミュニケーション技術 | 河内・辻 | E103 | ケアマネジメント演習 | E103 | 緒賀 | 相談援助演習IV | 西梅他 | D222 E102・103・204 F110・207 | 相談援助演習IV | | |
| 2 | (介護)生活支援技術IV | 田中康・関・荒牧 | F110 | (介護)生活支援技術IV | 田中康・関・荒牧 | F110 | 精神保健福祉援助技術各論 | E103 | 福岡 | (介護)介護総合演習I | 宮上 | F110 | 精神処理理論 | | |
| 3 | 精神保健福祉論I | 鈴木孝 | E102 | 精神保健福祉論I | 鈴木孝 | E102 | (介護)障害の理解II | F110 | 河内 | (介護)公的扶助論 | 田中き | 大講義室 | 障害者福祉論 | 遠山 | E103 |
| 4 | スーパージョーン | 西梅 | E204 | スーパージョーン | 西梅 | E204 | | | | ※精神医学I・IIが入ることある | | E102 | ※精神医学I・IIが入ることある | | E102 |
| 1 | 科目名等 | 教員 | | 閉講月日 | | | | | 西梅 | スーパージョーン | 西梅 | E204 | スーパージョーン | 西梅 | E204 |
| 2 | 異文化理解海外フィールドワーク | 五百蔵 | | 未定 | | | | | | | | | | | |
| 3 | 地域学実習I | 一色・行貞・緒賀・福田他 | | 通年 | | | | | | | | | | | |
| 4 | 地域学実習II | 一色・他 | | 通年 | | | | | | | | | | | |
| 5 | 地域学実習III | 一色・他 | | 通年 | | | | | | | | | | | |
| 6 | 専門演習 | 西内・他 | | 12/17(火)~12/20(金) | | | | | | | | | | | |
| 7 | チーム形成論 | 山中・他 | | 2月閉講予定 | | | | | | | | | | | |
| 8 | 介護実習I | 田中康・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 9 | 介護実習II | 田中康・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 10 | 介護実習III | 田中康・三好・辻・河内・片岡 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 11 | 相談援助実習 | 西梅他 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 12 | 精神医学I | 山崎 | | 特示 | | | | | | | | | | | |
| 13 | 精神医学II | 山崎 | | 特示 | | | | | | | | | | | |
| 14 | 精神保健福祉実習I | 丸山・杉本孝・福田・玉利 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 15 | 精神保健福祉実習II | 丸山・杉本孝・福田・玉利 | | 通年(特示) | | | | | | | | | | | |
| 16 | 地域福祉活動 | 田中き・他 | | 特示 | | | | | | | | | | | |

【備考】
永国寺開講 木曜日 7限 生活と社会福祉(行貞)
池開講 水曜日 2限 介護論(三好)
看護学部開講科目
金曜日 2限 社会保障と看護(田中き)

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

2019年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

| 職 位 | 氏 名 | 学 位 | 専 門 分 野 |
|-----|-----------|-------------|---------------|
| 教 授 | 杉 原 俊 二 | 博 士（医 学） | 児童・家族福祉論／心理療法 |
| 教 授 | 田 中 きよむ | 修 士（経 済 学） | 福 祉 行 財 政 論 |
| 教 授 | 長 澤 紀 美 子 | 博 士（学 術） | 国際福祉論／女性福祉論 |
| 教 授 | 西 内 章 | 博 士（臨床福祉学） | 社会福祉援助技術論 |
| 教 授 | 丸 山 裕 子 | 博 士（社会福祉学） | ソーシャルワーク論 |
| 教 授 | 宮 上 多 加 子 | 博 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 教 授 | 横 井 輝 夫 | 博 士（保 健 学） | リハビリテーション科学 |
| 准教授 | 大 松 重 宏 | 修 士（社会福祉学） | 医 療 福 祉 論 |
| 准教授 | 鈴 木 孝 典 | 博 士（人 間 学） | 精 神 保 健 福 祉 論 |
| 准教授 | 西 梅 幸 治 | 博 士（福祉社会学） | 社会福祉援助技術論 |
| 准教授 | 福 間 隆 康 | 博 士（マネジメント） | 社 会 福 祉 運 営 論 |
| 准教授 | 三 好 弥 生 | 博 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 講 師 | 加 藤 由 衣 | 博 士（福祉社会学） | 社会福祉援助技術論 |
| 講 師 | 河 内 康 文 | 博 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 講 師 | 辻 真 美 | 博 士（社 会 学） | 介 護 福 祉 論 |
| 講 師 | 遠 山 真 世 | 博 士（社会福祉学） | 障 害 者 福 祉 論 |
| 講 師 | 行 貞 伸 二 | 修 士（社会福祉学） | 生 活 困 窮 者 支 援 |

教育研究活動報告書（教員一覧）

| | | | |
|-----|-----------|--------------|-------------|
| 助 教 | 稲 垣 佳 代 | 修 士（社会福祉学） | 精神保健福祉援助技術論 |
| 助 教 | 大 熊 絵 理 菜 | 修 士（社会福祉学） | 医 療 福 祉 論 |
| 助 教 | 片 岡 妙 子 | 修 士（看 護 学） | 介 護 福 祉 論 |
| 助 教 | 雑 賀 正 彦 | 修 士（社会福祉学） | 地 域 福 祉 論 |
| 助 教 | 田 中 眞 希 | 修 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 助 教 | 玉 利 麻 紀 | 修 士（人 間 科 学） | 精神保健福祉援助技術論 |
| 助 教 | 福 田 敏 秀 | 博 士（保 健 学） | 高 齢 者 福 祉 論 |

○ 研究活動

（研究ノート、事例報告など）（18件）

（1）研究ノート

1. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅰ）－大学4年から修士課程2年まで－」『自分史研究会会報』2, 2-9.（2019年4月）
2. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（Ⅰ）－C短大1年目－」『人間科学』80, 2-9.（2019年5月）
3. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（22）－ある軍事愛好家の海自空母を巡る話－」『リハビリテーションと心理療法』5, 2-9.（2019年5月）
4. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅱ）－再び大阪へ移ることと大阪心理・福祉研究所について－」『自分史研究会会報』3, 2-9.（2019年6月）
5. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（Ⅱ）－C短大2年目－」『人間科学』81, 2-9.（2019年7月）
6. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（23）－ある軍事愛好家の商船改装空母とR作戦を巡る話－」『リハビリテーションと心理療法』6, 2-9.（2019年7月）
7. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅲ）－淀屋橋心理療法センターへの就職から退職からまで－」『自分史研究会会報』4, 2-9.（2019年8月）
8. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（Ⅲ）－C短大3年目－」『人間科学』82, 2-9.（2019年9月）
9. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（24）－ある軍事愛好家の商船改装空母とニューギニア沖海戦（前篇）－」『リハビリテーションと心理療法』7, 2-9.（2019年9月）
10. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅳ）－創造社デザイン専門学校への就職と1年での退職－」『自分史研究会会報』5, 2-9.（2019年10月）
11. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（Ⅳ）－C短大4年目－」『人間科学』83, 2-9.（2019年11月）
12. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（25）－ある軍事愛好家の商船改装空母とニューギニア沖海戦（中篇）－」『リハビリテーションと心理療法』8, 2-9.（2019年11月）
13. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅴ）－創造社学園退職から瀬戸内短大就職までと阪神淡路大震災－」『自分史研究会会報』6, 2-9.（2019年12月）
14. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（Ⅴ）－C短大5年目－」『人間科学』84, 2-9.（2020年1月）
15. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（26）－ある軍事愛好家の商船改装空母とニューギニア沖海戦（後篇）－」『リハビリテーションと心理療法』9, 2-9.（2020年1月）
16. 杉原俊二「黒歴史から見た自分史で8年間を振り返る（Ⅵ）－その後の歩み－」『自分史研究会会報』6, 2-9.（2020年2月）

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

17. 杉原俊二「Mさんの修士課程修了後の5年間（VI）－D短大への転職後－」『人間科学』85, 2-9. (2020年3月)
18. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（27）－ある軍事愛好家の商船改装空母とMO作戦を巡る話（前篇）－」『リハビリテーションと心理療法』10, 2-9. (2020年3月)

（2）学会発表等（4件）

1. 杉原俊二「大学院教育で使用するK J法（2）－インタビュー調査でのコツ－」第43回K J法経験交流会（川喜田研究所）2019年5月18日
2. 杉原俊二「大学院教育で使用するK J法－先行研究レビューとデータカードの活用－」（呈示発表）第43回K J法経験交流会（川喜田研究所）2019年5月18日
3. 杉原俊二「大学院教育で使用するK J法（3）－インタビュー調査でのコツ（その2）－」第42回K J法学会（川喜田研究所）2019年10月26日
4. 杉原俊二「児童養護施設卒園生のニーズ調査－卒園後5年以上たった元利用者へのインタビュー調査の研究構想と事前調査－」（呈示発表）第42回K J法学会（川喜田研究所）2019年10月26日

○ 教育活動

- （1）学部：「心理的理論と心理的支援」（1年後期、看護学科とも、8コマ分を担当）、「発達と老化の理解Ⅰ」（2年後期）、「面接技法」（3年前期）、「実践記録法」（4年前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（3年生6名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4年生3名）
- （2）大学院 人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童家庭福祉論Ⅰ」「児童家庭福祉論Ⅱ」「課題研究演習」（主指導3名）「データ解析論（7コマ分）」
- （3）大学院 人間生活学研究科（博士後期課程）：「社会福祉学特別研究Ⅲ」（主指導1名）

○ 委員会活動

- （1）全学「人権委員長」「大学院入学試験実施副委員長」
- （2）学部「キャリア支援委員長」「紀要委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」
- （3）大学院「博士後期課程入試実施委員」

○ 社会的活動

（1）社会活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員（副委員長）、高知県社会福祉協議会理事選考委員

（2）学会など

日本人間科学研究会中国四国地域担当理事、K J法学会運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック運営委員（監事）・地域ブロック高知大会実行委員長、所属学会の編集協力（査読者）

（3）講演など

1. スクールソーシャルワーカー初任者研修会（①5月24日、②10月4日各4時間）高知青少年の家
2. 高知県教育委員会人権教育課チーム学校研修会（8月19日4時間）田野町ふれあいセンター
3. 放送大学修士論文審査会（1月12日8時間）放送大学図書館

○ 総合評価と課題

人間生活学研究科長を昨年度に退任し、会議や研究科長としての当て職が一気に減ったこともあり、もう少し教育と研究に目が届くようになったと思っていた。しかし、学内では学長指名の人権委員長となり、学外では高知県いじめ問題調査委員会の副委員長としての審議と各所への報告、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック高知大会実行委員長となって、今までにない会議が増えるようになった。難しい案件が多く、学内外の皆様の助けがあり、何とか務めることができた。関係者の皆様には感謝しかない。

教育に関しては赴任11年目になり、第十九期生を卒業させることができた。授業では、「心理学理論と心理的支援」「実践記録法」「面接技法」「発達と老化の理解Ⅰ」を担当したうえ、実習関係の科目も昨年度から持たせてもらった。講義科目については1回ごとのレジュメの配布や、受講生同士（2～4名）討論を入れるなど、以前から導入した方法を継続すると同時に、例年通り学生の意見聴取にできるだけ務めた。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせおこなった。学内外の業務のため、管理職時代ほどではないが、しわ寄せがゼミ学生の指導に及んだことは否めず、卒論や就職指導の時間はなんとか確保できた状態であった。

研究に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた虐待予防－「虐待リスク」を抱える保護者支援法（2）－」が採択され継続中である。また、博士後期課程の修了生と一緒に「児童養護施設卒園生のニーズ調査－リービングケア・アフターケア実践のための研究－」も行うことができた。なんとか研究の時間を取れて、インタビューだけ終えることができた。また、科研費の共同研究者にもなった。忙しい中ではあるが、適切な研究は何かを考えながら行っていきたい。

委員会等については、研究科長を退任したため会議が減り、その分、学部での負担を少しでも増やしてもらった。学部の紀要委員長としては、昨年度7編から、今年度6編と減っている。できるだけ積極的な投稿を望む。今年度も査読委員として学部の先生方にはご活躍いただいた。キャリア支援委員長としては、学内学会の準備に奔走した。

大学院の教育として、大学院でも博士前期課程の「児童家庭福祉論Ⅰ・Ⅱ」「データ解析論」「課題研究演習」、博士後期課程の「特別研究Ⅲ」を担当しており、学部と並行して授業に追われる毎日であった。博士後期課程では9月に1名を修了させ、前期課程では2人を修了させた。長時間労働となることも多く、「働き方改革」とどう折り合いをつけていくのが問題である。来年度は博士前期課程1名修了を目指して指導をする。

社会的な活動については、地域貢献として高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員も深刻な事態（1件）のため、多くの会議に出席し各所での報告を委員

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

長と一緒にいった。これからも地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、今年度も他大学の修士・博士の教育にもかかわっている。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○研究活動

（1）論説

- ・田中きよむ・霜田博史・玉里恵美子「地域福祉（活動）計画と移動問題—仁淀川町を事例として—」『高知論叢』第118号、2020年3月（217～246頁）
- ・田中きよむ「小さな拠点と地域共生社会—四国地域の動向—」『Humanismus』第31号（42～68頁）

（2）研究報告

- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング（調査研究委員会委員長 田中きよむ）『令和元年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「中山間地域における複合的な地域共生社会に向けた調査研究事業報告書」』2020年3月（87頁）

（3）学会報告

- ・田中きよむ「アジア型地域福祉システム・地域づくりの動向と特徴—台湾・韓国の取り組み状況を事例として—」第66回四国財政学会（香川大学経済学部交友会館）2019年12月

（4）研究助成

- ・田中きよむ（研究代表者）「中山間地域の運転免許返納者を含む移動問題と地域共生拠点を活かした課題解決の探求」（文部科学省科学研究費基盤研究（B）（一般）；2019–2021年度）

○教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 地域福祉論 I
2. 社会保障論 I II
3. 福祉行財政と福祉計画
4. 公的扶助論
5. 権利擁護論
6. 福祉NPO論
7. 社会福祉専門演習 I II
8. 福祉研究演習 III D
9. 社会保障と看護（看護学部）
10. 保健医療福祉論（健康栄養学部）

（共通教育）

1. 地域学概論

（2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事関係検討会委員、国際交流委員会委員長
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・社会政策学会幹事、社会政策学会第138回大会実行委員長
- ・高知県運営適正化委員会委員

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高知県老人クラブ連合会理事
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
- ・高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
- ・高知県リハビリテーション研究会理事
- ・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
- ・高知県居住支援協議会「地域包括ケア高齢者等の住まいの確保対策部会」部会長
- ・学校法人太平洋学園高校「多様な学習検討委員会」委員
- ・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミリーユ高知」各第三者委員
- ・NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「未来予想図」副理事長
NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事

（講演等）

- ・高知市「社会福祉審議会」委員長（たかじょう庁舎 2019年4月）
- ・四万十市「地域福祉計画策定委員会」アドバイザー（四万十市役所、2019年4月）
- ・高知県「高次脳機能障害相談支援拠点中核施設」審査委員会委員長（オレンジホール、2019年5月）
- ・高知県居住支援協議会「地域包括ケア高齢者等の住まいの確保対策部会」部会長（高知城ホール 2019年5月、高知県立大学永国寺キャンパス 2019年9月）
- ・本山町社会福祉協議会地域福祉計画職員研修講師（同社会福祉協議会 2019年5月）
- ・「社会政策学会第138回大会」実行委員長（高知県立大学永国寺キャンパス 2019年5月）
- ・「コミュニティカフェに関するニーズ調査結果」報告（高知市横浜瀬戸地区福祉部会への調査協力、高知市立横浜小学校、2019年5月）
- ・「高知県民生委員児童委員協議会連合会大会」コーディネーター（かるぼーと 2019年5月）
- ・「高知の保育を考えるつどい」実行委員長（高知県立大学池キャンパス 2019年6月）
- ・佐川町「みんなで福祉のまちづくり委員会」アドバイザー（佐川町健康福祉センター「かわせみ」 2019年6月）
- ・「青年農業士認定審査会」委員長（職業能力開発センター 2019年6月）
- ・「介護ケア研究会総会」会長（高知県立大学池キャンパス 2019年6月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・四万十市「地域福祉計画運営協議会」アドバイザー（四万十市市役所 2019年6月）
- ・「ひきこもり者・障害者の命と暮らしを支える—生活保護、障害年金、就労支援、そして地域づくり—」やいろ鳥（ひきこもり当事者家族の会）学習会講師（東部健康福祉センター2019年6月）
- ・仁淀川町地域福祉活動計画津川地域住民座談会アドバイザー（同地域集会所 2019年7月・10月・2020年2月、高知県立大学池キャンパス 2019年12月）
- ・徳島県牟岐町地域福祉計画古牟岐地区住民座談会アドバイザー（同地域集会所 2019年7月）
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査分科会会長（高知市役所 2019年8月、あんしんセンター2020年2月）
- ・高知市立高知商業高校出前講座講師「地域の福祉課題と支えあいのまちづくり」（同校 2019年8月）
- ・四万十町老人クラブ：学生との地域福祉座談会コーディネーター（四万十町社会福祉センター2019年9月）
- ・仁淀川町地域福祉活動計画寺村地域座談会アドバイザー、名野川・森山地域住民座談会アドバイザー（各地域集会所 2019年9月）
- ・社会福祉士会基礎演習講師（高知県立大学池キャンパス 2019年9月）
- ・四万十町行政職員・社会福祉協議会職員地域福祉計画合同研修講師（四万十町社会福祉センター2019年9月）
- ・高知県立山田高校出前講座講師「地域福祉の面白さ—住民主体の幸せのまち・むらづくり—」（同校 2019年10月）
- ・高知県年金調整会議委員長（高知会館 2019年10月）
- ・高知県保育運動連絡会学習会講師（高知自治労連 2019年10月）
- ・こうちネットホップパネルディスカッション「生活困窮者を地域で支える」コーディネーター（高知県立大学永国寺キャンパス 2019年10月）
- ・高知市社会福祉協議会「市民後見人養成講座 講師」（高知市塩田町保健福祉センター 2019年10月）
- ・厚生労働省四国厚生支局老人保健事業「中山間地域における複合的な地域共生社会に向けた調査研究事業」委員長（厚生労働省四国厚生支局 2019年9月・12月・2020年2月、現地調査 2019年10月・11月・12月）
- ・高知市「まち・ひと・しごと創生有識者会議」委員（たかじょう庁舎 2019年11月・2020年2月）
- ・土佐清水市社会福祉協議会「市民後見人養成講座」講師（土佐清水市社会福祉センター2019年11月）
- ・「第9回地域連絡協議会」高知県地域救済対策委員会委員長（大阪コロナホテル 2019年12月）
- ・脳外傷（高次脳機能障害）友の会研修パネリスト（四万十市社会福祉センター、高知県立大学池キャンパス 2019年12月）
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長（ニッセイビル 2019年12月）
- ・高知県立大学学術的交流サロン講師「地域福祉（活動）計画と住民主体のまちづくり—その持続性に関する—考察—」（高知県立大学 2019年12月）
- ・土佐清水市社会福祉協議会社会福祉大会「地域力で支えあう認知症」コーディネーター（土佐清水市立市民文化会館、2019年12月）
- ・高知県保育運動連絡会総会会長（高知城ホール 2020年2月）
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員（高知県弁護士会館 2020年2月）

- ・高知市福祉有償運営協議会委員（あんしんセンター2020年2月）
- ・津野町地域福祉講演・コーディネーター「地域を元気に！誰もが生き生きと暮らすためには？」（津野町社会福祉協議会 2020年2月）

○総合評価及び今後の課題

- ・研究面では、2019年度は、これまでの研究を継続・発展させる方向で、①とくに移動問題に焦点を合わせた地域福祉（活動）計画の有効性、②高知県から四国地域に視野を広げた小さな拠点を軸とする共生型地域づくりの形成・持続要因を検討する研究を進めた。2020年度は、それらの研究の継続・発展と合わせて、①生活困窮者の実情把握と支援課題の分析、②近年の社会保障制度改革の構造と本質に関する動向分析を進めたい。
- ・教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論、福祉NPO論などを担当しているが、国家資格との関連もあり、学生の受講態度はまじめである。授業アンケート結果をふまえれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心や主体的取り組みを喚起する授業の工夫が求められており、課題となっている。とくに、授業における獲得目標を明確にして、その成果を探る努力が必要である。

地域福祉論、公的扶助論、福祉NPO論は理論的な側面と実践的な側面から構成されるが、実践面への学生の関心が高い様子がうかがえる。理論的な側面をきちんとおさえつつ、実践的な側面では学生の興味・関心を一層高めていく努力が必要である。とくに福祉NPO論の後半は、ゲストスピーカーによるオムニバス講義とそれをふまえたグループワークであるが、学生の関心・反応は良いので、今後も学生のニーズを考慮しながらコーディネートを工夫していきたい。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実課題に応えられる課題解決能力の素養が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させ、地域の具体的な生活課題に応じたテーマを設定し、課題解決実践に資する基礎研究となる卒論作成ができるような指導を心がけてきた。

2020年度のゼミ4回生は個別研究を希望していることから、単独研究のテーマの焦点化、リサーチ・クエスチョンの深まりをふまえて、個々のテーマにふさわしい調査対象の確保、方法の明確化に配慮した個別指導を進めていく。ゼミ3回生に対しては、地域福祉研究・実践志向がとくに強い学生が応募してくれたことから、その知的好奇心、実践的関心が深まっていくよう、具体的な地域や現場と結びつく調査研究のおもしろさを感じ取れる工夫を心がけたい。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、フィールド調査研究が不安定な状況に直面しており、工夫が必要となっている。

- ・社会的活動は、2019年度も地域福祉・地域づくりや社会保障・社会福祉の関係機関・団体・個人との協力関係を持たせて頂いた。それに合わせて、学生にも、地域との接点を持ち住民の現実の生活課題を学びつつも、各地域ならではの積極的な固有価値を実感してもらえるような関係づくりを進めた。今後も、住民と学生による主体的な地域活動の潜在能力に着目しつつ、教育・研究・実践を通して、県内各地の持続的な地域福祉力の形成・発展に少しでも寄与していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）著書（2件）

- ・長澤紀美子(2019)「第11章 高齢者ケア政策におけるケアの質の保障」金子光一・小舘尚文(編)『新・世界の社会福祉 第1巻 イギリス・アイルランド』旬報社, pp. 275-303.
- ・長澤紀美子(2020)「第7章 主要各国の社会保障制度」志水幸(監修)『社会福祉養成基本テキスト(国試対応) 第2巻 福祉政策と実施体制』日総研, pp. 111-126.

（2）論文（2件）

- ・長澤紀美子(2020)「イギリスの社会的ケアに係る自治体評価と事業者評価の動向ーケアの質の合意及びアカウンタビリティのメカニズムの視点から」『高知県立大学紀要(社会福祉学部編) 高知県立大学紀要編集委員会 編』69, pp. 15-29. (査読有)
- ・長澤紀美子(2020)「SOGIに基づく差別とLGBTの健康課題ーアメリカ・ソーシャルワーカー職能団体の指針を参考に」(特集「性的マイノリティをめぐる現状と課題ー多様化する性について考えるー」)『保健の科学』62巻4月号 Vol. 62, pp. 248-254. (査読無)

（3）学会発表（1件）

- ・ Kimiko Nagasawa, Yukari Hamaguchi, 'Introducing education for SOGI(Sexual Orientation and Gender Identity) into undergraduate social work curriculum in Japan'. PROTECTION AND PROMOTION OF HUMAN RIGHTS (Inclusion of Sexual minorities). The 25th APSWC (Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference) 2019 (19th Sep.) in Bengaluru, India. (<https://apswc2019.com/>).

（4）研究会での発表（1件）

- ・長澤紀美子「イギリスの社会的ケア(特に高齢者ケア)のベンチマーク(評価政策)の動向ーケアサービスの指標化の枠組みの特徴、長所と課題についてー」第2回地域共生社会の実現に向けた成果指標検討委員会」2019年9月7日(土)(於:東京大学 医学部教育研究棟)

（5）報告書（1件）

- ・長澤紀美子「第2章 海外における指標開発 2. イギリスの社会的ケアに係る自治体評価及び事業者評価の指標」(一社)日本老年学的評価研究機構(JAGES)『令和元年度 厚生労働省 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業分)「地域共生社会の実現に向けた成果指標に関する調査研究事業ー包括的支援体制構築のためのプロセス評価の検討ー」』令和2年3月 pp. 17-33

（6）競争的資金等の獲得状況（1件）

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究(B)(一般) 課題番号 #19H01586
「社会福祉における評価レジーム再編の課題をめぐる理論的・実証的研究」(平成 31

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

／令和元年度～令和4年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一教授）の分担研究者

○教育活動

（1）学部

講義科目：「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「女性福祉論」「国際福祉論」
実習科目：「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅲ」「相談援助実習」「相談援助演習Ⅳ」

卒業研究指導：「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者6名）

「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者7名、後期5名（2名長期留学）

サークル顧問：イケとべ！、中国語サークル

（2）大学院

（人間生活学研究科博士前期課程）

- ・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）（受講者6名）／「国際福祉論Ⅰ」（受講者1名）
- ・研究指導：副指導教員としてM2生3名を担当した。

（人間生活学研究科博士後期課程、DNGL博士課程）

- ・3名（人間生活学研究科博士後期課程2名、DNGL1名）の学位審査、最終試験に副査として参加した。

○委員会活動

【全学】 【大学院】 人間生活学研究科長＊

＊部局長会議、教育研究審議会、大学教育改革プロジェクト、入学試験委員会、研究倫理委員会、自己点検評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、学術研究戦略委員会審査・評価部会、動物実験委員会の委員、全学紀要委員会委員長

【学部】 実習委員長

学部防災委員、自己点検評価委員、人事関係検討委員

○社会的活動

（1）委員等

高知市行政改革推進委員（委員長）／高知市指定管理者業務評価委員会外部委員
高知県社会福祉協議会 地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員（委員長）
高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～）
高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（令和元年度～）

（2）講演等

1) ジェンダー研究会の主催

任意団体 SA 和 CH!（ソーシャルライ・コナツハット）として以下のとおり、大学生・教員、医療・社会福祉専門職らを対象に研究会を行った。

- 7月7日 SA 和 CH!ラボ（SOGI研究会）第1回

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

「Queer Studies For Youth~今求められるクィア教育を考える~」

- 11月24日 SA 和 CH!ラボ（SOGI 研究会）第2回
「ジェンダー家族からクィア家族へ：多様な家族のあり方」
内容：デール・ソイヤ氏（社会学者）を話題提供者とした研究会
- 2) 性的指向・性自認（SOGI）に関わる人権研修会講師
 - 4月26日 平成31年度高知人権擁護委員協議会 総会研修会
 - 8月29日 「人権サミット in 高吾」講演会
 - 10月5日 「女性9条の会高知・14周年のつどい」講演会
 - 10月18日 南国市スマイリーハート人権講座
 - 12月1日 ソーレ出前講座事業（主催：佐川町）「カラコエの花 多様な性について考えるシンポジウム」
 - 12月13日 高知県隣保館連絡協議会 人権課題別研修Ⅱ
 - 12月20日 宿毛市人権教育推進講座研修会
 - 1月17日 黒潮町人権教育推進講座研修会
 - 1月31日 高知県じんけん行政連絡協議会・高知県隣保館協議会合同研修会
- 3) 性的指向・性自認（SOGI）に関わる報告
 - 8月7日 労働組合 UA ゼンセン高知支部「SOGI ハラスメントの法制化」
 - 11月28日 第1回高知県人権尊重の社会づくり協議会「SOGI と人権」
高知県県民生活・男女共同参画課の依頼を受け、県民意識調査における SOGI に関する質問項目作成に協力した。
 - 3月18日 高知市 SOGI 対応指針検討ワーキンググループの学習会

○総合評価及び今後の課題

1. 学部授業において

- ・学部授業では、教員との往復用リアクションペーパーを配布し、学生に（倫理的なジレンマ状況等に関して）考えてもらい記入させ、次週の授業で個別にコメントを返すと共に学生の意見を集約して紹介している。特に1回生必修授業（「現代社会と福祉」）の満足度や理解度の向上に、この個別フィードバックが関係している。
- ・女性福祉論や国際福祉論では、男女共同参画センター訪問や第一線で支援を行っている相談員の外部講師を招き、ひとり親、デートDV・DVの被害者、セクシュアル・マイノリティ、移民・外国人労働者等の当事者の困難さ・生きづらさ、背景にある社会構造、利用できる制度等を実践的に学べるよう工夫した。国際福祉論は4回生集中科目であり、受講生の継続的な出席が難しく、配当学年・時期が課題である。

2. 研究活動・社会貢献について

- ・科学研究（主任研究者・平岡公一教授）の分担研究者として、先進国の介護市場政策やインフォーマルな介護労働者に対する施策に関わる研究会に参加し、イギリスの政策動向を報告し、意見交換を行った。
- ・厚生労働省の「地域共生社会の指標づくり」に関わる補助金事業（主任研究者：近藤克則・千葉大学教授）においてイギリスのケア指標の最新動向について報告した。
- ・SOGI に基づく人権課題について、県内自治体の研修講師を担うと共に、高知県・高

知市等の担当者との学習会や学生・教員・専門職を対象にジェンダーに関わる研究会を行った。

3. 学内業務について

- 大学院人間生活研究科長の任期2年目として、研究科の運営が主たる業務であった。DPに基づく学修成果アンケートの改訂版作成と結果分析を行い、学生の意向を把握するよう務めた。また、教育研究担当副学長が主催する「人間生活学研究科のあり方検討会」において、3学部長（文化・社会福祉・健康栄養）と共に、博士前期課程文化学領域のカリキュラム修正を行うなど、従来からの懸案事項である定員確保について改めて検討する機会となった。次年度は、これらの検討事項について具体的な方策を進め、また基本となるデータ収集を行い、次回の認証評価に備える必要がある。
- 大学院（看護学研究科・人間生活学研究科）合同で、多様性・多文化対応能力(Cultural Competency)に関わる講演会をエルムズ大学の教授らを講師として、院生・教員を対象に実施した。院生に対してグローバルな学びを保障できる環境整備が課題である。
- 協定校である韓国・慶南科技大学校に初めて社会福祉学部の学生が1年間留学することになり、事前調整及び学生間交流を目的に、5月にゼミ生と共に訪問した。先方の教員の協力を得て、「社会福祉と倫理」の授業に参加して本学学生が発表を行い、また学科長らと今後の学部間交流について話合う機会を得た。それを踏まえ、社会福祉学部として、2020年2月より同大学の准教授を1年間の外国人研究員として受入れ、宮上学部長や学部国際交流委員長田中教授・辻講師とともに、受入担当教員として受入環境の整備を行った。

西 内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 論文

西内章（2019）「多職種連携と ICT」『ソーシャルワーク研究』45(1),18-24.

2. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究 (C) :2018 ～ 2020 年度

研究代表者 西内章

研究課題 『ソーシャルワークにおける ICT を活用した多職種連携モデルの構築』

3. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰、京都府立大学公共政策学部教授 中村佐織会長）」に所属し、アセスメント支援ツールの研究開発を行った。

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

① 「専門職連携論」

② 「チーム形成論」

[学部専門教育科目]

① 「事例研究法」

② 「相談援助の基盤と専門職」

③ 「虐待防止論」

④ 「ケアプラン策定法」

⑤ 「相談援助演習Ⅲ」

⑥ 「相談援助演習Ⅳ」

⑦ 「相談援助実習指導Ⅰ」

⑧ 「相談援助実習指導Ⅱ」

⑨ 「相談援助実習指導Ⅲ」

⑩ 「相談援助実習」

⑪ 「社会福祉専門演習Ⅰ」

⑫ 「社会福祉専門演習Ⅱ」

⑬ 「社会福祉専門演習Ⅲ」

⑭ 「社会福祉専門演習Ⅳ」

[大学院人間生活学研究科]

① 研究方法論Ⅱ

② ソーシャルワーク論

③ 高齢者福祉論

④ 課題研究演習

※主指導教員として M1 , M2 について各 1 名の研究指導を行った。

○委員会活動

- ①学部教務委員長
- ②人事関係検討会委員
- ③自己点検評価委員
- ④入試広報部会委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知県共同募金会評議員・高知県共同募金会配分委員
- ・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
- ・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
- ・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
- ・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

[研修会講師・講演等]

- ・令和元年度高岡地区市町村教育委員会連合会教育支援部会研修会講師「不登校児童生徒の理解と支援」（2019年5月24日）
- ・令和元年度高知県入退院支援事業研修講師「第2回多職種協働研修」（2019年7月16日）
- ・高知県立大学社会福祉学部オープンキャンパス体験授業講師「知ってる？社会福祉の“今”と“未来”ーソーシャルワーカーの支援を学ぶー」（2019年7月28日）
- ・高知県相談支援従事者のための社会福祉基本研修講師「ソーシャルワーク入門」（2019年8月12日）
- ・令和元年度認知症ケア実務者・高齢者虐待防止研修講師（主催：須崎市地域包括支援センター）「事例検討を通してみんなでケアを考える」（2019年8月23日）
- ・令和元年度高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修講師「保健医療福祉をめぐる動向・諸制度の変遷」（2019年9月8日）
- ・令和元年度本山町権利擁護センター事業成年後見制度窓口担当者スキルアップ講座講師「対象者理解」（2019年9月26日）
- ・高知市成年後見サポートセンター市民後見人養成講座講師「対象者理解」（2019年10月10日）
- ・令和元年度高知県相談支援従事者「初任者」研修講師「ケアマネジメントの展開①」担当（2019年10月30日）
- ・土佐清水市市民後見人養成講座講師「権利擁護（虐待予防）」（2019年11月22日）
- ・2019年度高知県隣保館職員等研修事業講師「人権課題別研修Ⅰ」（2019年11月28日）
- ・高知県医療的ケア児等支援養成研修・コーディネーター研修講師「支援の基本的枠組み、制度、保育」（2019年12月16日）
- ・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅱ講師「実践研究発表の方法（講義・演習）」（2020年2月15日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動

新たに「ケアプラン策定法」を担当することになったため、当該科目について教材を検討し授業を行った。共通教養教育科目「チーム形成論」は、コロナウィルス感染症の影響で授業が中止になった。社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、4回生7名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生1名の主指導を担当し、修士論文を提出することができた。

次年度の教育活動では、授業の目標をもとに教材研究を行い、学生の理解度に応じた授業展開を改善したい。

2. 研究活動

研究活動では、科研費の研究が2年目であった。研究はモデルの試案を検証する作業に入っており、課題も明らかになってきた。そこで実践で活用するためにこれまで研究を基盤にして検証調査に取り組む必要がある。次年度は、2年前の科研申請時に作成した研究計画を再度見直したい。そして研究目的とこれまでの研究活動を照らし合わせ、今後の研究について精査した上で調査に取り組みたい。

3. 委員会活動

委員会活動では、学部教務委員長として、教務委員会のメンバーとともにカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの作成に取り組んだ。そして学習到達度アンケートについても質問項目の表現を見直して実施することができた。教務委員以外の活動では、入試広報委員として本学主催の進路説明会や進学ガイダンスへの出席、高校訪問などを行った。また入退院支援事業の研修についても一部を担当した。

4. 社会的活動

社会的活動では、昨年度も高知県内の医療福祉、高齢者福祉、地域福祉、児童福祉、障害者福祉、教育などの分野において、各委員会の委員活動、ソーシャルワーク研修や権利擁護研修、事例検討等を行った。それぞれの研修において、社会福祉士や精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、教員等の多職種方々が直面している課題について協議することができた。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

5. 今後の課題

教育活動では引き続き、授業に有用な教材の検討を行いながら、自らの教育力を見直したい。研究活動では、これまでの成果をふまえながら調査活動を丁寧に行いたいと考えている。委員会活動では、次年度は総務委員長、実習委員長を担当することになっている。わからないことも多いため学ぶ姿勢を大切にして新たな気持ちで業務を担当したい。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

○研究活動

1 研究会参加

十勝ソーシャルワーク研究会への参加（創立 50 周年記念実行委員）

2 論文等

なし

○教育活動

（学部）

- ・福祉研究法入門
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習 I・II
- ・精神保健福祉援助実習指導 I
- ・精神保健福祉援助実習指導 II
- ・精神保健福祉援助演習

（大学院）

- ・精神科ソーシャルワーク論

○委員会活動

1 学部

- ・社会福祉研究倫理審査会委員
- ・全学FD委員
- ・入試広報部会

2 大学院

- ・入試監査委員

○社会的活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

○総合評価及び今後の課題

学部・大学院ともに、社会福祉学を学ぼうとする学生の質の変化に戸惑いを隠せない。また、学生間の差異が広がっており、授業・演習・実習の体系的組み立てにも、どこに照準を合わせるかに頭を悩ませる日々である。

社会福祉学の大きな特徴の一つは、理論を敷衍する実践活動を伴っていることである。

実践場面において、利用者の現実生活に実効を上げるためには、実践・教育・研究の統合への取り組みが必要不可欠であると考えている。しかし、近年これらを貫く軸が大きく揺らぎつつあるように感ずる。社会福祉学としての本質に立ち戻り、研究のさらなる深化をはかりたいと願っている。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1）論文

- ・宮上多加子・河内康文・荒川泰士(2020) サービス提供責任者の経験を通じた学びと訪問介護事業所における支援関係『高知県立大学紀要社会福祉学部編』69, 31-43.
- ・河内康文・宮上多加子・辻真美・荒川泰士(2020) ホームヘルパーの経験による学びと職場における支援関係『高知県立大学紀要社会福祉学部編』69, 69-83.
- ・田中眞希・宮上多加子(2020) 障害者支援施設介護職員における感情コントロールの現状—演じる行為に着目して—『Humanismus』31, 69-85.

（2）学会発表

- ・辻真美・宮上多加子・河内康文：ホームヘルパーの業務に対する意識と職場の支援関係に関する一考察，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会（高知），2019年7月.
- ・田中眞希・宮上多加子：障害者施設介護職員の感情コントロール—演じる行為に着目して—，日本介護福祉学会第27回大会（静岡），2019年9月.

○教育活動

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース1回生（後期）の授業を担当した。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と、事例を用いた介護過程の概要について講義した。

（2）「介護過程Ⅱ」

介護コース2回生（前期）の科目であり、介護実習の記録としても活用している KOMI 記録システムについて詳細に解説した。

（3）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」ともに本年度よりオムニバスで担当した。介護コース以外の学生も履修したため、医学的側面からの理解を深めると同時に、当事者からの発信、地域社会における認知症をもった人への支援などを取り上げた。

（4）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

3回生のゼミ生は4名、4回生のゼミ生は7名であった。ゼミの活動内容については、ゼミ記録として冊子にまとめる予定である。

[大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

（1）「介護福祉論Ⅰ」を学部専任教員とオムニバスで担当した。

（2）論文指導

正指導教員としてM1生1名とM2生2名、副指導教員としてM1生2名とM2生1名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[大学院（博士後期課程）]

（1）論文指導

教育研究活動報告書（宮上 多加子）

正指導教員として院生1名，副指導教員として院生1名を担当し，いずれも令和元年度に学位取得した。

○委員会活動

[全学]

社会福祉学部長(教育研究審議会/部局長会議/入学試験委員会/自己点検評価運営委員会/教員評価委員会/非常勤講師審査委員会/学術研究戦略委員会/人事委員会/大学教育改革PJ委員会/人間生活学研究科あり方検討会/入試改革PJ委員会/国内・国外研修審査委員会/高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会)

[学部]

学部総務・予算委員会/学部人事関係検討会/自己点検評価委員会

[大学院（人間生活学研究科）]

学務委員/教務委員会

○社会的活動

高知県社会福祉審議会委員/高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員/高知市民生委員推薦会委員

高知県社会福祉協議会理事/日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

○総合評価と今後の課題

(1) 教育活動

本年度より介護コースの教員1名が着任したため，担当科目に若干の変更があった。科目の中でも，人間の身体機能や老化による変化を扱う内容は，学生の興味を引き出し理解を促すという点で毎年試行錯誤している。次年度以降は，医療福祉職養成教育の中で福祉関係以外についても情報収集し，授業内容や方法を改善をしていきたい。

(2) 研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」(研究期間：平成29～31年度)の3年目として，在宅介護事業所への調査を引き続き実施した。事業所職員の勤務形態や組織体制の特徴により，当初予定していたような調査結果が得られなかったため，研究期間を令和2年度まで延期して，今年度はサービス提供責任者に焦点化した調査を実施した。次年度は，調査結果を精査し，研究としての妥当性や確証性を高めるようにしたい。

(3) 学内業務

志願者確保については，入試広報担当教員を中心に高知県全域の高等学校への訪問を継続して実施するとともに，「高知県キャリア教育推進事業」を実施し，社会福祉学部の広報を積極的に展開した。令和元年度入試の志願者数は，推薦入試（県内枠）はやや減少したが，前期日程で志願者が大幅に増加し，面接に1日半を要した。さらに，辞退者は前期日程で2名，後期日程は無となった。このような志願者の動向については，社会状況の変化を含めて検討し対応していく必要がある。

学部運営に関しては，ここ数年の課題であった教員体制が一応整ったため，各教員が本来の業務量で教育研究を行うことが可能となったと思われる。共同研究の活性化や外部資金獲得に向けた仕組みづくり等、今後取り組むべき課題は多い。このような状況で，年度末に起こった新型コロナ感染拡大は，教員の教育研究活動にも多大な影響を及ぼした。感染予防策を講じながら，大学教育継続のために柔軟に対応していく必要がある。

横井 輝夫

Teruo YOKOI

○研究活動

（１）MISC

- ・横井・他：認知症のADLとIADL、PTジャーナル53(8)、801-808、2019.

（２）競争的資金

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C)「ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？」 研究期間：2016年4月～2020年3月
研究代表者：横井輝夫

○教育活動

（学部）

- ・精神保健学Ⅰ
- ・精神科リハビリテーション学
- ・こころとからだのしくみⅠ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・精神保健学Ⅱ
- ・発達と老化の理解Ⅱ
- ・こころとからだのしくみⅡ
- ・介護の基本Ⅱ

（大学院）

- ・福祉リハビリテーション論
- ・社会福祉学課題研究演習
（多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座）
- ・福祉住環境の視点

○委員会活動

（全学）

- ・学生委員会
- ・総合情報センター委員会
- ・図書館委員会

（学部）

- ・人事関係検討会
- ・倫理審査委員会
- ・介護人材確保事業部会
- ・学年担当

（大学院）

- ・学務委員

○社会的活動

（研修会講師・講演等）

- ・高校生と保護者のための公開講座
「人生の過程を考えよう」（令和元年10月26日）
- ・高知県介護福祉士会 勉強会
「生きるってなんやねん！忘れるんだから、その場は嘘をついてごまかしておこうってなんやねん！認知症ってなんやねん」（令和2年2月8日）

（学外非常勤講師）

- ・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
- ・吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

介護福祉士指定科目については、病気のことなど学生は多くの新たな知識を獲得する必要があるため、毎回確認テストを行いながら進めた。精神保健福祉士指定科目については、学生の関心を高めるために映像教材や興味深いと思う資料を配布しながら進めた。

（２）研究活動について

科学研究費補助金（基盤研究C）「ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？」の研究成果3論文を投稿中。

（３）学内業務について

全学の学生委員会の委員と図書館委員会の委員長を務めた。学部では4回生の学年担当を務めた。

（４）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

大 松 重 宏

Shigehiro OHMATSU

○研究活動

1. 論文

なし

2. 著書

なし

3. 学会発表

- ・福神大樹・金尾久美・三浦恵里子・大松重宏「胸膜中皮腫の治療時期(病期)によるソーシャルワーカーの介入時期と支援内容の考察」第39回日本医療社会福祉事業学会(神奈川県)2019年6月
- ・福神大樹・大松重宏「建設労働者の石綿関連疾患の発症前に有する心理社会的問題-石綿関連疾患に対するソーシャルワーク予防的アプローチの考察-」第29回日本保健医療社会福祉学会大会(東京:聖路加国際大学)2019年9月

4. 競争資金の獲得

なし

○教育活動

- ・相談援助演習Ⅲ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・社会福祉入門演習
- ・保健医療サービス
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・医療福祉論

○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学連携事業委員
- ・糖尿病保健指導連携体制構築事業委員
- ・入退院支援事業委員
- ・多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座実施委員会委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ顧問

2. 学外講師等

- ・令和元年高知県立大学入退院支援事業研修講師「多職種協働研修」第2回(2019年8月27日),第3回(2019年9月20日),第5回(2019年10月29日)
- ・サイバーナースの会びあナース おでかけびあナース café in 大阪研修会講師「がんサイバーナースに望むこと」(2019年8月24日)
- ・令和元年度高知県立大学域学共生連携拡大会議講師「医療の中でがん体験者の力をどう生かすのか」(2019年9月12日)
- ・令和元年高知県立大学職業実践力育成プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座」「チームアプローチⅠ・チームアプローチⅡ」講

教育研究活動報告書（大松 重宏）

師（2019年10月5日, 11月9日）

- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「ピアサポートとは～宝物のがん体験」（2019年10月26日）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会研修会講師「もしバナ®ゲームしませんか～ACPとは」（2020年1月25日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習では、実践現場の事例を用いた説明や実際の面接場面を教員が模擬的に演じて現実感を持った内容にし、学生が意欲的に取り組むことができるよう工夫した。授業では終了時にリアクションペーパーの記載を義務付け、学生自らが1時間の授業内容を振り返る作業を行う中で生じた疑問や質問を提出するよう促した。授業内ですべての質問に回答し、双方向の授業となるよう努めた。今後は、より理解しやすい授業内容にするため学生とのコミュニケーションをさらに工夫していきたい。翌週の授業までの復習や予習内容を毎回具体的に提示していく。

「保健医療サービス」では、社会福祉士国家試験の過去問題を取り入れ、国家試験対策に対して学生がリアリティを持てるよう努めた。これは今後も継続して実施していく。

今年度より、22期生の学年担当を教員二人体制で行った。一人ひとりが興味や関心から発展させて実習先を選択すること、さらに社会福祉専門職としての進路を具体的に描くことの助けになるよう、高知県内の病院や社会福祉協議会等に勤務する各社会福祉分野のソーシャルワーカーに講演を依頼し授業の中で現場の状況について紹介してもらった。また、勉学や集団生活に適應できない学生が少なからずおり、そのような学生の中には自分自身どう相談して良いのかもわからない状況の者も存在した。そこで、積極的に連絡を取り、一緒に考えることを伝え、継続的な相談につなげることに努めた。多忙な1年であったが、他の教員と連携し学生の様々な課題に支援できた貴重な体験であった。

2. 研究活動について

石綿関連疾患患者へのソーシャルワーク支援について今後も研究を継続する予定であり、今後は研究発表から論文執筆へ繋げたいと考えている。また、がん患者のピアサポートについても同様に継続課題としたい。

3. 社会活動について

高知県医療ソーシャルワーカー協会に協力を依頼して、「現任者のためのスーパービジョン」の研修を企画運営することと併行し、より役立つ学習コンテンツを開発し実務者の卒後教育に貢献したい。また、ライフワークである「がん患者とピアサポート」については、高知県内および他府県で活動するがん患者会の定例会や研修会により多く参加し、セルフヘルプグループの運営を支援したいと考える。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

（１）学術論文

- ・ Takanori SUZUKI : Search for Factors of why the Community Transition Support Offices are Not Performing the Community Transition Support Services, *Ohdai Social Welfare Studies*, No28, 2020.3.
- ・ 田村綾子、藤井千代、行實志都子、鈴木孝典 「障害者の地域移行及び地域生活支援のサービスの実態調査及び活用推進のためのガイドライン開発に資する研究」『厚生労働科学研究費補助金 疾病・害対策研究分野障害者政策総合研究(H30-身体・知的-一般-006 報告書)』、2019.6.

（２）著書

- ・ なし

（３）学会発表等

- ・ 鈴木孝典、田村綾子、行實志都子 「指定地域相談支援事業所が地域移行支援を実施できない要因の探索」、一般社団法人日本精神保健福祉学会第8回学術研究集会（東京）、2019.6.

（４）競争的資金の獲得

- ・ 厚生労働科学研究費補助金（障害者総合政策研究事業）（H31-身体・一般-006）
研究代表者：田村綾子
研究分担者：藤井千代、行實志津子、鈴木孝典
研究課題名：「障害者の地域移行及び地域生活支援のサービスの実態調査及び活用推進のためのガイドライン開発に資する研究」

○教育活動

（１）講義

[学部]

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 「精神保健福祉論Ⅰ」 | 7. 「精神保健福祉援助実習Ⅰ」 |
| 2. 「精神保健福祉論Ⅱ」 | 8. 「精神保健福祉援助実習Ⅱ」 |
| 3. 「社会福祉専門演習Ⅰ」 | 9. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」 |
| 4. 「社会福祉専門演習Ⅱ」 | 10. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」 |
| 5. 「社会福祉専門演習Ⅲ」 | 11. 「精神保健福祉援助演習」 |
| 6. 「社会福祉専門演習Ⅳ」 | |

[大学院]

1. 「研究方法論Ⅱ」
2. 「障害者福祉論」

（２）講義以外

- ・ 実習支援
精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

○委員会活動等

（1）学部

1. 精神・社会福祉コース主担当
2. 実習委員
3. 入試委員
4. 入試広報部会主担当

（2）全学

1. 学部入試実施委員
2. 総合情報センター運営委員（人間生活学研究科選出委員）
3. 情報処理施設委員

○社会的活動

（1）委員等

1. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
2. 高知県自立支援協議会 副会長（2009年2月～、副会長2014年7月～）
3. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
4. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
5. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
6. 障害のある人もない人も安心して暮らせる高知県づくり条例（仮称）検討委員会 委員長（2019年7月～）
7. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～2019年5月）
8. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
9. 社会福祉法人ファミリーユ高知 評議員（2015年4月～）
10. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 理事（2016年6月～）
11. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015年4月～）
12. 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 機関誌査読委員（2015年4月～）
13. 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会 副委員長（2015年4月～、副委員長2018年3月～）
14. 精神保健福祉士試験委員（2018年5月～）
15. 高知大学研究拠点プロジェクト中間評価委員会 委員（2018年4月～）
16. 全国精神医療審査会連絡協議会 理事（2020年3月～）

（2）講演等

1. 高知県相談支援専門員協会「相談支援従事者のための社会福祉基本研修「障害者福祉論」講師（8月12日）
2. 平成30年度高知県相談支援従事者研修会「相談支援概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」講師（8月20日）
3. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（9月2日～3日（東京））

（3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）
3. 大正大学大学院人間学研究科博士前期課程（「M ソーシャルワーク研究法Ⅱ」担当）
4. 日本福祉教育専門学校通信課程（「精神保健福祉の基盤と専門職」担当）
5. 順天堂大学健康スポーツ科学部（「精神保健福祉論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、実習事後指導における実習評価のための個別面接を実施することができた。また、学生の授業評価を精査し、次年度に向けて精神保健福祉援助実習指導及び演習のプログラムを昨年度より引き続き見直した。

講義科目については、moodle を本格的に導入するとともに、アクティブ・ラーニングの技法を用いた授業の充実を図った。新たな授業展開については、受講生より一定の評価を受けることができたが、当初の授業計画に沿った授業運営の面では一部のプログラ

教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

ムに遅延が生じた。次年度は、無理のない授業運営が可能な授業計画及び授業プログラムの構成を心掛け、さらなる授業プログラムの充実を図りたい。

（2）研究活動について

今年度は、昨年度に引き続き、科研費に係る調査研究を中心に活動した。保健福祉領域の実践者の協力を得ながら、統計的調査を実施した。また、厚生労働科学研究の分担研究者として、昨年度と同様に他機関の研究者、実践者との共同研究を展開した。その結果、新たな先駆的実践フィールドとの関係を形成するとともに、障害保健福祉施策の根拠となる研究成果を得ることができた。あわせて、その研究成果について、学会発表及び学術誌において公表するに至った。次年度は、新たな科研費の獲得に向けた準備を進めたい。

（3）学内業務及び社会貢献活動について

入試実施委員として、昨年度に引き続き、福間講師、遠山講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。また、昨年度に引き続き、入試広報ワーキンググループの主担当として、学部教員と協働しながら、高校訪問を実施し、入試広報とあわせて高校の進路指導の実態把握等に努めた。次年度は、今年度に引き続き、県内外での進学ガイダンスへの参加や高校の訪問などの入試広報について、学部広報委員会、介護基金事業部会と連携を図りながら進めたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

- (1) 研究会参加
 - 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- (2) 学会報告
 - 1) 山口真里・西梅幸治・加藤由衣（2019）「ソーシャルワーク教育における実習スーパービジョンの方法と課題—スーパービジョン過程での省察に焦点を当てて—」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会（高知県立大学：高知）
- (3) 論文等
論文
 - 1) 西梅幸治・加藤由衣（2020）「スクールソーシャルワークにおけるストレングス・アセスメント指標の構造」『高知県立大学紀要』69, 1-13.

○教育活動

- (1) 担当科目
(学部)
「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の理論と方法Ⅳ」「相談援助の基盤と専門職」
「社会福祉専門演習Ⅰ」「社会福祉専門演習Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅳ」「相談援助実習」「相談援助演習Ⅰ」
「相談援助演習Ⅱ」「相談援助演習Ⅳ」「相談援助実習指導Ⅰ」
「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅲ」「社会福祉入門演習」
「社会福祉基礎演習」「スーパービジョン」
(大学院)
「研究方法論Ⅱ」「ソーシャルワーク論」
- (2) クラブ活動
 - ・グローバルクラブ顧問
 - ・手話サークル顧問

○委員会活動

全学

- ・学生委員会

学部

- ・実習委員会（社士主担当）
- ・総務予算委員会（長）
- ・自己点検評価委員
- ・学部長選挙管理委員
- ・国試対策支援委員会（長）

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 社会福祉主事研修・相談援助演習講師
- ・エコシステム研究会 副代表
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」（2019年7月26日）

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2019年8月4日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」（2019年8月1日、9月4日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」（2019年11月10日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業 講師「人権課題別研修Ⅰ」（2019年11月28日）
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2019年12月20日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」（2020年2月27日）
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」（4月～3月：計6回）
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」（2月：計2回）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行ってきた。今年度は、研究会で開発中のコンピュータ支援ツールの基礎を完成させることができた。また共同研究で進めている実習教育に関する研究成果についても学会発表などで公表できた。しかし自身の主たる研究テーマについては課題が残った。今後は、科研費の取得に継続的に取り組み、研究成果をコンスタントに公表していきたい。

（2）教育活動について

授業では、毎回の授業開始時に、前回の復習や学習手法などを取り入れ、知識の定着を図った。また授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントに応じて、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度も演習Ⅳでは、グループ・スーパービジョンに取り組み、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

また今年度は、7名の学生の卒論指導を行った。学生個々に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、毎回グループで進捗状況を共有しながら、文章構成と分析・考察を深められるように指導を行い、成果を出すことができた。学生たちも相互に高め合いながら進めていたように感じている。

（3）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営に、総務委員長としては、学部棟などの設備管理や予算執行に、国試対策支援委員長としては、4回生の国試対策に少なからず貢献できたと感じている。今年度も継続して、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修についても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献できるように取り組んでいきたい。

福間 隆康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

1 論文

- ・福間隆康「農業分野における障がい者の就労継続—岡山県内の就労継続支援 A 型事業所を対象とした質的調査」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 69 巻, pp. 45-59, 2020 年 3 月。

2 学会発表

- ・福間隆康「役割ストレスが離職意思に与える影響—特例子会社の精神障がい者を対象とした定量的分析」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第 51 回高知大会（高知県立大学），2019 年 7 月。
- ・福間隆康「役割ストレスが離職意思に与える影響—自己効力感とソーシャルサポートの調整効果」人材育成学会第 17 回年次大会（早稲田立大学），2019 年 12 月。

3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究」（2018 年度～2021 年度）

○教育活動

1 学部

- ・福祉対象入門
- ・福祉援助入門
- ・地域福祉論Ⅱ
- ・福祉サービスの組織と経営
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・相談援助実習

2 研究科

- ・地域福祉論Ⅱ
- ・社会福祉学課題研究演習

○委員会活動

1 全学

- ・地域教育研究センター地域連携部会委員
- ・入試実施委員会委員

2 学部

- ・学生委員会委員（第 20 期生学年担当）

○社会的活動

1 委員等

- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国市あったかにんにん運営委員会委員

2 研修会講師・講演等

- ・出前講座講師（愛媛県立丹原高等学校，2019年8月5日）
- ・出前講座講師（高知県立安芸高等学校，2019年10月17日）
- ・令和元年度南国市生活困窮者自立支援フォーラムパネラー（南国市社会福祉センター，2020年2月22日）

○総合評価及び今後の課題

1 研究活動

科学研究費助成事業（若手研究）の研究成果の一部を学会報告するとともに，研究紀要に掲載することができた。次年度は，科学研究費助成事業（若手研究）の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し，研究成果の形として，学術雑誌に論文を投稿する予定である。

2 教育活動

授業では，アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き，学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。また，ICTを活用した授業を実施し，学生には講義を聴くだけでなく，より発展した疑問を考えさせたり，自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。次年度は，学生による授業評価に基づき授業を改善し，魅力ある授業を実施していきたい。

3 委員会・社会的活動

入試実施委員会委員（学部委員長）として，入試業務を円滑に実施することができた。学生委員会委員（第20期生学年担当）として学生支援を行い，学生の様子を把握することができた。また，地域教育研究センター生涯学習部会委員として，県内外の高等学校で出前講座を行った。

南国ネットワーク連絡会および南国市あったかにんにん運営委員会において，関係機関・団体と関係をつくることができた。今後は，高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ，産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文

- ・三好弥生・片岡妙子・浅沼高志・武富純子・杉原優子（2020）「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難の評価－アンケート結果に基づく方法の見直し－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』69, 61-68.

2. 著書

- ・なし

3. 学会発表

- ・李傑・三好弥生・横井輝夫「重度の認知症の人のケアについての一考察－メルロ・ポンティの身体性とギブソンのアフォーダンスから－」日本認知症ケア学会大会（京都）2019年6月.
- ・三好弥生「終末期に至る高齢者の食事困難タイプ別介護方法の特徴」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回大会（高知）2019年7月.
- ・三好弥生・片岡妙子「終末期に至る高齢者における食事摂取困難の評価の再検討」第27回日本介護福祉学会発表（静岡）2019年9月.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士「自立支援・重度化防止を意識したホームヘルパーの関わり－老計第10号の改正をきっかけに－」認知症ケア学会中国・四国ブロック大会（岡山）2020年2月.

4. 競争的資金の獲得

- ・平成28年度～31年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））「介護者による高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に向けた実証的研究」（研究代表者）

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・高齢者福祉論Ⅱ
- ・介護過程Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅴ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ
- ・医療的ケアⅡ
- ・介護過程Ⅳ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護論（健康栄養学部）

2. 大学院担当科目

- ・介護福祉論Ⅱ

○委員会活動

1. 全学
 - ・ 共通教育部会
2. 学部
 - ・ 介護コース主担当、教務委員、実習委員
3. 大学院
 - ・ 広報委員

○社会的活動

1. 委員等
 - ・ 令和元年度 厚生労働省委託事業 高知県ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会 協議会構成員
2. 研修会講師・講演等
 - ・ 高知工科大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス及び香美キャンパス（4月）
 - ・ 高知県立大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス（4月）
 - ・ いのちの電話相談員養成講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」高知市保健福祉センター（4月）
 - ・ 本山町夜学 2019 講師「老いと日常生活－見えづらさと聞こえづらさから－」（6月）
 - ・ 特別養護老人ホーム土佐清風園職員研修講師「看取りへの葛藤から前向きな意識へ」南国市（9月）
 - ・ 高知県身体障害者（児）施設協会協議会（作業部会）・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会「就職先を選ぶ学生の観点」高知共済会館（1月）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

学部でも担当科目は昨年度同じく変化なかったが、今年度初めて大学院修士課程の副研究指導を担うことになった。授業展開にあたっては、期末に実施される授業評価の結果を踏まえ、授業の達成目標や内容、進め方などを明確に授業の最初に提示するようにした。

2. 研究活動について

科研費助成を受けている高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に向けた研究は、今年度が最終年度となった。昨年実施したアンケート結果をもとに、終末期に至る要介護高齢者の食摂取困難の評価の見直しを行い、論文にまとめることができた。また、食事困難タイプ別介護方法の特徴について、学会で発表することができた。

3. その他

令和元年度は、3年振りに介護福祉士養成課程の監査を受け、結果特に注意や指導を受けることなく終えることができた。

加藤 由衣

Yui KATO

○研究活動

（1）論文・著書

- ・西梅幸治・加藤由衣「スクールソーシャルワークにおけるストレングス・アセスメント指標の構造」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 69 号, 1-13, 2020 年 3 月.

（2）学会報告

- ・山口真里・西梅幸治・加藤由衣「ソーシャルワーク教育における実習スーパービジョンの方法と課題ースーパービジョン過程での省察に焦点を当ててー」日本社会福祉学会中国・四国ブロック第 51 回高知大会（高知県立大学）, 2019 年 7 月.

（3）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（4）競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成 30 年度～令和 2 年度）, 研究代表者

（5）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2019）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2020』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法Ⅰ」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「児童・家庭福祉論」
- ・「子育て支援論」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅱ」
- ・「相談援助実習指導Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅳ」
- ・「相談援助実習」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ」

（2）クラブ活動

- ・バスケットボール部顧問
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・こどもみらい塾顧問

○委員会活動

（1）全学委員

- ・キャリア支援委員会
- ・健康管理センター運営委員会

（2）学部委員

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・ソーシャルワーク教育学校連盟担当
- ・福祉実習支援室長

○社会的活動

（１）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・社会福祉法人南少 再発防止委員
- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・高知県相談支援専門員協会 障害福祉基本研修 講師「相談援助の基盤」（2019/8/12）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2019/8/14、10/9）
- ・ココプラ高知県産学官民連携センター シーズ研究内容紹介 講師「子どもと家庭を支えるスクールソーシャルワーク」（2019/9/18）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2019/11/30）
- ・高知県隣協人権課題別研修Ⅲ 講師「子どもや家族への相談支援」（2020/1/16）
- ・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅱ 講師「実践研究の意義と方法・実践研究のための記録・実践評価の方法」（2020/1/25）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科研費（若手研究）の研究期間２年目の本年度は、年度末の感染症の影響もあり調査研究を進めることができなかつたが、理論研究を進め、スクールソーシャルワーカーの省察的実践を促進するツール開発にむけたアセスメント指標の整理を行った。次年度は、本年度実施できなかった調査研究を中心に、早期から計画的に研究を進めていきたい。

またエコシステム研究会では、エコシステム理論に基づく実践支援ツールを開発し、運用を開始した。次年度は、科研費の研究成果を実践支援ツールに適用し、省察的実践を促進するツールの開発と活用の方法を探究していきたい。

（２）教育活動について

講義・演習では、「児童・家庭福祉論」と「子育て支援論」の２科目を新たに担当した。これらの科目では、演習等を行いながら、制度・政策とソーシャルワーク実践の相互関連を学生が学べるような授業づくりに努めた。今後は、学生の授業評価結果やリアクションペーパーを参考に授業内容を改善し、学生が主体的に学びを深め、専門職に必要な知識やスキルを獲得できるよう、教材や授業展開を工夫していきたい。

実習教育では、実習先の職員との関係や学生の精神面のサポートなど配属実習中の学生のフォローに力を注いだ。また事前事後指導では、実習前から実習後までの一連の実習スーパービジョンを意識して、実習後の事例検討などを進めた。しかし、個別事例から学生がソーシャルワークの専門性を十分深めるまでに至らなかったように感じる。本年度の課題をふまえつつ、配属実習をとおして学生がソーシャルワークを体験的に学ぶことができるよう、実習指導者とも密に連携し、教育内容の改善に取り組んでいきたい。

国家試験対策の支援では、個別面談などをとおして、学生の動機づけや学習計画立案の支援に携わったが、継続的なフォローをできなかった学生がいたことや、全体の状況把握が充分でなかった点が自身の課題として挙げられる。そのため、全体と個別の状況の把握と支援を意識しながら、丁寧な個別相談に取り組み、今後も国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

河内 康文

Yasufumi KOCHI

○研究活動

1. 報告

河内康文・宮上多加子・辻 真美・荒川泰士「ホームヘルパーの経験による学びと職場における支援関係」『高知県立大学紀要』69, pp.69-84. 2020年3月.

宮上多加子・河内康文・荒川泰士「サービス提供責任者の経験を通じた学びと訪問介護事業所における支援関係」『高知県立大学紀要』69, pp.31-44. 2020年3月.

2. 学会発表

辻 真美・宮上多加子・河内康文「ホームヘルパーの業務に対する意識と職場の支援関係に関する一考察」. 日本社会福祉学会中国・四国部会, 第51回大会. 2019年7月13日（於：高知県立大学池キャンパス）.

3. 競争的資金の獲得

- (1) 科学研究費補助金若手研究[2019年度～2021年度]「介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－」（代表者：河内康文）
- (2) 科学研究費基盤研究(C)[2017年度～2019年度]「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」（代表者：宮上多加子）（研究分担者）

○教育活動

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1. 介護の基本Ⅰ | 2. 介護の基本Ⅲ | 3. コミュニケーション技術 |
| 4. 介護総合演習Ⅰ | 5. 介護総合演習Ⅱ | 6. 介護総合演習Ⅲ |
| 7. 介護総合演習Ⅳ | 8. 介護実習Ⅰ | 9. 介護実習Ⅱ |
| 10. 介護実習Ⅲ | 11. 障害の理解Ⅱ | 12. 社会福祉専門演習Ⅰ |
| 13. 社会福祉専門演習Ⅱ | 14. 社会福祉専門演習Ⅲ | 15. 社会福祉専門演習Ⅳ |

○委員会活動

- (1) 介護人材確保事業部会委員長
- (2) 学生委員
- (3) 健康長寿センター（全学）
- (4) 広報委員
- (5) 社会福祉研究倫理審査委員会

○社会的活動

1. 委員等

- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (3) 高知市障害者計画等推進協議会 副会長
- (4) 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会委員

教育研究活動報告書（河内 康文）

2. 講演等

- (1) 高校生と保護者のための公開講座 講師（高知県立大学池キャンパス：2019年7月27日，10月26日）
- (2) 高知県キャリア教育推進事業高校生講座（安芸高等学校：2019年10月21日，高知南高等学校：2019年10月24日）
- (3) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修ステップ1 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（両日高知市：2019年5月21日，6月11日）
- (4) 日本社会福祉学会中国・四国部会第51回大会 シンポジスト「介護人材としての日本人の就労と外国人の受け入れ—インタビュー調査の結果から—」（高知県立大学池キャンパス：2019年7月13日）
- (5) 域学共生連携拡大会議 報告者「高大連携を見据えた高知県キャリア教育推進事業」（高知県立大学永国寺キャンパス：2019年9月12日）
- (6) 高知県立大学健康長寿センター開設10周年記念事業 シンポジスト「高知の介護・福祉人材を確保するための高校生への取り組み」（高知県立大学池キャンパス：2019年11月2日）
- (7) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修ステップ2 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（四万十市：2019年10月15日，香南市：10月25日，高知市：11月5日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

担当科目については、これまでと同様にタブレット端末等を用いて、視覚的にわかりやすい授業になるように心がけた。加えて、ゲストスピーカーによる講義をしたり、実際に福祉現場を体験したりして、理論と実際が結びつきやすいように意識した。

また、担当授業科目のほとんどは、介護福祉士国家試験の科目である。そのため、授業は受験対策にも対応できるようにアプリを用いて双方向の授業を展開した。授業評価を見てみると、これらの取り組みは受講生から概ね支持をされていた。この取り組みを継続するとともに、プレゼンテーションやディスカッションなど、内容をより充実させていきたいと考えている。

2. 研究活動について

本年度は、科学研究費の研究（代表者）として取り組んでいる研究の文献を整理するとともに、科学研究費の研究（研究分担者）の研究成果をまとめた。次年度は、代表者分の研究を遂行し、まとめていく。

3. 社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を反映する場として、高知県社会福祉協議会が主催する「新人職員研修」「福祉人材確保セミナー」で講師をする機会が得られた。また、今年度は新たに高知市障害者計画に関わる機会を得た。高知県の福祉介護の課題に対して、少しでも貢献ができるよう取り組んでいきたい。

○研究活動

1. 論文

- ・河内康文・宮上多加子・辻真美・荒川泰士「ホームヘルパーの経験による学びと職場における支援関係」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』2020年3月.

2. 著書

- ・辻真美：第4版「第3章 第1節 チームマネジメント」小池将文・内田富美江・森繁樹監修『実務者研修テキスト 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション』日本医療企画, pp. 189-198. 2019年4月.

3. 学会発表

- ・辻真美・宮上多加子・河内康文「ホームヘルパーの業務に対する意識と職場の支援関係に関する一考察」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会. 2019年7月13日.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士「自立支援・重度化防止を意識したホームヘルパーの関わりー老計第10号の改正をきっかけにー」認知症ケア学会中国・四国ブロック大会. 抄録集 p 29. 2020年2月23日.

4. 競争的資金の獲得

なし

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅰ・介護の基本Ⅱ・介護の基本Ⅲ・認知症の理解Ⅰ・認知症の理解Ⅱ
- ・コミュニケーション技術・介護総合演習Ⅰ・介護総合演習Ⅱ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ

○委員会活動

1. 学部

- ・学部災害対策委員・学部健康長寿センター運営委員、土佐市連携事業 土佐市地域ケア会議推進プロジェクト委員・学部国際委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・南国市社会福祉協議会登録ヘルパー・日本介護福祉学会評議員・第25回日本在宅ケア学会学術集会企画委員・介護労働安定センター高知支部ヘルスカウンセラー

2. 講演等

- ・高知工科大学講師「介護等体験事前指導」香美キャンパス（2019年5月11日、2020年3月16日）
- ・高知県ヘルパー連絡協議会全体研修会講師「歩み寄るコミュニケーションの大切さ～チームケアの向上に向けて～」高知県立ふくし交流プラザ（2019年5月25日）
- ・ふくし総合フェア高知県ヘルパー連絡協議会ブース出展用パンフレット冊子作成と広報活動への参加（2019年7月14日）

教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・高知県立大学職業実践力育成プログラム 多職種連携による保健福祉医療重視者の力量アップのための講座－高齢者ケア力の向上に向けて－「介護過程の展開」担当（2019年8月17日）
- ・土佐清風園職員研修講師「虐待防止、人権・権利擁護について考える」（2019年8月20日）
- ・高校生と保護者のための公開講座講師「輝く人生とは－福祉職が目指すもの－」（2019年10月26日）
- ・介護労働講習（実務者研修含、現場実習補足講習）講師「サ責とは」（2019年11月7日）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「介護現場でのコミュニケーションを考える－チームケアの向上に向けて－」（2019年12月7日）
- ・香美市障害・高齢介護事業所合同連絡会講師「障害・高齢の事業所職員を対象とした認知症支援、権利擁護事例を通じた多職種連携の勉強会」（2019年12月13日）
- ・高知医療生活協同組合 メンタルヘルス研修講師「ストレス対策研修 利用者からのハラスメントの対応の仕方ですストレスを軽減」（2020年1月10日）
- ・高知県ヘルパー連絡協議会サービス提供責任者実務研修会講師「サ責としてハラスメントにどう向き合う？～ヘルパーが安心して働くために！～」（2020年1月12日）
- ・高知県第2回ノーリフティングフォーラム「職場環境とケアの質を変える！～ノーリフティングケア日本一に向けて～」演者「養成校からの発信」（2020年2月2日）
- ・南国市社会福祉協議会ヘルパー定例会への参加（2019年7月～2020年2月 月一回）
- ・土佐市地域ケア会議への参加（2019年7月～1月 月一回）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

介護福祉課程コースの先生方に相談させてもらいながら、得られた助言をもとに何とか担当科目をやり遂げたというのが正直な実感である。講義ごとの学生のリアクションペーパーも参考にしながら進めていった。しかし、担当させて頂いた科目は介護福祉士養成にとって重要な科目であり、地域で身近なリーダー的支援者となる専門職養成に向けて、連携力や人間関係調整力の必要性を感じている。これらの資質の基礎を少しでも萌芽できるよう、次年度では、より気を引き締め、講義で採用する事例や演習の再検討、何より一講義ごとのねらいを明確にした形で進めていきたい。

2. 研究活動について

在宅介護を担うヘルプ労働の置かれている現状を注視しながら研究テーマを見出だすため、学内社会福祉学部学部長研究助成事業を申請し、ホームヘルパーやサービス提供責任者へのインタビュー調査を行った。これらを共同研究者とともにまとめて、学会発表を行った。加えて、研修会等でホームヘルパーより聞かれた切実な生の声をもとに、次年度の研究資金獲得のため、科学研究費補助金（若手研究C）の申請を行った。明らかになった現状や課題については、現場の実践者にフィードバックできるよう、丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。

3. 社会活動について

少しでも現場の方々が活気づく研修テーマを検討し、目指していくことで住み慣れた地域で暮らす利用者や家族介護者の生活の豊かさ、安心に繋げていきたい。このようなよい影響を与えることに少しでも貢献できる社会活動を目指していきたいと考えている。

○研究活動

（1）学会発表

- ・遠山真世（2019）「障害者就労継続支援B型事業の工賃に差をもたらす要因とは？－国・都道府県データを用いた探索的分析－」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第50回高知大会（於：高知県立大学）.

（2）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C）, 課題番号 18K02112, 2018年度－2020年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

○教育活動

（1）担当科目

- ・相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ・相談援助実習指導Ⅲ・相談援助実習
- ・福祉研究演習Ⅰ・福祉研究演習Ⅱ・福祉研究演習Ⅲ
- ・障害者福祉論・社会調査の基礎・社会福祉入門演習（補助）・社会福祉基礎演習（補助）

（2）学生支援

- ・池吹奏楽部顧問

○委員会活動

（1）全学

- ・広報委員会
- ・入試実施委員会・センター試験実施委員会

（2）学部

- ・広報委員会（委員長）
- ・入試広報部会・キャリア支援委員会・実習委員会

○社会的活動

- ・高知県社会福祉士会理事（国家試験対策委員会）
- ・第28回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（高知大会）実行委員
- ・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当（9月1日）
主催：高知県地域福祉部 障害保健福祉課
特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも
場所：高知市障害者福祉センター
- ・高知県社会福祉士会 基礎研修Ⅱ 講師「実践事例演習Ⅰ」
担当（7月20日）
主催：高知県社会福祉士会

教育研究活動報告書（遠山 真世）

場所：高知県立大学 池キャンパス

- ・高知県隣保館職員等研修事業 人権課題別研修Ⅱ 講師
「障害のある人の相談支援」担当（12月13日）

場所：小高坂市民会館

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組んできた。本年度は、B型事業所の平均工賃が高い都道府県と低い都道府県の違いや背景を分析するため、各都道府県から公表されている各事業所の平均工賃や作業内容等のデータを収集・分析し、日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会で発表を行った。次年度は、最新のデータを用いてさらに詳しく分析するとともに、分析結果をまとめ論文を執筆したいと考えている。また、これまでの研究成果をもとにB型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。

（2）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。3回生のゼミでは、知的障害者を数多く雇用している特例子会社に訪問することができた。また4回生のゼミでは、学生どうしで意欲を高めつつ勉強に集中して取り組めるよう、10月には卒論合宿、1月には国試合宿を学内で3日間ずつ行った。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

（3）委員会活動・社会活動等について

新たに入試実施委員・センター試験実施委員・キャリア支援委員となって活動した。入試関連の委員会では一連の業務を経験し理解することができた。キャリア支援委員会では、7月に開催される日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会の準備・運営に携わった。今大会では、基調講演とシンポジウムで要約筆記を依頼することができ、より多様な参加者にとって情報を得やすい環境で実施することができたと考える。

学外では高知県要約筆記者養成講座・高知県社会福祉士会基礎研修・隣保館職員等研修で講師を担当し、地域の人材育成に携わることができた。また、第28回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（高知大会）実行委員として、2020年6月に開催される大会の準備に携わってきた。開催要綱に掲載する高知県立大学の広告も企画連携課と共同で作成し、社会福祉学部と人間科学研究科の特徴をアピールできるものとなった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し大会は中止となってしまったが、学外の社会福祉士や学内の各部署と連絡調整を行い、円滑な連携関係を築くことができたと考える。

○研究活動

1. 論文
なし
2. 著書
なし
3. 学会発表
なし
4. 競争資金の獲得
なし

○教育活動

[共通教育科目]

- ・生活と社会福祉（池キャンパスおよび永国寺キャンパス）

[専門科目]

- ・社会福祉史
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・相談援助演習Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習

○委員会活動

- ・教務委員会
- ・倫理審査委員会
- ・入試監査委員会
- ・情報処理施設委員会

○社会的活動

[学外講師等]

- ・社会福祉学部リカレント研究会事業「高知県における権利擁護支援の現状」（2019年11月30日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

「生活と社会福祉」については、共通教育科目であることを踏まえ、生活と社会福祉のかかわりをより広く理解してもらうことを課題とし、ハンセン病、水俣病、ホームレス問題など幅広い領域にわたったビデオ教材を用い講義を行った。

「社会福祉史」では、視覚資料を多用し、それぞれの時代背景について理解したうえ社

教育研究活動報告書（行貞 伸二）

会福祉の歴史について学べるよう工夫した。また、4回生担当科目でもあり、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、歴史に関わる過去問題集を作成し学生に配布したうえで、授業中にも適宜解説を行った。

これらの講義科目では、Moodleなどを活用して授業回ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方向性に配慮した。また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。

演習科目については、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。また、学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう心掛けた。

また、次年度に担当予定となっている「権利擁護論」の準備の一環として、高知市社会福祉協議会主催の市民オンブズマン養成講座に参加し、市民オンブズマン活動の実態やその課題について学んだ。

今後の課題として、授業内容や教授方法のブラッシュアップは永遠の課題であるが、とりわけ受講生が多い科目において、学生個々の態度や様子に常に目を配り、機敏に対応できるよう心掛けたい。

2. 研究活動について

高知県における医療提供体制確立の経過を史的に分析する研究を進めた。

また、2020年4月発行予定の書籍の監修および分担執筆を行った。

今後の課題として、研究の実施態勢を見直し、研究者ばかりでなく実践者とも共同研究を遂行できるようなネットワークづくりを進め、地域に貢献できる研究を行っていきたい。

3. 社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

○研究活動

（１）論文・報告書・著書・発表

- ・なし

（２）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号 26780315、平成 26 年度—令和元年度）「精神保健福祉士がもつ就労イメージの変容プロセスと支援への影響に関する研究」研究代表者：稲垣佳代
- ・令和元年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「障害者の地域移行及び地域生活支援のサービス実態把握に関する調査」【相談支援事業所における自立生活援助事業の実施状況調査】（研究代表者：田村綾子）研究協力者
- ・高知県立大学戦略的研究プロジェクト推進費による活動「高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発」（研究代表者：瀧めぐみ）研究分担者

○教育活動

（１）講義

- ・精神保健福祉援助技術各論
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・就労支援サービス

（２）講義以外

- ・国家試験受験生への学習支援
- ・太鼓部顧問

○委員会活動

- ・実習委員会
- ・入試委員会
- ・就職委員会
- ・学生委員会
- ・国試対策支援委員会

○社会的活動

- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座 2019年12月21日
「変えられない」は変えられる！？～「諦め」の先にある可能性を求めて
- ・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援のあり方検討委員会」委員

- ・最新 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワーク演習（精神専門）』演習事例 No. 26
原稿執筆

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動について

今年度、初めてリカレント教育講座を担当した。一般市民や福祉領域等で働く方々向けの講座ということで、テーマ選びに苦戦していた頃、竹端寛氏の『枠組み外しの旅 「個性化」が変える福祉社会』という本と出会った。

ソーシャルワーク教育を担うなかで、学生たちから「仕方ない」「理想と現実は違う」といった言葉を聞くことがある。学生だけではなく、私自身もすぐにそういった思考に陥る傾向がある。しかし、社会変革を目指すソーシャルワーカー（のタマゴ）が「仕方ない」と諦めてしまうことへの違和感や、「これで本当にいいのか」という思いが心の片隅にずっとあった。

本の中では、自分自身の枠組みを疑い、崩していくことによって新たな可能性を見つけ、自分が変わることで社会も変わっていく、といったことがいろいろな文献や調査研究をもとに書かれていた。この本との出会いを通して、「リカレント講座を担当しなければならない」から、「リカレント講座を通して福祉現場で働く方々にぜひこのことを伝えたい」という動機が変わっていった。当日は、一般の方、福祉現場で働いている方、卒業生や大学時代の同期が参加してくれた。

（２）研究活動について

今年度より日本精神保健福祉士協会の就労・雇用支援の在り方検討委員会に委員として参加し、第一線で活躍している PSW の方々と精神障害者の就労・雇用支援を取り巻くさまざまな課題について議論する機会が得られた。また、当該委員会で構成員に対して行ったアンケート調査の分析では、自分自身が分析を担うだけでなく、他の委員に分析方法のレクチャーを行った。次年度、分析結果を報告書としてまとめる予定である。

また、量的調査や統計分析について力量を高めたいという思いから、本学鈴木孝典先生に相談し、前述の厚生労働科研に研究協力者として加えていただいた。今年度は量的調査の単純集計を記述していく作業を担った。また、SPSS を用いて統計分析を進めているが、慣れない作業のため時間を要している状況である。

（３）今後の課題

リカレント講座で取り上げた「枠組み外し」を私自身も繰り返しながら、今後も教育・研究活動に取り組んでいきたい。

また、研究活動については、SPSS の操作、統計分析の手法をマスターできるよう精進したい。そして、自分の研究テーマにおいても量的調査を行うなど、研究の幅を広げていきたい。

大熊 絵理菜

Erina OGUMA

○研究活動

1. 論文・報告書・著書・発表
 - ・なし
2. その他
 - ・高知医療センター連携先情報一覧作成（高知医療センター高知県立大学包括連携事業）

○教育活動

- ・相談援助演習Ⅲ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・社会福祉基礎演習
- ・社会福祉入門演習
- ・医療ソーシャルワーク論

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部総務・予算委員会
- ・学部広報支援委員会
- ・学部学生委員会（22期生学年担当）
- ・医療センター連携事業

○社会的活動

1. 委員等
 - ・高知県医療ソーシャルワーカー協会理事
 - ・高知県医療ソーシャルワーカー協会月例会部会担当理事
 - ・高知県医療ソーシャルワーカー協会生涯研修部会担当理事
2. 学外講師等
 - ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「相談援助の理論と方法Ⅱ」担当）
 - ・令和元年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修会 A コース 講師「ソーシャルワークの価値・視点・専門性」（2019年9月8日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習では、医療ソーシャルワーカーとしての現場経験の話を言いながら、学生が興味や関心をもてるように工夫した。また、リアクションペーパーを用いて授業の理解度などをその都度確認したり、昨年度の授業経験を活かして、内容や教授方法の改善を図った。来年度も学生の主体的な学習へとつながるように心がけたい。また今年度は、医療福祉分野の教員が増えた為、その教員と授業内容について、相談援助実習等の指導について等相談しながら進めることができた。

今年度も、相談援助実習では、県内の沢山の医療機関で実習をさせて頂いた。学生一人ひとりに応じた実習指導を、実習指導者と相談しながら行えたことは学生の学びに繋がったと考えている。また、高知県医療ソーシャルワーカー協会と連携し、県内の相談援助実習指導者が在籍している医療機関の情報収集を行い、一覧表を作成した。その情報収集を行う中で、実習指導者より来年度の実習の受入れについてや就職についての情報も収集できたことは、来年度の学生指導に活かしたい。

2. 学年担当について

今年度は22期生（1回生）の学年担当となった。前期、後期とも学年担当の大松先生と学生の個別面談を行った。サポートが必要な学生の情報共有を行い、対象学生に対して日頃からの声掛けや個別面談を行った。また学校、家庭の生活する場においても様々な不安を抱えている学生もおり、健康管理センターや学生支援課と連携しながら学生指導を行った。

3. 研究活動について

今年度は、科学研究費助成事業に応募（若手研究）したが採択されなかった。日頃からの研究活動の積み重ねが出来ていないことを反省し、次年度は採択されるように、目標をもって研究活動に取り組んでいきたい。

4. 社会活動について

今年度も、高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事を通して、現任者の研修会の講師や、学生の実習指導、就職等で沢山の現場の方と関わることができた。次年度は高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事は退くが、協会活動への協力と参加を行うことが、学生の実習指導や就職等に繋がると考えている。

片岡 妙子

Taeko KATAOKA

○研究活動

1. 論文

三好弥生・片岡妙子 (2020) 「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難の評価－アンケート結果に基づく方法の見直し－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』

2. 学会発表

なし

○教育活動

1. 担当科目

- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護実習Ⅲ
- ・医療的ケアⅠ
- ・医療的ケアⅡ
- ・介護過程Ⅳ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護技術

2. 学生支援

第20期生学年担当

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部入試委員会
- ・学部学生委員会
- ・学部介護人材確保事業部会委員

○社会的活動

- ・2019年度 高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業
介護職員研修 講師（8月26日～9月12日：高知県福祉交流プラザ）
- ・2019年度 高知工科大学「介護等体験事前指導」講師 香美キャンパス
- ・2019年度 厚生労働省委託事業（一般社団法人日本作業療法士協会受託）
「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会」委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

（1）介護福祉士養成課程について

介護総合演習、介護実習を通して学生への指導を行った。1回生にとって初めての実習となる介護実習Ⅰでは、特にコミュニケーションが中心となる。そのため、コミュニケーションの授業を担当している教員と、学生の学習状況や課題への取り組みの結果を共有しながら介護総合演習の授業を進めた。年度毎に学生の傾向に違いがみられるため、今後もその都度、教員間で細やかに学生の状況を共有しながら学生指導に取り組んでいきたい。

講義に関しては、教材の工夫が自身の課題であると感じている。次年度は初めて担当する科目も含まれるため、その点に留意しながら授業の準備を進めていきたい。

（2）学年担当について

昨年に引き続き、20期生（3回生）の学年を担当している。3回生となり、学生は各ゼミの先生方より指導を受けているが、必要に応じて学生へのサポートを行っている。1月には、キャリア支援講座として6名の卒業生より就職活動や国家試験の受験対策について講話を行ってもらった。学生への聞き取りでは、実施の時期や内容について課題がみられた。次年度の3回生担当教員に引継ぎ、より充実したキャリア支援につなげていきたい。次年度は4回生担当となるため、学生の声を聴きながら就職活動や国家試験に向けたサポートをしていきたいと考えている。

2. 研究活動について

三好先生と共同研究を行い、高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿を行った。しかし、個人としての研究には着手できていない。次年度は自身の研究テーマに基づいて活動を行っていきたい。

3. 委員会活動

介護人材確保事業部会の委員として、高校生が中山間地域の施設を訪問する企画を実施した。目的であった介護現場の実際を学ぶだけでなく、同行した在学生や卒業生から直接福祉を学ぶ魅力について聞くことができ、参加した高校生からは福祉や介護に対する勉強への意欲が高まったとの声が多く聞かれた。今後も、高校生が福祉や介護に対する関心をもてるよう取り組んでいきたい。

4. 社会活動について

昨年度に引き続き、高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業に参加し、企画会議から研修講師まで担当している。喀痰吸引等研修は、学内で担当している医療的ケアの授業と同様の内容であるが、研修対象者は現場の介護職員であり、教育背景や職場経験も多様である。その点に留意しながら研修内容を検討していきたいと考えている。

「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会」では、介護ロボットの開発に向け、介護現場の方とともに意見交換を行っている。現在の介護施設における状況に関わる良い機会であり、自身の現場経験も踏まえながら今後も活動を行っていきたい。

○研究活動

(1) 論文・報告書・学会発表

- ・なし

(2) 学内外の競争的資金獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「地域を基盤とした住民・専門職協働による【地域福祉実践】参加型評価法の開発（平成29年～平成31年）
研究分担者（研究代表：佐藤哲郎）

○教育活動

(1) 担当科目

- ・「ケアマネジメント論」・「ケアマネジメント演習」・「高齢者福祉論Ⅱ」
- ・「コミュニティソーシャルワーク」・「地域学実習Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」・「相談援助実習指導Ⅱ」・「相談援助実習指導Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅲ」・「相談援助演習Ⅳ」・「相談援助実習」

(2) クラブ活動

- ・映像製作サークル「CUBE」顧問

○委員会活動

- ・学部実習委員 ・ 国家試験対策委員
- ・学部キャリア支援委員・学部広報委員・学部防災委員

○社会的活動

(1) 委員等

- ・日本地域福祉学会 地方委員
- ・高知県地域福祉活動支援計画策定委員会 副委員長
- ・日本社会福祉士会近畿ブロック研究・研修京都大会 査読委員
- ・和歌山県社会福祉士会 監事
- ・和歌山県介護支援専門員 指導者、法定研修運営委員委員会委員
- ・和歌山県介護支援専門員協会 研修部企画員

(2) 学外講師等

- ・学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師（「現在社会と福祉」）
- ・近畿大学九州短期大学通信教育部保育科 非常勤講師（「相談援助演習」）
- ・高知県社会福祉協議会 介護支援専門員専門課程Ⅰ研修 講師
「対人個別援助技術と地域援助技術」
高知県立ふくし交流プラザ，2018年6月8日
- ・土佐清水市生活支援・介護予防サービス推進協議会・研修会 講師
土佐清水市社会福祉センター 3階，2019年7月30日

教育研究活動報告書（雑賀 正彦）

- ・和歌山県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員更新研修 講師
「入退院における医療との連携に関する事例」「見取り等における看護サービスの活用に関する事例」
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 1 階大ホール，2019 年 8 月 26 日・8 月 27 日
- ・三好市社会福祉協議会 地区住民福祉協議会リーダー研修会 講師
「地域福祉活動計画策定に向けて」
三好市池田総合体育館 サブアリーナ，2019 年 10 月 31 日
- ・和歌山県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員研修 講師
「地域福祉援助技術」
和歌山県民文化会館 3 階，2019 年 11 月 29 日・30 日
- ・徳島県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員研修 講師
「地域福祉援助技術」
アスティとくしま第 2 特別会議室，2019 年 9 月 19 日・20 日
- ・生活支援体制整備事業研修会 講師
「地域づくりに視点をのいたケアマネジメント」
みなべ町役場 3 階会議室，2019 年 5 月 24 日
- ・生活支援体制整備事業福祉委員研修会 講師
「気づきとつながり」～地域の現状と課題について～
みなべ町役場 3 階会議室，2019 年 9 月 3 日

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習科目については、新たに担当した科目もあったが、事例を活用し理解が促進できるよう工夫した。また、グループワークやリアクションペーパーを活用し、主体的に学べるよう心掛けた。来年度はより学生が主体的に学習できるよう映像教材を用い「見える化」することで理解を深める工夫を行いたい。

2. 研究活動について

今年度はフィールド調査のみであり十分な研究活動を行うことができなかった。次年度は、調査分析及び共同研究、個人研究にも積極的に取り組みたい。

3. 委員会活動

委員会活動については、第 1 に、防災委員として避難所運営を担当した。事前会議及びマニュアル修正などを行ったが、訓練の延期に伴い、少人数での運営であったが学生の協力もありスムーズに行えた。第 2 に、広報委員として、学部行事等の撮影及びホームページへの掲載、オープンキャンパスの準備を担当した。第 3 に、キャリア支援委員として、社会福祉学会高知大会の準備を担当した。最後に、国家試験対策委員としては、模試・国試合宿・個別面談を担当した。

次年度に向けて、各委員として役割遂行をスムーズに行えるようにしたい。

また、相談援助実習のコース助教主担当として円滑な実習が行えるよう十分な役割が担えなかったため、次年度は計画的に業務遂行できるよう工夫したい。

4. 社会活動について

高知県社会福祉協議会における地域福祉活動支援計画策定を通して、高知県内社協との交流機会が多くあった。そのため、高知県市町村社協の取組状況を把握することができた。また、和歌山県内 3 町での生活支援体制整備事業への参画、徳島県三好市での地域福祉活動計画策定に向けた事前研修会への参画もあった。これらのことを教育及び研究に反映したい。

○研究活動

1. 論文

- ・田中眞希・宮上多加子(2020)「障害者支援施設の介護職員における感情コントロールの現状ー演じる行為に着目してー」『Humanismus』31, 69-85.

2. 著書

なし

3. 学会発表

- ・田中眞希・宮上多加子「障害者施設介護職員の感情コントロールー演じる行為に着目してー」第27回日本介護福祉学会発表（静岡）2019年9月.

4. 競争資金の獲得

- ・平成30年度～令和2年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））「『演じる行為』に着目した介護の実践価値生成と共有化ー職場学習論に基づく分析ー」（研究代表者）

○教育活動

- ・介護の基本Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・高齢者福祉論Ⅱ

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策委員会
- ・学部入試広報部会委員
- ・学部情報処理部会委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
- ・公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員

2. 学外講師等

- ・令和元年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2019年11月1日）
- ・令和元年度 介護福祉士実習指導者講習会フォローアップ研修「新カリキュラム対応介護実習指導研修」講師補助（2020年2月27日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業「人権課題別研修Ⅲ」講師（2020年1月16日）
- ・社会福祉法人土佐希望の家 土佐希望の家医療福祉センター「令和元年度新人研修」アドバイザー（2019年5月30日、8月29日、11月28日、2020年2月20日）
- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2019年5月15日、2020年3月3日）
- ・高知県立大学職業実践力育成プログラム 多職種連携による保健福祉医療重視者の力量アップのための講座－高齢者ケア力の向上に向けて－「高齢者福祉の現状と実践のための講座」【高齢者支援の具体的な方法】講師（2019年9月28日）
- ・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2020年2月15日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習では、事例を用いたグループワークや視聴覚教材を活用した生活支援技術など、学生が主体的に取り組めるように工夫した。また、リアクションペーパーを用いて授業の理解度などを確認し、授業内容や教授方法の改善を図った。学生の主体的な学習へとつながるように、今後もブラッシュアップしながら取り組みたい。

介護福祉士国家試験3年目である本年度は、受験に対する不安や主体的に取り組めない悩みなど、学生個別に対応した。また、国試対策委員や介護コース教員と情報を共有し、国試対策の環境を整えた。今年度も昨年度に引き続き、介護福祉士国家試験合格率は100%であった。

また、学年担当として関わった卒業生が社会人1年目であった今年度は、卒業生への支援の必要性について改めて考えさせられた。一人ひとりの仕事に対する考え方、配属された環境に対する不満など、本人にとって多くのストレスがあった。それらの課題改善とはならなくとも、悩みを聞いてくれる教員や大学時代の仲間の存在は大きいようだ。今後も学部リカレント研究会事業について、卒業生の意見を取り入れながら、計画・実施していきたい。

2. 研究活動について

今年度は昨年度に引き続き科学研究費助成事業の研究代表者として、障害者支援施設の介護職員に対して調査を行った。これらの調査結果の分析を進め、結果の公表を行うなど、計画的に進めたいと考えている。次年度は、高齢者施設での調査を計画している。

3. 社会活動について

今年度は、介護福祉士の実習指導者講習会やフォローアップ研修の企画委員及び講師、BP講座や新人研修のアドバイザーなどを担当し、幅広い福祉現場の方々と関わることができ、様々な意見を聞く良い機会となった。

○研究活動

競争的資金の獲得

- 科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2021年度）
研究代表者：玉利 麻紀
研究課題名：社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索
ー無関心という壁を越えるためにー

○教育活動

1. 担当科目

- 1) 精神保健福祉援助実習指導 I
- 2) 精神保健福祉援助実習指導 II
- 3) 精神保健福祉援助演習
- 4) 精神保健福祉援助実習 I
- 5) 精神保健福祉援助実習 II
- 6) 心理学理論と心理的支援
- 7) 就労支援サービス
- 8) 対人関係とメンタルヘルス（前期・永国寺キャンパス）
- 9) 対人関係とメンタルヘルス（後期・池キャンパス）

2. 学生支援

- 第21期生 学年担当
- 実習支援：精神保健福祉援助実習 I・IIの配属実習に向け、実習の動機と課題、及び、実習計画の作成のための個別指導を行った。
- 地域学実習 II（2グループ）の補助担当教員
- 国家試験受験生への学習支援

○委員会活動等

- 学部情報処理委員
- 学部FD委員
- 学部教務委員
- 学部実習委員
- 学部国試対策支援委員
- 学部学生委員

○社会的活動

1. 委員等

- 高知県精神保健福祉協会 研修委員
- 介護労働安定センター 高知支部 ヘルスカウンセラー

2. 講演等

- 高知県立大学 出前講座「それってほんとに『できない』の？—発達障がい者支援が教えるヒント—」 講師（12月18日、2回）
場所：高知県立宿毛高等学校
- 広島女学院中等高等学校 教員研修会「当事者からみた発達障害」講師（1月7日）
- 場所：広島女学院中等高等学校
- 第22回 精神保健福祉従事者リフレッシュ研修「まぜこぜダイアログ—社会的マイノリティ当事者との対話を通して多様性を考える—」（12月9日）
主催：高知県精神保健福祉協会・研修委員会
場所：高知県民文化ホール
- メンタルヘルス研修 ヘルスカウンセラー（計3回）
主催：公益財団法人介護労働安定センター
場所：よんでんライフケア高知（8月14日、8月28日）、
ポリテクセンター高知（11月26日）

3. 健康福祉・文化への貢献

- 異才発掘プロジェクト ROCKET 講演会実行委員（8月5日）
主催：異才発掘プロジェクト ROCKET 事務局（東大先端研 中邑研究室）
場所：永国寺キャンパス
- 社会福祉学部 FD 研修「研究と社会正義 第1回 障害者の超短時間雇用の事例から 社会の在り方を考える（東大先端研 近藤武夫 講師）」実行委員（1月16日）
場所：高知県立大学 池キャンパス

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は計9講義を担当した。そのうち、「精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ」、「心理学理論と心理的支援」は初めて担当させてもらうこととなった。

これらの担当科目は Moodle 等の学習支援ツールや ICT を活用し、業務の効率化や合理化を図り、学生たちの主体的な参加や理解に繋げるよう工夫を重ねた。

また、学生が早い段階から様々な経験を有する人と出会う機会を作ることを重視し、精神障害当事者であるゲストスピーカーや、高知障害者職業センターのカウンセラーを講義へ招聘した。また、日本において障害者雇用を推し進める第一人者を招き、社会福祉学部の教員や学部学生を対象に、FD 講演会を開催した。これらの機会は参加者から概ね好評であり、継続を希望する声も多く聞かれた。そのため、今後も継続して実施していきたい。

今後の課題としては、新型コロナウイルスによる制限により、企画の実行可能性に大きな影響があることである。このような状況においても、学生の学びの機会を保障するために、ICT ツールの活用等、様々な方策を考えていきたい。

2. 研究活動について

今年は科学研究費補助金 基盤研究 (C)「社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索—無関心という壁を越えるために—」を獲得することができた。そこで、社会的マイノリティ当事者への事前調査やプレ企画を実施したが、論文の発表には至っていない。そのため、事前調査を整理し、早々に本調査の実施につなげる必要がある。現状では、新型コロナウイルスの影響により、実験や調査の実施が難しいが、研究実施の方策や計画を柔軟に変更し、少しでも前に進めるよう、努力したい。

○研究活動

1. 学会発表

- ・ 福田敏秀・浦上克哉「在宅高齢者の認知機能と ADL，家族介護負担感の関連分析と支援に関する検討－10年間の TDAS による追跡調査を用いて－」第 20 回日本認知症ケア学会大会（京都）2019 年 5 月.
- ・ 福田敏秀・浦上克哉「在宅高齢者に対する家族介護負担感の経過分析と支援の検討－10年間の追跡事例を用いて－」日本老年社会科学会第 61 回大会(仙台)2019 年 6 月.
- ・ 福田敏秀・浦上克哉「在宅高齢者の認知機能変化が示す特徴と支援に関する検討－TDAS を用いた 10 年間の追跡事例をもとに－」第 9 回日本認知症予防学会（名古屋）2019 年 10 月.

○教育活動

- ・ 高齢者福祉論 I
- ・ チームアプローチ
- ・ 対人関係とメンタルヘルス
- ・ 相談援助実習指導 I
- ・ 相談援助演習 I
- ・ 相談援助実習指導 II
- ・ 相談援助演習 II
- ・ 相談援助実習指導 III
- ・ 相談援助演習 III
- ・ 相談援助演習 IV
- ・ 相談援助実習
- ・ 地域学実習 I

○委員会活動

- ・ 学部教務委員会
- ・ 学部実習委員会
- ・ 学部国試対策支援委員会
- ・ 学部キャリア支援委員会
- ・ 学部健康長寿委員会
- ・ 学部介護人材確保事業部会

○社会的活動

1. 委員等

- ・ 日本認知症予防学会 代議員
- ・ 日本認知症ケア学会 代議員
- ・ 鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
- ・ 高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員
- ・ 鳥取県初任段階介護支援専門員マニュアル編集委員
- ・ 公益財団法人介護労働安定センター 雇用管理改善サポーター
- ・ 公益財団法人介護労働安定センター ヘルスカウンセラー
- ・ 津野町高齢者施設検討会アドバイザー

2. 学外講師等

- ・ ケア・サポート講習（公益財団法人介護労働安定センター）講師「身体拘束と虐待」（2019 年 6 月 14 日、8 月 23 日）、「利用者の尊厳を守るケア」（2020 年 1 月 28 日）
- ・ 令和元年度主任介護支援専門員研修（鳥取県社会福祉協議会）講師「主任介護支援専門員の役割と視点」（2019 年 7 月 6 日）
- ・ 本山町・高知県立大学・高知短期大学公開講座「夜学 2019」講師「認知症を知り、地域づくりをはじめよう」（2019 年 7 月 18 日）
- ・ ヘルスカウンセラー集団型(研修)（公益財団法人介護労働安定センター）講師「認

教育研究活動報告書（福田 敏秀）

知症ケア」（2019年9月5日、2020年2月28日）

- ・令和元年度高知県法人後見担当者養成研修（高知県社会福祉協議会）講師「意思決定支援について」（2019年11月18日）
- ・雇用管理改善サポーター個別相談支援(研修)(公益財団法人介護労働安定センター)講師「身体拘束・虐待」（2019年11月21日）、「認知症ケア」（2019年11月29日、12月9日、2020年2月20日）
- ・令和元年度鳥取県介護支援専門員連絡協議会研修会講師「ケアマネジャーが行う家族アセスメントの視点」（2019年12月14日）
- ・令和元年度介護支援専門員実務研修（鳥取県社会福祉協議会）講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2020年1月11日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義では、データ資料やサブ教材を準備し、学生にとってより理解しやすい授業を心がけた。また、課題や小テストを挟み、授業外学習（復習）の促しもおこなった。演習では、学生が事例をより鮮明に捉え、登場人物の状況や思いを深く考察できるよう、実践エピソードなどを交えながら進めた。ロールプレイやグループディスカッションも取り入れ、学生が自身の言葉を交換しあい、発想を広げる機会を多く設けた。講義、演習とも、今後、より学生の主体的な学びにつながるようプログラムを充実させて行きたい。

実習指導では、それぞれの学生が持つ関心を丁寧に計画に落とし込むことに重点を置いた。実習後の振り返りでは、学生がみつけた新たな関心や自身への問いを話し合うことができた。今後は、各学生の関心が、実習を通してより明確になり、その後も自身で深く考えて行けるような指導をおこなって行きたい。

国家試験対策支援では、対策講座のひとつを受けもつとともに、個別指導もおこなった。学生が自身の学習の進捗を確認でき、より効率よく取り組めるような支援を心がけた。今後、より各学生の状況把握に努め、効果的方法で支援して行きたい。

2. 研究活動について

今年度、これまで行ってきた、在宅高齢者の認知機能と家族介護負担感に関する追跡研究に新たなデータを加え学会発表をおこなった。引き続き、研究精度の向上に努め、実践現場に役立つ成果を探求して行きたい。

また、高知県立大学戦略的研究推進プロジェクト「南海トラフ地震に備えた福祉エリア設営ガイドラインの開発」（研究実施責任者 看護学部教授 竹崎久美子）研究チームに加わりガイドライン作成にもあたった。この研究への参加は、私自身の貴重な研究経験ともなった。竹崎久美子教授はじめ研究チームの皆様に感謝申し上げたい。

3. 社会活動について

高知県、また鳥取県において、主に福祉専門職へ高齢者虐待や認知症、意思決定支援等のテーマで講演する機会が得られ、実践者支援に携わることができた。また、行政等の委員会委員やアドバイザーといった立場で検討会にも参加した。

今後、このような専門職支援や行政等の課題により貢献できるよう研鑽を積みたい。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動年度報告書)

2019年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

| 全学 | 学部 | 構成メンバー | | | | | |
|-----------------------------|-----------------|----------------------|----------------------------|------------------------------|----------------------------|-------------------|----------------------|
| 地域教育研究センター | | 福間 隆康 (地域連携部会) | 三好 弥生 (共通教育部会) | | | | |
| 全学プロジェクト | 災害対策 | 辻 真美 | 長澤 紀美子 | 雑賀 正彦 | | | |
| | 大学改革(高大接続) | 宮上 多加子 | 長澤 紀美子 | | | | |
| | 職業実践育成プログラム(BP) | 大松 重宏 | | | | | |
| | 人事関係検討会 | 宮上 多加子 | 杉原 俊二 | 田中 きよむ | 長澤 紀美子 | 西内 章 | 丸山 裕子 |
| | | 横井 輝夫 | | | | | |
| | 自己点検・評価運営委員会 | 宮上 多加子 | 杉原 俊二 | 長澤 紀美子 | 西内 章 | 西梅 幸治 | |
| | 倫理審査委員会 | 田中 きよむ | 丸山 裕子 | 横井 輝夫 | 河内 康文 | 行貞 伸二 | |
| | 実習委員会 | 長澤 紀美子 (実習委員長) | 西梅 幸治 (社会福祉士コース 主担当) | 鈴木 孝典 (精神保健福祉士 コース主担当) | 三好 弥生 (介護福祉士コース 主担当) | 加藤 由衣 (室長) | 雑賀 正彦 (社福助教リーダー) |
| | | 稲垣 佳代 (精神 助教リーダー) | 田中 眞希 (介護 助教リーダー) | 大熊 絵理菜 | 片岡 妙子 | 玉利 麻紀 | 福田 敏秀 |
| | 総務・予算委員会 | 西梅 幸治 | 宮上 多加子 | 加藤 由衣 | 田中 眞希 (助教リーダー) | 大熊 絵理菜 | |
| | 国試対策支援委員会 | 西梅 幸治 | 加藤 由衣 | 稲垣 佳代 (助教リーダー) | 大熊 絵理菜 | 雑賀 正彦 | 田中 眞希 |
| 玉利 麻紀 | | 福田 敏秀 | | | | | |
| 教務委員会 | 西内 章 | 田中 きよむ | 三好 弥生 | 行貞 伸二 | 福田 敏秀 (助教リーダー) | 玉利 麻紀 | |
| FD委員会 | 丸山 裕子 | 玉利 麻紀 | | | | | |
| キャリア支援委員会 | 杉原 俊二 (学部) | 加藤 由衣 (全学) | 遠山 真世 | 雑賀 正彦 | 福田 敏秀 | | |
| 研究倫理委員会 | 宮上 多加子 | | | | | | |
| 研究活動不正防止委員会 | 宮上 多加子 | | | | | | |
| 入学試験委員会 | 入学試験実施委員会 | 福間 隆康 | 鈴木 孝典 | 遠山 真世 | 稲垣 佳代 (学部入試委員) | 片岡 妙子 (学部入試委員) | |
| | 大学入試センター試験実施委員会 | 遠山 真世 | | | | | |
| | 入学試験監査委員会 | 田中 きよむ | 行貞 伸二 | | | | |
| | 学生委員会 | 横井 輝夫 | 大松 重宏 | 福間 隆康 | 河内 康文 | 稲垣 佳代 | 大熊 絵理菜 (ボランティア担当) |
| 就職委員会 | 横井 輝夫 | 稲垣 佳代 | | | | | |
| | 片岡 妙子 | 玉利 麻紀 | | | | | |
| 広報委員会 | 広報委員会 | 遠山 真世 | 河内 康文 | 大熊 絵理菜 (助教リーダー) | 雑賀 正彦 | | |
| | 入試広報部会 | 鈴木 孝典 | 西内 章 | 丸山 裕子 | 田中 眞希 | | |
| 総合情報センター | 図書部会 情報処理部会 | 横井 輝夫 (図書) | 行貞 伸二 (情報) | 玉利 麻紀 (助教リーダー) | 田中 眞希 | | |
| 国際交流センター 運営委員会 | 田中 きよむ | 辻 真美 | 大熊 絵理菜 | | | | |
| 人権委員会 | 杉原 俊二 | | | | | | |
| 紀要委員会 | 杉原 俊二 | | | | | | |
| 健康長寿センター 運営委員会 | 河内 康文 | 辻 真美 | 片岡 妙子 (助教リーダー) | 福田 敏秀 | | | |
| 退院支援事業 | 大松 重宏 | | | | | | |
| 介護人材確保事業部会 | 河内 康文 | 横井 輝夫 | 片岡 妙子 | 福田 敏秀 | | | |
| 医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会 | 宮上 多加子 | | | | | | |
| 医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会 | 宮上 多加子 | 大松 重宏 | 大熊 絵理菜 | | | | |
| 健康管理センター運営委員会 | 加藤 由衣 | | | | | | |
| 大学院(M) | 講義 | 宮上 多加子 (講義+主査) | 杉原 俊二 (講義+主査) | 田中 きよむ (講義+主査) | 長澤 紀美子 (講義+主査) | 西内 章 (講義+主査) | 丸山 裕子 (講義+主査) |
| | | 横井 輝夫 (講義+主査) | 鈴木 孝典 (講義+主査) | 西梅 幸治 (講義+副査) | 福間 隆康 (講義+副査) | 三好 弥生 (講義+副査) | |
| | 委員会 | 宮上 多加子 (教務) | 杉原 俊二 (学位審査) | 田中 きよむ (図書) | 長澤 紀美子 (研究科長) | 西内 章 (入試連携) | 丸山 裕子 (監査) |
| | | 横井 輝夫 (学務) | 鈴木 孝典 (情報) | 西梅 幸治 (学生) | 三好 弥生 (広報) | | |
| 大学院(D) | 講義 | 宮上 多加子 (講義+主査) | 杉原 俊二 (講義+主査) | 長澤 紀美子 (講義+主査) | | | |
| | 委員会 | 宮上 多加子 (学務) | 杉原 俊二 (入試) | 長澤 紀美子 (研究科長) | | | |

: 全学委員
 : 学部委員長
 一重下線

教 務 委 員 会

西 内 章

2019年度の教務委員会は、田中きよむ教授，三好弥生准教授，行貞伸二講師，玉利麻紀助教，福田俊秀助教，西内の6名体制であった。1年間の活動内容は次の通りである。

1. 教務委員会の開催

2019年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算の審議など教務関連の検討の他、以下の2～7に記載している項目等の教務関連業務について審議・協議を行い、学部教務委員会を2019年4月から2020年3月までに、計12回開催した。

2. カリキュラムマップ、カリキュラムマップツリーの作成

社会福祉学部のカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成した。これにより学部教育における各科目の位置づけが可視化できるようになった。今後もカリキュラムマップ及びカリキュラムマップツリーと、共通教養教育科目や専門教育科目の関連性について定期的に検討し、改善することが必要である。

3. 専門教育科目の科目配置の変更

2020年度に向けて学部専門教育科目の科目配置を検討した。学生が履修しやすいように、女性福祉論，国際福祉論，ケアプラン策定法の開講時期を検討し2020年度から集中講義として開講することにした。

4. 2020年度科目担当者の検討

2019年度の担当科目をもとに、2020年度の担当科目を協議・検討した。例年同様、教員の教育歴と研究領域等をだけでなく、担当科目数と担当時間を検討材料とした。次年度の状況をみながら、今後も教務委員会において引き続き検討する予定である。

5. 卒業研究論文発表会の開催

卒論構想発表会を4月24日（水）、卒論中間発表会を10月30日（水）、卒論発表会を2月7日（金）に実施した。例年同様、2020年1月に3回生に①卒業研究論文の「仮テーマ」と②卒論指導教員の希望（学部教員，学部外教員）を提出させたが、社会福祉学部以外の教員を希望する学生は0名であった。また3回生に『卒業研究論文執筆のてびき』を2020年2月に作成・配布した。

6. 2020年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布とゼミの説明、ゼミ希望の集計を実施した。2020年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」は17人の教員が担当することになり、1ゼミあたり上限5名を目安として調整した。

7. 学習到達度調査の実施

2月に卒業予定者（19期生）を対象とした「学習到達度調査」を実施した。今年度は学修成果評価の指標をもとに調査票を作成し、卒業予定者71名のうち、64名から回答を得た（回収率90.1%）。2019年度は、全く理解できなかった、あまり理解できなかった、概

委員会活動年度報告書（教務委員会）

ね理解できた，非常に理解できたの4択としたが，結果はおおむね良好な結果であった．次年度は学修成果と国家試験の結果についても継続的に検討したい．

8. 今後の課題

2020年度は社会福祉士，精神保健福祉士のカリキュラム改正に向けて具体的な検討を行うことになっている．2019年度に厚生労働省が示したカリキュラムの改正に係る省令に対応させながら，本学部独自の新カリキュラムを作成する必要がある．そして関連する教育内容についても継続した検討・改善を行う必要がある．授業評価アンケートや学習到達度調査をもとにした検討を実施したい．

また，韓国をはじめアジア地域の福祉課題の研修プログラムの内容や単位認定科目などの課題を検討することも次年度の取り組みとなる．

入 試 委 員 会

福 間 隆 康

○委員会の体制

全学入試委員を宮上多加子学部長，全学入試実施委員を福間隆康（学部委員長），鈴木孝典准教授，遠山真世講師（センター試験部会委員），学部入試委員を稲垣佳代助教，片岡妙子助教が担当した。入試問題作問部会と入試問題点検部会において，社会人入試問題の作成および点検を行った。また，入試広報部会と連携し，進学ガイダンス，高校訪問をはじめとする入試広報を展開した。

○令和2年度入試の概況

| 区 分 | 募集人員 A | 男 女 別 | 志願者数 B | | 受験者数 C | | 合格者数 D | | 入学手続者数 | | 辞退者数 | 入学者数 | | 志願倍率 B/A | 合格倍率 C/D | |
|--------------|----------|-------------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|------|------|------|-------------|-------------|------|
| | | | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | | 全体 | (県内) | | | 全体 |
| 推薦 | 一般 県内 | 20 | 男 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | - | 1.0 |
| | | | 女 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 19 | 19 | 0 | 19 | 19 | - | 1.1 |
| | | | 計 | 22 | 22 | 22 | 22 | 21 | 21 | 21 | 21 | 0 | 21 | 21 | 1.1 | 1.0 |
| | 一般 全国 | 10 | 男 | 5 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | - | 5.0 |
| | | | 女 | 27 | 3 | 27 | 3 | 9 | 3 | 8 | 2 | 1 | 8 | 2 | - | 3.0 |
| | | | 計 | 32 | 3 | 32 | 3 | 10 | 3 | 9 | 2 | 1 | 9 | 2 | 3.2 | 3.2 |
| 計 | 30 | 男 | 7 | 2 | 7 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 0 | 3 | 2 | - | 2.3 | |
| | | 女 | 47 | 23 | 47 | 23 | 28 | 22 | 27 | 21 | 1 | 27 | 21 | - | 1.7 | |
| | | 計 | 54 | 25 | 54 | 25 | 31 | 24 | 30 | 23 | 1 | 30 | 23 | 1.8 | 1.7 | |
| 個別 | 前期 | 35 | 男 | 62 | 9 | 58 | 9 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | - | 11.6 |
| | | | 女 | 102 | 18 | 93 | 18 | 38 | 7 | 36 | 6 | 0 | 36 | 6 | - | 2.4 |
| | | | 計 | 164 | 27 | 151 | 27 | 43 | 7 | 41 | 6 | 0 | 41 | 6 | 4.7 | 3.5 |
| | 後期 | 5 | 男 | 60 | 10 | 35 | 8 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | - | 35.0 |
| | | | 女 | 75 | 13 | 32 | 6 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | - | 8.0 |
| | | | 計 | 135 | 23 | 67 | 14 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | 27.0 | 13.4 |
| 計 | 40 | 男 | 122 | 19 | 93 | 17 | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | - | 15.5 | |
| | | 女 | 177 | 31 | 125 | 24 | 42 | 7 | 40 | 6 | 0 | 40 | 6 | - | 3.0 | |
| | | 計 | 299 | 50 | 218 | 41 | 48 | 7 | 46 | 6 | 0 | 46 | 6 | 7.5 | 4.5 | |
| 社会人 | 若干人 | 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | | |
| | | 女 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 私費外国 人留学生 | 若干人 | 男 | 2 | / | 2 | / | 2 | / | 2 | / | 0 | 2 | / | - | 1.0 | |
| | | 女 | 1 | / | 1 | / | 0 | / | 0 | / | 0 | 0 | / | - | | |
| | | 計 | 3 | / | 3 | / | 2 | / | 2 | / | 0 | 2 | / | | 1.5 | |
| 合計 | 70 | 男 | 131 | 21 | 102 | 19 | 11 | 2 | 11 | 2 | 0 | 11 | 2 | - | 9.3 | |
| | | 女 | 225 | 54 | 173 | 47 | 70 | 29 | 67 | 27 | 1 | 67 | 27 | - | 2.5 | |
| | | 計 | 356 | 75 | 275 | 66 | 81 | 31 | 78 | 29 | 1 | 78 | 29 | 5.1 | 3.4 | |

・前期試験の課題図書：徳田雄人(2018)『認知症フレンドリー社会（岩波新書）』岩波書店

・入学手続者の県内率：37.2%

○令和2年度入試の特徴

1. 前年度と比べ志願倍率、合格倍率ともに上昇した。入学手続き者の県内率は、年度ごとに増減を繰り返しているものの、前年度と比べ減少している（下表）。

| | 令和2年度 | 平成31年度 | 平成30年度 | 平成29年度 | 平成28年度 |
|---------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 志願倍率 | 4.7 | 4.1 | 4.4 | 3.2 | 4.7 |
| 合格倍率 | 2.6 | 2.5 | 3.0 | 2.3 | 2.9 |
| 入学手続き者の県内率(%) | 37.2 | 42.1 | 43.8 | 47.3 | 42.1 |

2. 推薦入試の全国枠への県内からの出願（平成23年度から実施）については、3名の出願があった。
3. 平成26年度入試より開始した社会人入試については、出願がなかった。
4. 私費外国人留学生入試については、3名の出願および受験があり、うち2名を合格とし、2名の入学手続きがあった。

○課題

1. 本学部の志願者数は、昨年度と比較し大幅に増加したものの、入学手続き者の県内率は減少した。その背景として、大学入試センター試験が令和3年から大学入学共通テストに変更となり、大学入試の制度が大きく変わることが影響していると推察される。今後は県内および四国内の高校を対象とした入試広報が課題である。入試広報部会と連携し、高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて、学部広報委員会、介護人材確保部会、地域教育研究センターと協力し、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、志願者の増加に向けた取り組みを行う。
2. 令和3年度入学者選抜から実施する学校推薦型選抜の実施体制（当日の運営体制など）と選抜方法（学力の3要素の評価など）に係る課題を引き続き検討する。また、各高等学校等の推薦人員増による出願動向を注視する。
3. 新入生を対象に国語力および英語力測定テストを行い学力のデータを蓄積し、今後の入学者選抜に活用する。
4. 入学者選抜の実施体制（当日の運営体制など）に係る課題を検討し、受験者に不利益が生じないように、引き続き改善を図る。
5. 私費外国人留学生入学者選抜の実施体制（当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の評価基準など）について、引き続き検討する。
6. 障害を有する受験者への受験上の配慮について、受験者に不利益が生じないように引き続き検討し、入学後の受け入れ体制の整備につなげる。

学 生 委 員 会

横 井 輝 夫

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、その他生活上の悩みに対して、今年度も学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり、学業の継続に導いた。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。また必要に応じて、個別に健康管理センター等へ相談に行くことを促した。

2. 経済的支援に関する対応

安定した学業の継続には、経済的基盤が大切である。ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。また、授業料の免除や各種奨学金の申請に関する学生からの個別相談に対し、学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。個別のケースには、学年担当教員とゼミ担当教員が関与し、迅速に対応した。

3. 事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

4. 学生の活動への支援

バスハイク（1回生）、学年間交流会（1・2回生）、4回生を送る会（3回生）では、学年担当教員が企画・運営をサポートした。

5. 学生ニーズ調査

今年度は、2年に1度の学生ニーズ調査の集計が出された。学生の意見を全教員が共有し、よりよい授業の実現や学生への対応の意識を高めた。

○ 今 後 の 課 題

今年度は、学業面と精神面への支援、経済的支援に関する対応が例年以上に求められたように思う。学生は精神面、経済面、友人、家庭等の課題をかかえながら学生生活を送っている。学生が個々人の課題を乗り越え健全に学業を継続するためには、学生のかかえる課題に早期に気づき、対応することが必要になってくる。今年度は、学年担当教員とゼミ担当教員を中心に、健康管理センターや学生・就職支援課との連携で迅速で適切な対応ができたと思う。この部署間の密な連携が、最も重要な課題であると改めて認識した。

実 習 委 員 会

長 澤 紀 美 子

1. 実習委員会の活動の特徴

3福祉士（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）の資格取得に係る各コースの運営及び教育内容については、コース責任者（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員に委託しつつ、実習委員会は、3福祉士の実習及び実習関連科目が円滑に実施できるよう、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的としている。

2. 配属実習の内訳

本年度の配属実習は、相談援助実習で69名（昨年度72名）、精神保健福祉援助実習が17名（昨年度26名）、介護実習Ⅰは17名（昨年度23名）、介護実習Ⅱが23名（同17名）、介護実習Ⅲが17名（同12名）であった。※介護実習Ⅰ・Ⅲについては、実習期間の途中で新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

相談援助実習69名（内、児童2ヵ所実習者2名）の内訳は、社会福祉協議会19名、病院（精神科除く）20名、児童相談所5名、児童養護施設7名、児童自立支援施設2名、児童家庭支援センター1名、特別養護老人ホーム3名、介護老人保健施設2名、養護老人ホーム1名、小規模多機能型居宅介護1名、相談支援事業所3名、療養介護事業所・医療療養型障害児入所施設1名、障害児通所支援事業所1名、障害福祉サービス事業所4名、障害者支援施設1名であった。

精神保健福祉援助実習の17名の内訳は、精神科病院14名、精神科病床を有する一般病院3名、精神保健福祉センター1名、地域活動支援センター2名、障害福祉サービス事業所12名、相談支援事業所2名であった。

介護実習の内訳は、以下のとおりである。

介護実習Ⅰの17名では、特別養護老人ホーム6名、軽費老人ホーム8名、障害者支援施設6名、生活介護5名、通所介護3名、通所リハビリテーション3名、訪問介護6名、小規模多機能型居宅介護3名であった。

介護実習Ⅱの23名では、特別養護老人ホーム13名、介護老人保健施設2名、障害者支援施設5名、療養介護／医療型障害児入所施設3名であった。

介護実習Ⅲの17名については、特別養護老人ホーム10名、介護老人保健施設3名、療養介護／医療型障害児入所施設4名であった。

3. 実習連絡協議会

各実習先の実習指導者より配属実習に関する要望や意見を聴取し、率直な意見交換を通じてより良い実習指導体制を整えるために、今年度も下記のとおり、コースごとに実習連絡協議会を企画したが、介護実習連絡協議会のみ開催し、3月に予定していた相談援助実習及び精神保健福祉援助実習の連絡協議会は、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止した。

7月29日（月） 介護実習連絡協議会

参加施設数：14施設 参加実習指導者：24名

3月3日（火） 相談援助実習連絡協議会 中止

3月10日（火） 精神保健福祉援助実習連絡協議会 中止

4. 成果と課題

（1）福祉実習支援室の体制づくり

従来、福祉実習支援室を担当する助教教員と実習支援室長（加藤講師）、実習委員長との連絡会議を月1回実施し、実習事務や実習費の有効な使途に関わる情報交換を図っている。助教教員による事務との連携、また業務円滑化に向けた皆様の努力や創意工夫のおかげで、今年度も大きな問題もなく実習業務を実施することができた。また実習支援室は、実習先や所管行政窓口との文書や電話の窓口だけでなく、学生の実習、ボランティア、学習その他学生生活全般に関する相談窓口ともなっており、年度末に助教教員により、学生、教員ともが使いやすくなるよう、実習支援室のレイアウト変更を行った。

（2）円滑な実習指導体制の継続、及び新型コロナウイルス感染拡大に伴う配属実習を始めとした養成教育の保障、新カリキュラムへの対応

平成31（令和1）年度は、社会福祉士、介護福祉士養成担当として新任教員を迎えることができ、前年度の欠員が充足され、実習指導体制もひとまず落ち着いた。令和2年度の課題として、令和3年度の社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムの施行を踏まえて準備していくことが挙げられる。また喫緊の課題として、令和2年3月に予定されていた介護実習Ⅰ・Ⅲが感染拡大のため中止したことや、今後の感染状況と医療福祉現場への影響を見据え、令和2年度の3福祉士に関わる配属実習の時期・実習先及び教育内容について、学生の不利益にならないような教育保障のあり方を学内で検討することが必要である。

就 職 委 員 会

横 井 輝 夫

1 社会福祉学部の就職活動支援

（1）就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2019年4月に全学・学部計2回）
- ・家庭裁判所調査官職場見学（2019年5月）

（2）学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携

今年度は特に学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携強化を意識的にはかった。就職への意識を高めるために、学生には春先からワクワク Work!!に行くことを強く勧めた。次の段階は学生にワクワク Work!!での適正検査や履歴書の添削、面接練習を受けることを勧めた。就職活動が活発な時期に入ると、1か月に数回ワクワク Work!!と連絡をとり、学生の就職内定状況や就職について個別の悩みを抱えている学生の情報を共有し、相互が対応した。また、ワクワク Work!!に届いた求人情報は4回生担当教員に定期的に送ってもらい、必要に応じて学生へ情報提供した。

また、民間企業を希望する学生には、永国寺キャンパスに届いている求人情報を確認するように促した。

（3）個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しつつ、ゼミ担当教員が中心となり、具体的な就職先や悩みの相談にのった。

（4）情報提供

学生には学生・就職支援課ワクワク Work!!から情報が提供されているが、各教員に届いた求人情報については、ポータルメールで学生に届けた。そして年を超えた時点からは、就職内定未定の学生に集中的に就職情報を届けた。

2回生、3回生に対しては、例年行われている卒業生を招いた就職相談会を実施した。

2 進路状況

就職希望者：63名

就職内定先：

| | | | |
|-----------|------------|---------|------------|
| ① 公務員等 | 12名(19.0%) | ② 医療機関 | 22名(34.9%) |
| ③ 社会福祉協議会 | 6名(9.5%) | ④ 福祉施設等 | 20名(31.7%) |
| ⑤ 民間企業 | 3名(4.8%) | ⑥ 進学 | 0名(0.0%) |

3 今後の課題

国家試験が近づくと就職活動が手につかなくなる。希望する就職をし、国家試験に集中するためにも就職活動が年をまたがないことが大切だと思う。そのためにも学生への就職への意識を早期に高め、ワクワク Work!!につなぐことが重要である。

広 報 委 員 会

遠 山 真 世

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会は、遠山・河内講師・大熊助教・雑賀助教が担当した。

（１）「大学案内」の編集・製作

2021年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新し、掲載学生や卒業生についても一新した。

（２）オープンキャンパス：7月28日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員との個別相談会、先輩との談話室、体験授業（西内教授・加藤講師）、ゼミ室訪問、介護体験などのプログラムを実施した。参加者数は246名であり、どのプログラムも参加者から高い満足度を得ることができた。

（３）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度は1回生3名・2回生3名の計8名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてPRを行った。

（４）キャンパス訪問への対応

高校生や高校進路指導教員による学部訪問6校に対応した。学部紹介、介護実習室の見学、事例検討のグループワーク体験などを行った。

（５）学部パンフレットの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について、最新情報に更新した。

（６）学部ホームページの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について最新情報に更新するとともに、国家試験の合格率や就職先の分野を更新し、計19件の「新着情報」を掲載した。

（７）学部PR動画の公開

昨年度から撮影・作成していた学部PR動画を公開することができた。学生の声や授業の様子を盛り込んだ「学生PV」の他、教員による「障害者福祉」「ソーシャルワーク論」「地域福祉論」「医療ソーシャルワーク論」「児童・家庭福祉論」を公開した。

○今後の課題

本年度のオープンキャンパスでは、教員との個別相談会への参加者が非常に多かった。次年度はさらに混雑することが予測されるため、会場設定や教員配置、誘導方法などに工夫が必要と考えられる。体験授業は一方の教室が先に満杯となり、他方の教室へ案内する形となった。よりスムーズに誘導できるよう会場設定等について考慮したい。

また、本年度は学部PR動画を公開することができ、高校から本学への訪問があった際に周知することができた。次年度以降は進学ガイダンス等より多くの場で活用し、入試広報部会や介護人材確保事業部会と協働しながら、高校生・高校教員・保護者等に学部の魅力を発信し、受験者確保に取り組んでいきたいと考える。

介護人材確保部会

河内 康文

1. 集合型研修 県大生と行く職場見学ツアー

○開催日時：2019年7月27日（土曜日） 10：00～15：00

○開催場所：介護老人福祉施設 やまだ荘 障害者支援施設 アドレス・高知
高知県立大学池キャンパス 本部・健康栄養学部棟 A305

○講師：河内康文（社会福祉学部 講師），黒岩賀永（ウエルリブじんざん 施設長），東仲南奈（ウエルリブじんざん 卒業生），福本和生（ウエルリブじんざん 卒業生），黒田孝道（アドレス・高知 施設長） 富永祐哉（アドレス・高知 卒業生），大塚由希子（高知市役所 卒業生）

○対象：高校生と保護者 ○参加者数：50人（スタッフ等含む）

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的とする．大学教員と学生及び高校生が介護現場を訪問し，専門職の役割やキャリアについて具体的事例から学ぶ．

（2）活動成果

アンケート集計結果からは，すべての参加者が福祉・介護のイメージが良くなったという回答が得られた．また，同アンケートからは「介護施設の職場体験に行って話を聞くなかで自分のイメージと異なる部分がたくさんあり，前より興味を持つことが多くなった」，「見学させていただいて今までの介護の印象ががらりと変わった感じがして，福祉・介護についても調べていきたいなと思ったし興味を持ちました」などの記述が見られた．

（3）活動評価

本事業のプログラムは，3年目となる．事業の定着はしつつも，参加者数（スタッフを含む）は52名→52名→50名とほぼ変化が見られない．より多くの高校生と保護者が参加を促すためには，多様なプログラムを検討する必要がある．参加者が実際に介護現場に行く取り組みや，高知県立大学の卒業生が活躍する職場を訪問することは，アンケート結果に基づき福祉・介護分野でのイメージの転換や，キャリアのイメージが構築できたといえる．

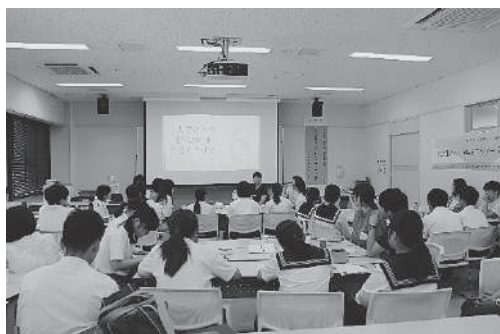
（4）当日の様子



コミュニケーション体験



福祉機器体験



シンポジウム



グループワーク

2. 集合型研修 卒業生と行く職場見学ツアー

○開催日時：2019年9月29日（日曜日） 9：30～16：30

○開催場所：梶原町複合福祉施設

○対象：高校生と保護者 ○参加者数 32名

○講師：片岡妙子（社会福祉学部 助教）、福田敏秀（社会福祉学部 助教）、森 奈津美（梶原町複合福祉施設 卒業生）、村尾春奈（卒業生）

（1）事業概要

本事業は、高校生と保護者及び大学教員と卒業生・学生が中山間地域の介護現場を訪問し、専門職の役割やキャリアについて具体的事例から学ぶ。高校生とその保護者等に対し、福祉課題が先進している高知県の中山間地域における福祉・介護分野の実際を明確に示すことで、将来的な福祉・介護課題を認識した人材確保につなげることを目的に実施した。

（2）活動成果

アンケート集計結果は、回答者全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護が良いイメージになった」と示されていた。また、同アンケートからは、「自分ではいけない遠くの介護施設を見学することができたので良かったです」、「実際に卒業生が働いている職場の見学やお話が聞けて、すごく自分の為になった。高知の人たちが地域でつながっていることがよく分かった」などの記述が見られた。

（3）活動評価

今年度はじめての開催であったが、32名の参加があった。32名のうち県外からの参加は5名であった。アンケート集計結果に基づき、目的であった中山間地域での福祉・介護の実際を学ぶとともに、福祉・介護への興味、仕事に対する意欲がより高まっていることが示されていた。今回参加した学生は、梶原高校出身であった。その学生は、高校生のときに本学の地域学実習や高校生と保護者のための公開講座に参加している。スタッフとして参加する卒業生や学生の経験を活用することは、高校生はもとより学生の学びがより充実すると思われる。

（４）当日の様子



バスの中でのレクリエーション



梶原町複合福祉施設の外観



グループでの学習



卒業生によるプレゼンテーション

3. 集合型研修 高校生と保護者のための公開講座

- 開催日時：2019年10月26日（土曜日） 11：00～14：45
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス 本部・健康栄養学部棟A306等
- 講師：社会福祉学部：横井輝夫教授，辻 真美講師，河内康文講師
 ゲスト講師：福島富雄氏（脳卒中リハビリテーション研究所）
- 対象：高校生と保護者 ○参加者数：114人（延べ人数，スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった。その後，福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として，高校生の関心に
応じた選択制の各論的演習（2コース）を行なった。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，「A，B，C講座，全部聞けてすごくためになりました。自分
も大学に入って勉強したくなりました」，「もっと深く学んでみたいと思いました」，など大
学での授業を実際に受けてみることで，勉強してみたいというアンケート結果が40名中
37名（2名はわからない1名は未回答）であった。

（３）活動評価

今年度は114名の参加であった。参加者の過去3年の比較としては，2017年度は154
名，2018年度は156名である。保護者とスタッフの減少から，全体の参加者数は減少した

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

が、高校生の参加人数は昨年より増加した（36名→73名）。アンケート結果から、参加者の満足度は高く、福祉・介護領域の興味や理解につながったといえる。

（４）当日の様子



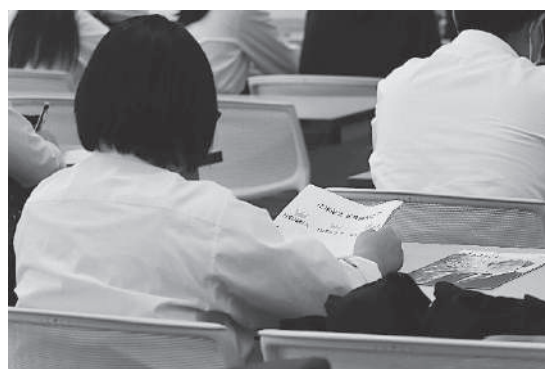
人生の過程を考えよう



輝く人生とは



片麻痺は不自由だけど不幸ではない



熱心に講義を聴く高校生

4. 集合型研修 新高校生2・3年生のための入門講座

○開催日時：2020年3月23日（月曜日） 10：30～12：00

○開催場所：高知県立大学本部・健康栄養学部棟A306

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して、大学教員が福祉・介護領域の学問的な入門講義を総論的に行う予定である。その後、福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として、高校生の関心に応じた各論的演習を行う。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

5. 訪問型研修（計7回）

○開催日時：場所

- | | | | |
|-----|------------------|-------------|-----------|
| （１） | 2019年10月21日（月曜日） | 15：30～16：30 | ：高知北高等学校 |
| （２） | 2019年10月21日（月曜日） | 16：00～17：00 | ：岡豊高等学校 |
| （３） | 2019年10月21日（月曜日） | 16：30～17：30 | ：安芸高等学校 |
| （４） | 2019年10月23日（水曜日） | 16：00～17：00 | ：高知農業高等学校 |
| （５） | 2019年10月24日（木曜日） | 17：00～18：00 | ：高知南高等学校 |

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

- (6) 2019年10月28日（月曜日） 16:00～17:00 : 山田高等学校
(7) 2019年10月28日（月曜日） 17:00～18:00 : 高知丸の内高等学校
~~(8)~~ 2020年3月 中村高等学校 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- 講師：社会福祉学部：横井輝夫教授（7）、河内康文講師（3）（5）、片岡妙子助教（1）（6）、福田敏秀助教（2）（4）、入野文菜（医療ソーシャルワーカー 卒業生）、横田八恵（安田町社会福祉協議会 卒業生）、社会福祉学部学生
○対象：高校生・高校教員
○参加者数：計99人（講師・スタッフ等含む）

（1）事業の概要

高校生に対する福祉・介護の概要理解を目的に、高知市内外の高等学校に訪問し、大学教員が理論、専門職が福祉・介護現場の実際、学生が大学での学びの実際を説明した。

（2）活動成果

アンケート集計結果は、概ね好評であった。具体的には「福祉の事をきらきらとお話しされていて、『福祉に対する思いは違うだろうけど福祉を思う気持ちは一緒』という言葉にとっても胸を打たれました。福祉って素晴らしいと改めて感じました」、「この講座を通してもっと福祉に興味を持ちました」、「福祉に興味をもった。私はまだ将来したいことが決まっていないので、ボランティア、行事等に取り組み、視野を広げたいです」などの回答が見られた。

（3）活動評価

本事業が4年目となり、高校生時に受講した生徒が本学学生となりスタッフとして参加をしている。また、大学生スタッフ経験者が専門職として参加もしている。高校側の受入も好意的になり、事業継続による効果が見られる。より多様な経験を有するスタッフが参加することにより、さらなる内容の充実を図っていきたい。

（4）当日の様子



大学生による講義



大学生とのグループワーク

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）



専門職を加えたワーク



シンポジウム形式での学び合い



社会福祉の事を
わかりやすく
学べます。

県大生と行く
職場見学ツアー
2019

7.27 sat

卒業生と行く
職場見学ツアー
2019

9.29 sun

高校生と保護者のための
公開講座
2019

10.26 sat



新2・3年生のための
入門講座
2020

3.23 mon

オープンキャンパス
7月28日[日]
9:30 - 16:00
会場：池キャンパス



高知県立大学 社会福祉学部

| | | |
|---|--|------------------------------------|
| <div style="text-align: right;"> <p>体験 1</p> </div>  <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">最新の「高齢・障害施設編」</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">県大生と行く 職場見学ツアー</p> <p>2019年 7月27日 [土] 9:30-15:00 (受付9:00~)</p> <p>高知県立大学 池キャンパス 1Fロビー受付 本部・健康栄養学部棟 3F A305 〒781-8515 高知市池2751-1</p> <p>教員・県大生と一緒にOB・OGの職場 「高齢・障害施設」を見学します。昼食を持参してください。</p> | <div style="text-align: right;"> <p>講座 1</p> </div> <p>2019年 10月26日 [土]</p> <p>池キャンパス 高知県立大学 本部・健康栄養学部棟 3F A306 1Fロビー受付 〒781-8515 高知市池2751-1</p> <p>当日は、紅葉祭(大学祭)を池キャンパスで開催します。 関心のある講座を選択して受講してください。</p> <p>A 人生の過程を考えよう 横井 輝夫先生(社会福祉学部) 11:00-12:00 (受付10:30~)</p> <p>B 輝く人生とは 一福祉職が目指すものー 社 真美先生(社会福祉学部) 13:00-13:50 (受付12:30~)</p> <p>C 片麻痺は不自由だけど 不幸ではない 福島 とみお先生(脳卒中リハビリテーション研究所) 河内 康文 先生(社会福祉学部) 14:00-14:50 (受付13:30~)</p> <p>同日開催 公開講座 社会福祉学部リカレント教育講座 ピアサポートとは 一宝物としてのがん体験からー 大松 宣宏先生(社会福祉学部) 13:00-15:00 本部・健康栄養学部棟 3F A305 一般の方も対象とした公開講座です。 高校生や保護者のみなさまも自由にご参加ください。</p> | <p>高校生と保護者のための 公開講座</p> |
| <div style="text-align: right;"> <p>体験 2</p> </div> <p>中山間地域：「栲原町複合福祉施設編」</p> <p>卒業生と行く 職場見学ツアー</p>  <p>2019年 9月29日 [日] 9:30-16:30 (受付9:00~)</p> <p>高知県立大学 池キャンパス 1Fロビー受付 本部・健康栄養学部棟1Fロビー集合 〒781-8515 高知市池2751-1</p> <p>昼食を持参してください。</p> | <div style="text-align: right;"> <p>講座 2</p> </div> <p>新2・3年生のための 入門講座</p> <p>2020年 3月23日 [月] 10:30-12:00 (受付10:00~)</p> <p>池キャンパス 高知県立大学 本部・健康栄養学部棟 3F A306 1Fロビー受付 〒781-8515 高知市池2751-1</p> <p>社会福祉の入門的な内容を体験により学びます。 「認知症サポーター養成講座」を行います。</p> | <p>入門講座</p> |

事前のお申し込みが必要です。
締切り／1週間前に必着。参加費無料
保護者・高校の先生方もご参加いただけますので
ぜひ、ご一緒にご参加ください。

別紙受講申込書に、必要事項をご記入の上お申込みください。
○ファックスの場合／Fax.088-847-8670
○郵送の場合／高知県立大学 〒781-8515 高知市池2751-1
○受講申込書の無い方／学校名、学年、お名前、希望講座を明記の上、
右のQRコードからメールでお申込みください。
※受付が完了しましたら、受講申込書にご記入頂いた連絡先に、
受付完了のお知らせをお送りします。



高知県立大学 健康長寿センター

お問い合わせ Tel.088-847-8700 企画連携課迄

場所の詳細は、高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。
<http://www.u-kochi.ac.jp/>
駐車場は南駐車場をご利用ください。

キャリア支援委員会

杉原 俊二

キャリア支援委員会は、委員長を杉原、加藤講師（学内委員長）、遠山講師、雑賀助教、福田助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

①日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会の準備と実施

今年度は、第51回高知大会として本学社会福祉学部が当番校となった。その事前準備の大半をキャリア支援委員会が中心となって引き受けた。これは杉原が中国・四国地域ブロックの役員をしていることと密に関係がある。

杉原が役員に就任する以前から、すでに当番校の順番が決められており、本来であれば2019年度は岡山県の川崎医療福祉大学が当番校となる予定であったが、その大学が別の学会の学術集会の開催をすでに引き受けており、当番校を辞退したいとの申し出があった。本学部は2020年度の当番校となっており、1年繰り上がる形になるが引き受けてくれないかという強い依頼があった。本学部を持ち帰り、学部長と相談したところ、引き受けることになった。また、学部の業務として、それにあたることができるようになった。

昨年度の10月から準備はスタートしており、2019年7月13日に開催された。前日・当日と多くの先生方に準備にあたっていただき、無事に終えることができた。その後、新型コロナ問題で第51回岡山大会が中止となり、2019年度に引き受けておいてよかったと個人的には思っている。

②高知県立大学社会福祉学会（仮称）の設立準備

これは、社会福祉学部・人間生活学研究科社会福祉学領域の教員・在学生・卒業生を中心とした「学内学会」の設立することを決め、その準備に取り掛かっている。

2017年10月8日に学部創立20周年記念事業が行われ、そこで卒業生・在学生・在職教員相互のネットワーク化、社会福祉研究や専門性・キャリア形成の進展、卒業生の実践活動の促進などを目標とするキャリア支援ができることを目標とした。一つの形になり、約300名の参加を得て成功を収めることができた。また、本学卒業生が大学院博士前期課程への進学を目指すための支援者、修了生が博士後期課程へ進学するための支援、博士後期課程修了生が共同研究をする基盤を作りたいと考えていた。実際に1件ではあるが、博士後期課程の修了生との共同研究ができており、博士前期課程から後期課程への進学希望者（入学予定者）も4名出てきた。

すでに看護学部には「学内学会」があり、それを手本にしながら、本学を会場としてリカレント教育の一環として、講演会と研究発表の場を設けたいと考えている。学部内での調整を続けているが、生方のご協力をお願いする。

③リカレント研究会事業を中心としたキャリア支援の取り組み

前年度に引き続き実施した。

本年度は「スクールソーシャルワーク研究会」として、SSWの現場にいる卒業生に対し4

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

月25日から1月23日まで6回実施しており、延べ26人が参加した。また、「新人教育及びキャリアについて」をテーマとして、介護コース卒業生を対象とした卒業生による報告と情報交換会を2月15日に実施し、18人が参加した。西梅ゼミ（卒業生）では、卒業生のリクエストに応じて、2月より「ソーシャルワーク学習会」として開催を予定し、2回実施したが、以降は新型コロナの問題で中止となっている。

2. 今後の課題

キャリア支援委員会が組織されて4年目であり、全学の方では、就職活動に力を入れているが、社会福祉学部の場合は、就職と並行して（それ以上に）卒業生の卒後教育やキャリアアップも考えていく必要がある。できるだけの支援をおこないたい。

健康長寿センター

辻 真美

○活動内容

1. 健康長寿センター 運営委員会

全学での運営委員会として、令和元年4月から令和2年3月において会議を11回実施した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（河内・片岡・福田・辻）・総務部企画課健康長寿担当者

3. 令和元年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）

①社会福祉リカレント教育講座，②健康長寿センター体験型セミナー 社会福祉学部主催 いの町，③健康長寿センター体験型セミナー 体験ブース「認知症チェック・テスト体験」担当，④長寿健康センター開設10周年記念事業 シンポジスト（河内）及び体験ブース担当，⑤第11回みさとフェア 体験ブース担当

○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については4名の教員による講座を行った。受講者アンケートには詳細な感想が多く寄せられており、各講座ともに好評であった。また受講者の多くはSW, CM, CW等福祉職であったが、一般参加や高校生もみられた。

②社会福祉学部主催による体験型セミナーをいの町で開催した。学部雑賀助教による講演と看護学部，健康栄養学部，社会福祉学部の3学部による体験ブースを実施した。事前に社協の担当者と打ち合わせを行い、町民の健康についての行動を活性化することを目的に行った。

③体験型セミナーの体験ブース「認知症テスト体験」では、体験を希望する受講者が多く、認知症に対する地域住民の意識の高さがうかがえた。

① リカレント教育講座

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者 |
|-------|--|-----------|-----|
| 10/26 | ピアサポートとは～宝物としてのがん体験から～ | 大松 准教授 | 12人 |
| 11/30 | 高知県における権利擁護支援の現状 | 行貞講師 | 14人 |
| 12/7 | 介護現場でのコミュニケーションを考える ～チームケアの向上にむけて～ | 辻講師 | 25人 |
| 12/21 | 「変えられないは」は変えられる！？ 「諦め」の先にある可能性を求めて～ | 稲垣助教 | 16人 |

② 体験型セミナー

| 開催日 | テーマ | 開催場所 | 参加者 |
|------|-------------------------|------|-----|
| 12/2 | つながりの大切さ～認知症予防と防災の事例から～ | いの町 | 41人 |

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

大松 重宏

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 学生の臨地実習（上記事業1にあたる）については、前期で、社会福祉コース（3回生2名）の相談援助実習、精神コース（4回生2名）の精神保健福祉援助実習が終了した。実習の中で、理想と現実のギャップや、患者の環境、多職種等組織の中で働くことなどの課題に対し、様々な場面に応じた伝え方、客観的、多面的な視点を意識するまでに到達でき、効果的な実習であった。後期において、社会福祉コース（2回生5名）が来年度の相談援助実習に向けて、MSWの業務内容の把握や現場見学を行った。
2. 共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回、定期開催した（3月はコロナ感染拡大防止のため中止）。事例は、MSWが今悩んでいるケースや、終結しているが振り返りたいケースなどを発表した。特に今年度は、ケースに関わった他職種の参加や看護学部の教員が参加してくれており、様々な角度から事例を深める機会になった。また6月には社会福祉学部の教員による「多職種におけるスーパービジョンとは」と題し多職種とのチーム医療についての講義を行った。
3. 共同研究（上記事業4にあたる）については、高知市医師会に加入し高知医療センターと連携している医療機関（198施設）に対し、診療に関するアンケート調査票を送付し151施設から回答を得た。収集した情報はデータ整理を行い製本し、高知医療センター内（外来・病棟等）で活用している。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 次年度においても過去の研修を参考に、実習や見学が円滑かつ効果的に進められるように、創意工夫を行う。
2. 次年度も引き続き事例検討を実施する。今後も看護学部の教員をはじめ他職種や学生の参加を促進し、多様な視点からの事例検討ができるようにする。
3. 「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の作成について、新人教育への活用を目的に新年度からの体制で再開する予定である。

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

平成31年度 看護・社会福祉包括連携事業計画（社会福祉部会）

色は終了した事業

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1) 学生の臨地実習

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---------|--------------------------------|---------------|----|--|
| 1 前期 | 8/13～9/17 (社会福祉) | 社会福祉学部 3回生 | 2 | 相談援助実習による配属実習 社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習 |
| | 7/16～7/31 8/13～8/29 (精神) | 社会福祉学部 4回生 | 2 | 相談援助実習による配属実習 精神保健福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習 |
| 2 後期 | 9月19日 | 社会福祉学部 2回生 | 5 | 相談援助実習による見学実習 医療相談室におけるソーシャルワーク見学実習 |

2) 教員の臨床研修

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|--------|----|------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2 | | | | |

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1) 基礎教育

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|-----------------|------|------------------------------|
| 1 | 毎回参加予定 | 社会福祉学部 2,3回生 | 順次参加 | 定例研修会(3. 教員コンサルテーションに該当)への参加 |
| 2 | | | | |

2) 継続教育

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|--------|----|------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2 | | | | |

3) 大学院教育

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|--------|----|------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2 | | | | |

3. 教員によるコンサルテーションの実施

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 参加人数 | 事業内容 |
|---------|--|--|------|---|
| 1 前期 | 4月19日(火) 17:30～ 医療センター がんサポートセンター 4階 研修室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (宮上多加子学部長・大松重宏先生) ●地域連携室看護師 (竹内浩美) ●ソーシャルワーカー (川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂・小島秀浩) | 12名 | ①参加者自己紹介 ②本年度計画の確認 ※司会(川上) |
| 2 前期 | 5月21日(火) 17:30～ 医療センター 1階 研修室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●地域連携室看護師 (竹内浩美) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●社会福祉学部学生 (隅田咲希・柿木望緒・玉木佐知・國廣穂乃花・岡田藍美・高橋亜弥・濱田明里・小松未歩・山本桃香・吉川水葵) ●看護師 (小原智世科長) ●高知県立大学教員 (田井雅子先生・藤代知美先生・井上さや子先生・木下真里先生) ●高知県立大学大学院生 (中村優太先生) | 29名 | ①参加者自己紹介 ②事例検討(川上) 『決められないクライアントへの関わりを通して』 ※司会(西原) |

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

| | | | | |
|---------|---|---|-----|--|
| 3 前期 | 6月18日(火) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●地域連携室看護師 (竹内浩美) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (小島秀浩) ●社会福祉学部学生 (細川瀬菜) | 13名 | <p>大学教員講義(大松先生)</p> <p>『多職種(異職種)におけるスーパービジョンとは ～仲間で支え合おう!～』</p> <p>※司会(和田)</p> |
| 4 前期 | 7月16日(火) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 ●地域連携室看護師 ●ソーシャルワーカー ●事務職 ●社会福祉学部学生 | 名 | |
| 5 前期 | 8月20日(火) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・渡邊愛友・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●高知県立大学教員 (藤代知美先生・永井真寿美先生) | 14名 | <p>事例検討(藤井)</p> <p>『援助的な関わり』</p> <p>※司会(渡邊)</p> |
| 6 前期 | 9月17日(火) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●ソーシャルワーカー (川上めぐみ・西原梓・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●地域連携室看護師 (竹内浩美) ●看護師 (岩崎尋世科長、明神優看護師) ●心理士 (松下亜由美) | 12名 | <p>事例検討(西原)</p> <p>『あの子は幸せでしょうか～障害を持つ児と母との関わり～』</p> <p>※司会(羽方)</p> |
| 7 後期 | 10月21日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生) ●地域連携室看護師 (竹内浩美) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・丁野江里子・羽方沙由美・結城祐佳・兵頭七海) ●看護師 (小島純子科長) ●高知県立大学教員 (瓜生浩子先生) ●高知県立大 大学院生 (馬屋原健裕・松石由美子) | 14名 | <p>事例検討(丁野)</p> <p>『思い込みの支援』</p> <p>※司会(藤井)</p> |
| 8 後期 | 11月18日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●高知県立大学教員 (庄司麻美先生・門田麻里先生) ●高知県立大学大学院生 (溝淵美智子、竹内) ●社会福祉学部学生 (横田真奈香・山本真奈可) | 17名 | <p>事例検討(和田)</p> <p>『患者自身が持つ“力”への気づき』</p> <p>※司会(兵頭)</p> |

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

| | | | | |
|----------|---|---|-----|---|
| 9 後期 | 12月16日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵里奈先生) ●ソーシャルワーカー (川上めぐみ・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●高知県立大学教員 (乾由美先生・久保田 聡美先生) ●社会福祉学部学生 (松岡菜穂・濱渦麻子・新開直明・青中玲奈・松村宏人・河野郁子・高橋和子・生原杏) | 18名 | <p>事例検討(羽方)</p> <p>『家族の思いに沿って～声かけ一つで変わる思い～』</p> <p>※司会(丁野)</p> |
| 10 後期 | 1月20日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏先生) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・西原梓・竹村深貴・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・結城祐佳・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●高知県立大学教員 (久保田聡美先生・乾由美先生) ●高知県立大学大学院生 (溝渕 美智子) ●社会福祉学部学生 (山中風紗・小原麻侑・新開直明・河野郁子) | 18名 | <p>事例検討(竹村)</p> <p>『精神疾患を有するクライアントを緩和ケアにつなげることに苦慮したケース～意思決定能力のアセスメントの難しさ～』</p> <p>※司会(結城)</p> |
| 11 後期 | 2月17日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜先生・大松重宏先生) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・結城祐佳・兵頭七海) ●事務職 (西原美穂) ●高知県立大学教員 (久保田聡美先生) ●高知県立大学大学院生 (竹内奈々恵・松山円) ●社会福祉学部学生 (新開直明・河野郁子・高橋和子・濱渦麻子・荒木めぐみ・横田真奈香) | 20名 | <p>事例検討(兵頭)</p> <p>『急性期病院における治療選択の場でSWが担う役割について』</p> <p>※司会(竹村)</p> |
| 12 後期 | 3月16日(月) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室 ↓ 中止 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 ●地域連携室看護師 ●ソーシャルワーカー ●事務職 ●社会福祉学部学生 | 名 | <p>①本年度の振り返り</p> <p>②次年度の計画確認</p> <p>※司会(羽方)</p> <p>↓</p> <p>中止</p> |

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|---|----|--|
| 1 | 4月～3月 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (川上めぐみ・丁野江里子) ●事務職 (西原美穂・小島秀浩) | 未定 | 高知市医師会で医療センターと連携している医療機関(診療所及びクリニック)の情報を収集するためにアンケート調査票を送付(198施設)、回収した(151施設)。その後、製本のためのデータ整理を行った。 |
| 2 | | | | |

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|--------|----|------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2 | | | | |

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

| | 実施日・期間 | 氏名or対象 | 人数 | 事業内容 |
|---|--------|--------|----|------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2 | | | | |

災害対策プロジェクト

辻 真美

○本年度のとり組み

全学の災害対策プロジェクト担当として辻、その他に学部委員会として雑賀正彦助教、長澤紀美子教授が参加し、さらには合同災害訓練に関しては DNGL の大学院生を加えたメンバーで構成した。主な取り組みは以下の通りであった。

1. 高知医療センターとの合同災害訓練

（1）災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

合同災害訓練の計画・検討を令和元年6月より、月2回のペースで行った。あわせて、合同災害訓練の直前期には社会福祉学部、看護学部、DNGL で合同会議を行い、それぞれの役割と連携について協議しながら、マニュアルの改訂を同時に行った。

（2）合同災害訓練の実施

当初10月12日（土）8時～12時30分に予定していた令和元年度合同災害訓練は、台風の接近に伴う天候不良のため、延期となった。日程を改め、12月15日（日）8時～12時30分に行なわれ、本学部は避難所運営支援を中心に関わった。社会福祉学部では学生51人（内1回生49人、3回生2人）、教員9人が参加した。

（3）令和元年度避難所運営支援の目標

目標1：学生は、（医療センター経由ではなく）大学に直接避難してくる避難住民の役割の設定及び避難後の待機時間に研修を実施し内容を検証する。

目標2：軽傷者看護エリア（看護学部）、栄養アセスメント（健康栄養学部）との連携、情報共有のあり方を検証する。

目標3：学外より、地域住民等（池住民・望海ヶ丘住民、外国人、障害者）が参加するため、それぞれの対応にあたっての課題を明らかにする。

（4）評価

訓練内容を見直す参考にするため、訓練後、参加者にアンケートを実施した。回収数は231であり（学生154、教職員41、住民等36）、集計結果は以下の通りであった。まず、「訓練による実際のイメージ化が図れたかどうか」の問いでは参加者の多くが「ややイメージができるようになった」（73.7%）と「大変具体的にイメージができるようになった」（10.9%）と答えていた。2つめの問い、「避難所への出入りや受付のスムーズさ」においては、「まあまあスムーズにできた」（41.76%）が最も多く、次いで「とてもスムーズにできた」（24.4%）、「どちらともいえない」（22.4%）であった。理由としては、「案内、誘導してもらえたから。対応がしっかりしていた」、「しっかりとブースに案内してくれた、案内が良かった」の肯定的な回答が得られた。一方で、「動線が複雑であり、説明が欲しい」や「It little bit difficult for foreigner because we don't understand Japanese language.」という意見もあった。また、「避難所における問題点や心配事について」の自由記述では、「寒かった、床が冷たく、硬い。温度調整が必要」や「収容人数に対応できる運営

委員会活動年度報告書（災害対策プロジェクト）

メンバーが集まるのか」、「寝るときの横になるスペースの確保」、「足が悪いとき、立ち上がりが難しい」、「トイレが少ない」、「This shelter is good enough. but It would be better if it provide information using English language too.」といった意見や感想が得られた。さらに、「訓練を行うことで防災に対する意識が高まったかどうか」の問いについては、参加者の多くが「高まった」（86.3%）と答えていた。最後に、「訓練の充実化を図るための意見・感想」の自由記述では、「定期的に防災避難訓練を行うことによって意識向上につながる」、「非常に勉強になった、ためになった」、「緊張感が足りなかった」、「傷病者役が難しかった。不十分なところもあった。役割が詳細で事前に暗記しておくとうい」といった回答があった。実際に訓練を体験することによって、張り紙やレイアウト一つとっても安全な避難所運営の在り方に関わる重要なこととして認識する必要性を強く感じた。アンケートで得られた貴重な意見を踏まえ、今回の反省と今後の改善策としては次のとおりである。目標1では、事前学習等で役割のイメージ化を図られるよう工夫し、学生への周知をすすめていく。また、待機時間を災害福祉教育に活用すべく、今回実施した研修を継続して行っていく。目標2においては、緊急性の高い判断において軽傷者看護エリアと上手く連携が図れたとするも、多忙なかで面前の対応に追われてしまい情報共有の在り方の検証まではできなかったため、次年度の課題とする。目標3では、英語や中国語のコミュニケーションに苦慮した。実際、英語通訳者の呼びかけを複数回するも誰も名乗りではくれず、最後まで十分な対応ができなかったため、多言語対応の方法についても今後検討する。

（5）当日の様子



受付（ヒアリングシート）



居住エリアや要配慮エリアへと分かれる

2. 社会福祉学部における災害福祉教育

上記の高知医療センターとの合同災害訓練を通じた災害教育ならびに学部専門科目のなかの災害福祉に関する教育内容を学部教員間で共有した（3月教授会にて資料を作成し報告）。

○次年度に向けて

本年度実施された訓練の結果を踏まえて、参加者の多様化といった課題に対応すべく、多言語での掲示方法や翻訳アプリの活用、支援機関の把握等、具体的な課題解決や改善策を検討し、次回の訓練では積極的に取り入れていきたい。加えて、マニュアルの検証を行い、より実用的なマニュアルにしたい。また、本学部における災害福祉教育については引き続き、学部専門科目で取り込まれている災害教育の内容について教員間で共通認識をより深めていきたい。

総務・予算委員会

西梅 幸治

総務・予算委員会は、委員長を西梅が担当し、宮上学部長、加藤講師、田中助教、大熊助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

1. 活動内容

- ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計21回）。
- ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備
 - ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。
 - ・ 4回生の国試準備・卒論作成を中心に、空き教室や福祉情報資料室を自主学習室として使用できるように整備し、使用簿で管理する体制を作った。
 - ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、情報処理施設委員会とともにwindows10への移行を実施した。F207教室については、統計解析ソフトの導入も行った。
 - ・ E203グループワーク室にビデオカメラ及びテレビモニターを設置して、授業の円滑化を図った。
 - ・ 福祉実習支援室の配置転換やパーテーションの設置により、学生相談体制の充実に向けた環境整備を行った。
 - ・ 学長裁量経費にて、介護教材の取り替えを行った。
- ③ 学部日常事務の対応
 - ・ 寄贈資料・郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。
- ④ 『平成30年度社会福祉学部報』発行
 - ・ 平成30（2018）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。
- ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実
 - ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
 - ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書・DVDを選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
 - ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

2. 今後の課題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応などについては、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。今年度は、教員数が概ね充足し、各教員の学内業務の偏りもある程度修正できた。しかし役割分担の調整や、教員－事務職員との業務分掌の明確化・効率化などについては引き続き検討していく必要があると考えられる。あわせて今後も、丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部の重点事項への適正な予算配分について、事務局に協力を得ながら実施していきたい。

国試対策支援委員会

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、加藤講師、稲垣助教、大熊助教、雑賀助教、田中助教、玉利助教、福田助教で構成した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

| 月 | 概要 |
|-------|---|
| ４月 | 国家試験に関するガイダンス（４/６） |
| ５月 | 学内模擬試験（過去問５/１３） |
| ６月 | 学内模擬試験（過去問６/７、６/１０） |
| ７月 | 学内模擬試験（過去問７/１１、７/１２）、個別面談 「受験の手引」解説（介護福祉士８/７） |
| ８月～９月 | 「受験の手引」解説（社会福祉士・精神保健福祉士９/５・９/２４） |
| １０月 | 模擬試験（高知県社会福祉士会１０/６） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟１１/１・１１/２） 受験対策直前web講座周知 |
| １１月 | 国試対策講座、個別面談 |
| １２月 | 国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談、学内模擬試験（１２/２３） |
| １月 | 国試対策勉強会（１/６-１/８）、個別面談、自己採点集計 介護福祉士国家試験（１/２６） |
| ２月 | 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（２/１～２/２） |
| ３月 | 合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士３/１３、介護福祉士３/２５） 卒業後の手続きに関する説明（３/１９） |

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

（3）2019年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

| 総数 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|
| 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 97 | 54 | 60.8% | 70 | 55 | 78.6% | 27 | 4 | 14.8% |

合格順位：全国 25 位（既卒含）、全国 33 位（新卒のみ）／207 校（総数での学校数）

合格基準点：88 点（満点 150 点）

全国平均合格率：29.3%

合格順位：全国 5 位／51 校（受験者 50 名以上・新卒）

2）精神保健福祉士の合格率について

| 総数 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|------|------|-------|------|------|-------|------|------|--------|
| 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 17 | 16 | 94.1% | 16 | 15 | 93.8% | 1 | 1 | 100.0% |

合格順位：全国 3 位（既卒含）、全国 17 位（新卒のみ）／94 校（総数での学校数）

合格基準点：90 点（満点 163 点）

全国平均合格率：62.1%

3）介護福祉士の合格率について

| 総数（新卒） | | |
|--------|------|------|
| 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 12 | 12 | 100% |

合格基準点：77 点（満点 125 点）

全国平均合格率：69.9%

○今後の課題

今年度も、国試対策への意識づけを早期に行うために、「国試の日」（学内模擬試験）を5月から行い、全体で過去問を解く機会を3回行った。昨年度に引き続き、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に面談し相談・助言を行った。面談担当教員で目標設定のうえ、面談記録を共有しながら個別の学習状況を把握できるようにするとともに、学習方法について体系的なアドバイスができるようにした。

今年度は特に、就職活動や卒業論文との両立に悩み、国試対策に取り組むのが遅かったり、意欲的になることが難しい学生もみられた。しかし学生たち相互の意識高揚とそれに向けた支援により、社会福祉士の合格率は78.6%（新卒のみ）で、70名定員となつてから歴代2位の合格率という結果になった。また精神保健福祉士の合格率は、93.8%（新卒のみ）、介護福祉士の合格率についても100%であり、好成績となった。資格取得だけが目標ではないが、学生が必要を感じる資格の取得へ向けて、今後も学部全体で国試対策に集中できる環境づくりに取り組む必要があると感じている。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、苦手に感じて勉強し難いもの、対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望が多かった8科目を先生方に講義をしていただきました。これまでの出題傾向を基に、統計データや新制度、法律、歴史など、テキストのみでは把握することが難しい部分を中心に講義していただきました。また、国家試験に向けての勉強法や、頻出問題に絞った解説など、より国家試験に焦点を当てた対策もしていただきました。加えて、分かりやすくまとめられた資料は普段の勉強の一助となり、理解を深めることができましたと感じました。講義後も、質問に対応していただき、曖昧になっている点を払拭することができました。

講義に出席できなかった学生もビデオや資料を使い、効率的に学習に取り組むことができたのではないかと思います。講義を受けることで頭を整理することができ、本番に向けて、より一層気を引き締めて勉強に取り組むことができたと感じました。

国試対策勉強会について

本年度も、いの町にある宿泊・研修施設を利用して、国家試験に向けた2泊3日の国試合宿を行いました。国試1ヶ月前の時期に、規則正しい生活を整え、自身の勉強スタイルを確立することは、何より自身が国試の勉強をする上で大きなターニングポイントとなりました。また、合宿中は、自分のペースで勉強を進めていくことができるだけでなく、合宿に参加している仲間と合格を目指し、一丸となって勉強に励むことができました。仲間とは、勉強方法や理解が不十分な点を教え合うことで互いに助け合い、そしてやる気を奮い立たせ励まし合いながら勉強に取り組むことができました。参加している学生それぞれが、自身のスタイルで勉強を行いつつも、食事や休憩の時間には他愛もない会話をし、勉強との切り替えをすることでさらに集中力を保つことができたように思います。また、合宿中は先生方からの差し入れや励ましの言葉をたくさんいただき、大変大きな力となりました。先生方や職員さんの支えにより、勉強に懸命に励むことができました。

国試合宿に参加する目的は、学生それぞれ異なります。国試合宿は、試験勉強だけでなく、自分自身に向き合える貴重な場であることに間違いありません。限られた時間の中で、何をすべきかどのように勉強すべきか、見つけられると思います。参加後、そして国家試験受験後に、必ず、参加して良かったと感じられます。ぜひ、参加してみてください。

後輩の皆さんへ

4回生では、卒論、就活、国試、また実習など、大きな壁が立ち並んでいます。これら1つでも欠けてしまうと新しい道へと進むことができません。一体何から始めていけばいいのか悩んでしまうこともあると思います。そんな時は、先生方、先輩に相談したり、仲間と協力しながら励んでみてください。大切なのは焦らず自分のペースを掴み、1つずつ完成させていくこと、スケジュール管理を徹底し、時間配分を考えることだと思います。時間に余裕を持ちながら進めるのか、時間に追われながら進めるのか、全部自分次第です。後悔のないよう壁に立ち向かってください。時にはストレスが溜まり、息が詰まることもあると思います。仲間と息抜きをしながら切磋琢磨してください。応援しています。

学外イベントへの参加

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2019年6月2日（日）、高知県立春野総合運動公園にて「第21回高知県障害者スポーツ大会」が行われ、社会福祉学部の1回生がボランティアとして参加しました。このボランティアは、毎年恒例行事になっています。

毎年開催されるこの大会は、県内から多くの方々が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。また、会場での担当として、競技運営や表彰式のサポート、駐車場案内などの役割を担いました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。また、障害者スポーツについて考えるきっかけにもなり、とても有意義な経験となりました。



第1回高知ふくし総合フェアに参加しました

第1回高知ふくし総合フェアが、高知ちばさんセンターで7月12日（金）～7月14日（日）の三日間にわたって開催されました。社会福祉学部の1～2回生がボランティアとして参加しました。

全国からたくさんの方々が来場しているなかで、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自助具などを体験したり、実際に福祉機器を使用されている人のお話を聞いたりするなど、貴重な機会になりました。2回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備やその後の振り返り等にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。



太 鼓 部

太鼓部は現在(2020年4月17日)、4回生2名、3回生5名、2回生1名の合計8名で活動をしています。主な活動内容は、入学式や紅葉祭などの大学の行事を初め、介護老人保健施設などの福祉施設や地域のお祭りなどにおいて太鼓を演奏することです。演奏の練習は、1週間に2日～3日、池キャンパスの体育館でおこなっています。また、週末に演奏の本番を控えている際には、平日の昼休みの時間も活用し、練習に取り組んでいます。

太鼓部の特徴は、先輩と後輩との間の垣根が低く、部員同士の仲が良いことではないかと感じています。私たちが演奏する曲にはどれも、吹奏楽で用いられるような楽譜が存在しません。そのため、先輩から後輩への曲の引継ぎは、「ドン(叩く)、ツク(休む)、ドン、ツク……。」などと、叩き方を直接口頭で説明すること(口伝)によりなされるのです。紙媒体などではなく口伝によって曲が引き継がれることが、先輩と後輩との結びつきが強まることにつながっているのではないのでしょうか。

昨年は、卒業された先輩方の人数に対し新入部員を十分に迎えることができず、部員の減少に悩みました。部員の数が少ないが故に、本来であれば大太鼓を2台使用して演奏する曲を大太鼓は1台のみで演奏せざるを得ないなど、多くの厳しい局面に向き合わされました。この経験から、多くの新入部員を迎えることが太鼓部の課題であると感じるとともに、先輩方によって代々受け継がれてきた「伝統」を、自分たちもまた後輩へと引き継がなければならない、ということに改めて考えさせられました。この太鼓部には、この大学が高知女子大学であった頃からの長い伝統があります。この伝統が、次の世代、さらにその次の世代へと引き継がれるためには、部員一人ひとりが自らの演奏の技術を磨くことは当然ですが、各学年により多くの部員がいることが必要条件です。そのため、新入生を含め、多くの学生に太鼓部の魅力を発信していく方法を、今一度検討する必要があると感じています。



現在私たちは、新型コロナウイルスへの感染の拡大の影響により、新入部員を迎えること、また、演奏の練習をすることができない環境におかれています。一刻も早く、新入部員も迎え、部員全員が集まって練習に取り組むことができる日が、そして、私たちの太鼓の演奏により、多くの方々に感動と笑顔をお届けすることができる日が戻ることを願っています。これからも、太鼓の演奏によって多くの方々とつながることができるよう、部員全員で楽しく、互いの演奏の技術を高め合いながら活動していきたいです。

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えそうな会話文や簡単な単語を覚えたり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。主に昼休みに活動しているため、お昼ご飯を食べながら楽しく練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、3月に行われる耳の日記念集会です。昨年度の耳の日記念集会は残念ながらコロナの影響で中止となりましたが、一昨年度の耳の日には「ありがとう」を手話コーラスで発表しました。発表では、多くの観客の皆さんを前に青年部の方と一緒に手話コーラスをしました。温かい雰囲気の中で発表を終えることができました。

また青年部の方々は、毎年交流会を行っています。昨年度は、午前中にグラウンドを使いドッジボールや鬼ごっこを行いました。昼食では手話やジェスチャー、携帯で文字を打ったりしながらお互いの趣味の話で盛り上がりました。午後は耳の日記念集会に向け、絢香の「虹色」と嵐の「ONE LOVE」を2グループに分かれて練習を行いました。どちらの表現の方が伝わりやすいのか、表情はどんな風にしたらよいのか、学生からも提案しながら手話コーラスを完成させました。青年部の方々との交流は手話の本を使うよりも大きな学びがあり、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで多くの方々との出会いがあり、手話でつながる楽しさを感じることができました。今後も、手話を通じたつながりを大切にして活動していきたいと思えます。

同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。手話で簡単な挨拶などのコミュニケーションが取れるようになることを1つの目標としています。また手話サークルは社会福祉学部の学生を中心に活動していますが、他学部も大歓迎です。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきたいので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思えます。よろしくお願いします。



イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にととめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンター（以下：災害VC）で中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発などを行っています。

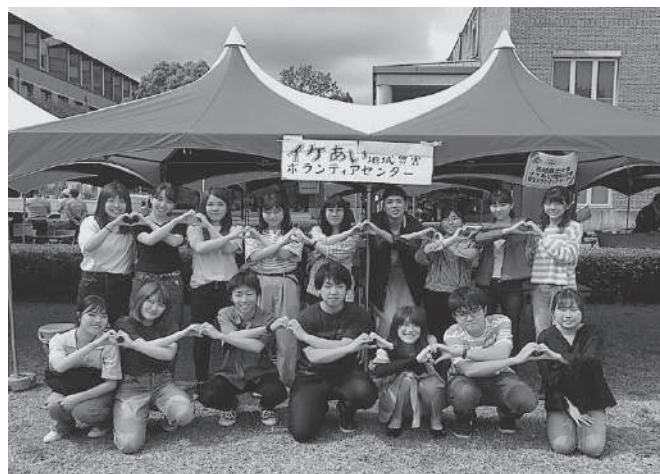
イケあいは、様々なイベントに参加して目的の達成を目指しています。池キャンパス付近の三里地区では毎年一緒に活動を行っており、地域のイベントに学生が参加したり、イケあいが主催するイベントに地域の人を招いたりして、信頼関係を築きながら互いに防災知識を高め合っています。三里地区以外にも、小学校から高齢者施設まで幅広い年代の人と触れ合いながら、高知県立大学の全学部の学生が専門知識を活かして活動しています。

また、高知大学や高知工科大学の防災サークルとも協働して、県内の大学生の防災意識の向上のためにイベントを企画し、知識の共有も行っています。他大学との交流により自分たちも刺激を受け、新たな活動や取り組みに繋がっているように感じます。

学内の活動では、発災時の募金活動や医療センターとの合同災害訓練があります。

昨年度は、学祭でも活動紹介や募金活動を行い、学生への防災啓発や台風19号の募金活動行うことができました。12月に行われた医療センターとの合同災害訓練にも参加し、災害VCについての知識を深めることができました。実際の災害が起こった場合、私たち学生には何ができるのか、何をすべきなのか改めて考え直すきっかけにもなりました。

地域や学生間での交流も大切ですが、イケあいはその中でも防災を取り入れる工夫を考え、実践しています。「楽しいからはじまる防災を大切に！」をモットーとして掲げるイケあいは、災害から生き抜くためにはどうすればいいのかを考えながら、これからも楽しく活動を続けていきます。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。2019年度のメンバーは社会福祉学部の4回生3名、3回生7名、2回生8名、1回生12名の合計30名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

- ・ 正面玄関や花壇の清掃
- ・ 滞在施設の花の植替えや水やり
- ・ 入院患者の入院室までの案内
- ・ 外来患者の案内
- ・ 図書サービス
- ・ バザーの準備、当日の手伝いや片付け
- ・ バザーの反省会兼交流会
- ・ クリスマスツリーの設置、片付け



などがあります。

同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当たっての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して、職員やボランティア関係者、患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

2019年度は、正面玄関や滞在施設の花壇や鉢の花の植替え・水やりを中心に行い、来院される患者さんの心を癒す空間をつくるよう心掛けました。また、前年度に続きクリスマスツリーを院内ロビーに設置することができ、患者さんや職員の方々にも喜んでいただくことができました。

本年度は活動の機会が少なかったため、次年度はより多くの活動を行なうことができればと考えています。メンバー1人1人が目標を持ち、職員やボランティア関係者、患者の方々との交流を大切にしながら2020年度も活動していきたいと思いをします。

かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、子どもから高齢者まで障害の有無，住んでいる地域関係なく誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』を目指し活動しています。

「援農」「YCPK」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「シグマ」と6つの分野に分かれ、学生と地域の主体性により活動に励んでいます。

◇援農

四万十市や安芸市などの中山間地域を訪問し農作業をツールとし住民と交流を図りながら、農作物を通して地域貢献に取り組んでいます。日曜市や高知県立大学の紅葉祭で活動地域の特産品を販売し、地域の方と協力しながら地域の魅力を発信しています。

◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また、高知県に留まらず香川にて防犯フォーラム、詐欺被害防止キャンペーン、一日署長体験などに参加し学生が積極的に防犯に対する知識を高めています。

◇タウンモビリティ

市内中心商店街の一角を拠点とする移動支援のNPO法人「ふくねこ」では、他大学と協力しながら、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。

◇学習支援

土佐希望の家、土佐市公民館などで学習支援を行っています。土佐市では子どもの居場所づくりの一環として子どもやその保護者が参加できるイベント（夏祭り・クリスマス会）を企画運営するなど、学習以外の面でも交流を図っています。

◇傾聴

講師をお招きし傾聴の目的や方法、効果などを学んだ上で、土佐市ゆうやけ食堂に参加し主に一人暮らし高齢者の方とコミュニケーションを図る活動をしています。

◇シグマ

女性と子どもの生活向上を目的に活動しています。DV防止のキャンペーンに参加することや、子ども達と自然の場で交流を図る活動を行っています。



援農：西土佐大宮での田植え



傾聴：土佐市ゆうやけ食堂への参加

～かんきもんでの活動を通じて、自分の興味・関心を広げ
机上では学ぶことのない、楽しさを体感し自分自身の成長へと繋げてほしいです～

P シ ス タ ー ズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学にある「立志社中」というプロジェクトに加入し、県内の幅広い地域で活動を行っている団体です。P シスターズは、地域住民の「主体性」を何よりも大切にしながら、住民の「やりたいこと」の実現を目的として活動しています。昨年度は、安芸市東川地区・津野町船戸地区・三原村・土佐清水市斧積地区の4市町村を中心に活動を行ってきました。

◇安芸市東川地区

地域の伝統文化である「獅子舞踊り」を地域住民の皆さんから直接指導をいただきながら練習を行い、学生が担い手となって伝統を継承しています。

◇津野町船戸地区

地域の方の「津野町の特産品であるお茶を PR したい」という声から、地域の方と協働し試案・試作を重ねた「津野町ほうじ茶どら焼き」を本学の大学祭にて販売しました。その他にも、地域で行われる様々なイベントに参加しています。

◇三原村

3年前、地域と学生が協力して65年ぶりに復活した「総社祭り」に毎年参加し、お神輿を担いだり、地域住民の皆さんから教えていただいた「太刀踊り」を子ども達と一緒に披露したり、伝統文化の継承に力を入れて取り組んでいます。

◇土佐清水市斧積地区

毎年9月に行われる「元気まつり」に参加し、座談会ではファシリテーターとして住民と地域の発展に向けた話し合いを行うなど交流を深めています。また、住民が行っているモーニング喫茶のお手伝いもさせていただいています。



津野町ほうじ茶どら焼きの販売



三原村総社祭り

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。

Facebook : @Psisters2018

Twitter : @_P__sisters

Society For Everyone

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。



そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動しています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためには、世界中の人が参加する協力体制が必要です。私たちはオックスファム・クラブとして国際的な視点からの課題と向き合うイベントを企画し、食糧問題、貧困問題を体感し、高知というコミュニティから変革を図っています。

昨年度は、世界の子どもの教育の現状について考える世界一大きな授業や地産地消が貧困解決の参加の一つであるという考えのもと、学祭で、南国市で育てたサツマイモをつかったサツマイモアイスの販売、エイズ蔓延の防止やエイズ患者に対する差別・偏見をなくすことを目的としたエイズデーでのフォトアクション、生協でのフェアトレードチョコレートの販売など様々な活動を行いました。

現在部員数は4年生6名、3年生6名、2年生2名の計14名で、高知県立大学両キャンパスのそれぞれで活動しています。

今年度は、OBの先輩方や、オックスファムで活動されていた方からより深く国際協力とは何か教えていただき、協力していただきながら、高知で私たち大学生ができる国際協力について考え、より多くのイベントを積極的に開催しようと企画しています。たくさんの方に国際的な現状について考えてもらえる機会を増やしていくため、広報なども積極的に取り組んでいきたいと思っています。



ボランティア活動

大熊 絵理 菜

○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

○本年度のボランティア参加状況

| 日 時 | 団 体 名 | 内 容 | 参加者 (人) |
|-----------------|-----------------------------|--------------------------|------------|
| 5月11日 | 介護老人保健施設あうん高知 | 和っしょい皆来い交流会 | 1 |
| 6月2日 | 高知県社会福祉協議会 第21回障害者スポーツ大会 | 運営補助・競技補助 | 73 |
| 6月15日 | 社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 | みなづき祭 | 1 |
| 7月12～14日 | 高知県、高知県社会福祉協議会 | 第1回ふくし総合フェア運営 | 71 |
| 7月14日 | 特別養護老人ホーム陽だまりの里 | 第25回納涼祭 | 1 |
| 7月16日 | 介護老人福祉施設グランボヌール | 夏祭り | 5 |
| 7月21日 | 社会福祉法人ザ・ハート・クラブ | 第25回夕涼み会 | 3 |
| 7月20日 | 社会福祉法人土佐厚生会 やながれ福祉施設センター | 八流納涼祭 | 1 |
| 7月22日～ 8月30日 | 地域活動支援センターあけぼの | 障害児支援 | 2 |
| 7月27日 | 社会福祉法人さわらび会 | 納涼祭 | 3 |
| 8月3日 | 社会福祉法人昭和会 昭光園 | 夏祭り準備、出店手伝い | 9 |
| 8月17日 | 介護老人福祉施設グランボヌール | 第25回布師田納涼祭 | 1 |
| 8月20日 | 特別養護老人ホームあざみの里 | レクリエーション | 1 |
| 9月14日 | 特別養護老人ホーム土佐清風園 | 敬老祭 | 2 |
| 9月29日 | 障害者支援施設アドレス・高知 | 秋祭りの準備及び 利用者の付添い | 2 |
| 10月5日 | 特別養護老人ホームうららか春陽荘 | 第12回うららか春陽祭 | 1 |
| 10月6日 | 高知県文化生活スポーツ部 | スポーツ JAM フェスタの イベント運営 | 2 |
| 10月13日 | 社会福祉法人土佐希望の家 | 希望の家祭 | 4 |
| 10月17日 | 若草特別支援学校国立高知病院分校 | 修学旅行付き添い | 2 |
| 10月26日 | 介護老人福祉施設グランボヌール | 地域感謝祭 | 4 |

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

| | | | |
|------------------|-------------------|---------------|-----|
| 10月21日～ 11月1日 | 若草特別支援学校土佐希望の家分校 | 修学旅行付き添い | 1 |
| 11月2日 | 児童心理治療施設さくらの森学園 | さくらの森学園秋祭り | 5 |
| 11月16日 | 多機能事業所香南くろしお園 | 第24回ふれあいくろしお祭 | 1 |
| 11月30日 | 医療法人永島会永井病院 | 医療と音楽の集い運営 | 1 |
| 12月27日 | 特別養護老人ホームウエルプラザ高知 | 餅つき行事 | 1 |
| | | 合計 | 198 |

今年度は延べ198名がボランティアに参加した。ボランティア先は高齢者施設や児童養護施設、障害者支援施設、地域活動等であった。ボランティア内容は、地域や施設のイベント等の運営補助が多く見られた。

例年1回生が参加している障害者スポーツ大会及びふくし総合フェアには、1回生のほぼ全学生が参加した。ボランティアに参加した学生は、参加して初めて知ること、学ぶことがあり、ボランティアへ参加することの大切さを体験していた。特に、実習施設のボランティアに参加することは、施設職員との顔合わせが出来ること、事前学習にもなり、学びの多い実習につながることを期待され参加学生も多かった。

しかし年度末は、コロナ感染拡大防止のため様々なイベントや行事が中止となり、ボランティアの依頼も無くなってしまった。次年度、ボランティアが再開されたとしても、感染についての正しい知識や予防について指導していくことも大切と考えられる。

V

卒業論文題目一覧(2019年度)

福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

| 教員氏名 | 題 目 |
|--------|---|
| 河内 康文 | 要支援高齢者の生きがいについて —インタビュー調査に基づく質的分析— |
| | 中山間地域における住民同士のつながりに関する一考察 —ソーシャル・キャピタルの視点に着目して— |
| 杉原 俊二 | 地域コミュニティにおける「こども食堂」の役割 —地域のニーズにあわせた活動の比較— |
| | 発達障害と非行との関連 —ADHD児への支援を中心に— |
| 鈴木 孝典 | 精神保健福祉士教育の課題 —精神保健福祉士に係る政策と実践との関連からの整理— |
| | 援助関係論を仏教的視座から再評価する —早川の唯識論に基づく哲学的思想から— |
| | 身体障害を持つ人が福祉教育を通じて子どもたちに知ってほしいこと |
| | 大学生の自殺要因と予防的支援に関する一考察 —第1次予防に焦点を当てて— |
| | 社会福祉協議会の地域福祉実践と集落機能の維持・向上の関連 —「小さな拠点」づくりに焦点を当てて— |
| | うつ病に罹患した親をもつ子の経験とその支援に関する研究 —大学生に焦点を当てて— |
| | 大学生の携帯型情報端末機器の使用とQOLとの関係に関する研究 |
| 田中 きよむ | 住民の地域愛着形成に関する一考察 —居場所づくりに焦点をあてて— |
| | ひきこもりと家庭環境のあり方における一考察 |
| | 母親と周囲の人における「心のバリア」の関係性 —自閉症児をもつ母親のインタビューから— |
| | ひきこもり当事者の就労支援の在り方に関する一考察 —発達障害者に対する農福連携に焦点を当てて— |
| | 高齢者が利用する送迎サービスの役割について —地域住民の通院ニーズを事例として— |
| | 生活保護受給者の自立支援の在り方に対する一考察 —社会的自立に焦点を当てて— |
| | 在宅で介護を行う家庭での家族関係のあり方に関する一考察 —ケアマネージャーの聞き取り調査を踏まえて— |
| 遠山 真世 | 中途失聴者の障害受容過程に関する研究 |
| | 知的・発達障害児(者)との交流がもたらす態度・意識に関する研究 |
| | 中・軽度知的障害者の望む地域生活に向けた支援に関する研究 —障害福祉サービス事業所の支援者を対象として— |
| 長澤 紀美子 | フィリピンのスラム街に暮らす10代女子の抱える課題とその支援に関する一考察 |
| | 愛着形成に問題がある子どもに対して安全基地になるための関わり方 —児童養護施設職員への支援からの考察— |
| | 性非行児童に対する支援について —非行の加害性と被害性に着目して— |
| | 経済的支援としての母子父子寡婦福祉資金貸付制度の在り方 —母子父子自立支援員の支援に着目して— |
| | 父子手帳の活用による子育て分担を促進するための効果的な方策について |
| 西内 章 | 慢性疾患をもつ人の意思決定に関する一考察 —Aさんのライフストーリーをもとに— |
| | 専門職協働による事例研修会を活用した支援方法について —発達障害およびSOGIの特性理解に着目して— |
| | 自閉症スペクトラムの子どもへの支援方法に関する一考察 —本人の状況と周囲の理解不足に着目して— |
| | 相談援助実習における身だしなみに関する一考察 |
| | 介護が必要な高齢者の喪失体験と意識に関する一考察 |
| | 生活困窮者支援において相談支援員が用いる自己開示の実践について |
| | 精神障害者に対する精神保健福祉士の向き合い方と地域の仕組みづくりに関する研究 |

| | |
|--------|--|
| 西梅 幸治 | 小学校の通常学級における特別な支援を要する子どもに対するチームアプローチ —スクールソーシャルワーカーの役割に着目して— |
| | 虐待を受けた思春期の子どもに対する一時保護所での支援 —子どもの強みを活かした生活支援に着目して— |
| | 感情表出が難しい小学校の子どもに対する支援 —スクールソーシャルワーカーの関わりを通じて— |
| | 障害のある当事者と学生ボランティアによるパートナーシップ形成の必要性 —共に形づく地域活動に着目して— |
| | トランスジェンダーの子をもつ親の性に関する認識の変化 —性をめぐるナラティブをとおして— |
| | 児童養護施設におけるレジデンシャル・ソーシャルワークの意義と課題 二次障害を有する自閉症スペクトラム児の母親に対する地域支援 —母親へのインタビューをとおして— |
| 福岡 隆康 | ミニマリストと意思決定に関する一考察 —時間的展望の視点より— |
| | 「地域における公益的な取組」の現状と課題に関する一考察 —社会福祉法人の取組事例より— |
| | 高知県の地方創生に関する一考察 —観光による地域課題解決に着目して— |
| | 世代間交流が子どもと高齢者双方に及ぼす影響について —世代間交流施設でのインタビュー調査から— |
| | 介護職員の職場定着に関する一考察 —リーダーシップが離職意向に及ぼす影響に着目して— |
| | 女性が働きやすい職場環境とは —子育てと仕事の両立に必要な支援— 大学生生活要因が就職活動の結果に及ぼす影響 —職業人を対象とした定量的分析— |
| 丸山 裕子 | 保育現場における「気になる子」への支援 —事例を通して考察するソーシャルワーカーに期待される役割— 子どもたちの遊びの意味と成長 —空間・わくわく・友達・プレイリーダー— |
| | 人工知能研究過程から考えるソーシャルワーカーの存在意義 —「変化」に着目して— |
| | エンド・オブ・ライフケアにおけるMSWの役割 —ACPを切り口に— |
| | 退院支援におけるMSWの取り組み —事例から考察する患者を含む家族支援— |
| | 映画を通じて考察する価値の形成過程 —内発的義務を手掛かりに— |
| | MSWが患者の自己決定を支援する姿勢について —急性期病院の退院支援に着目して— 高齢者の主観的幸福感に関する研究 —一人暮らしの高齢者に焦点を当てて— |
| 宮上 多加子 | 対人援助におけるコミュニケーションの意義と特徴 |
| | 認知症の家族介護における情報収集について |
| | スポーツが高齢者に与える影響について |
| | 患者の障害の受容とソーシャルワーカーの支援 —脳卒中による後遺症に焦点を当てて— |
| 三好 弥生 | 障害者支援施設における身体障害者の終末期ケアに関する研究 |
| | 認知症高齢者に対する音楽を用いたケアについての一考察 |
| | 高齢者の居場所に関する研究 —高齢者の主体性に着目して— |
| | 特別養護老人ホームにおける要介護高齢者の不眠ケアの一考察 |
| 横井 輝夫 | なぜ人は犬に癒されるのかについての一考察 —過去の研究成果の整理を通して— |
| | 女性のアルコール依存症の特徴 |
| | フランクルの言葉から生きる意味を考察する |
| | セクシュアル・マイノリティに対する態度からみた差別を解消する視点の提示 |
| | スピリチュアルペインに関する一考察 発達障害児・者の一生涯における課題と支援 |

編集後記

社会福祉学部報第22号をお届けします。

本学部報は、令和元年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。新元号となり、日本国中で平成が終わる名残惜しさとともに、何か新しいことが始まる期待感に包まれたスタートとなったように思います。学部としても今年度は、3名の先生方を新しくお迎えし、一新しましたが、それにもかかわらず学部長を中心にとってもスムーズな学部運営であったと感じています。

学生たちも、特に4回生は自分たちの力でよく頑張りました。国家試験の合格率は、一つの指標に過ぎませんが、社会福祉士の合格率は78.6%（新卒のみ）であり、70名定員となってから歴代2位の合格率という結果になりました。また精神保健福祉士の合格率は、93.8%（新卒のみ）であり、介護福祉士の合格率についても100%という輝かしい成果に結びつきました。しかしながら、年度末にはコロナウイルスの流行に伴い、各種行事の中止、特に卒業式も全体では中止となり、学生生活の最後の時を共有し、送り出す機会を失ったことは残念でなりません。

毎年のように色々な変化はありますが、本学部は開設以来、学生たちの主体性を大切にしてきた風土があるように思います。その雰囲気を大切にしながら、地域の関係機関や多くの関係のある皆様のご支援ご協力のもと、高知県はもとより国内外で活躍する社会福祉専門職を養成するという使命をこれからも果たしていきたいと考えています。オリンピックも延期となった新年度は、引き続き感染症対策が問われるところですが、より良い教育・研究体制や専門職養成のあり方を模索しながら、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思えます。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解ご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 西梅 幸治

高知県立大学社会福祉学部報

第22号

発行日：2020年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

